

第3期横浜市障害者プラン中間見直しについて

1 プランの概要

「第3期横浜市障害者プラン」は、平成27年度から平成32年度までの6年を計画期間としています。このプランは、障害者基本法に基づき本市における障害者に関する基本的な施策の方向性及びその実現のために必要な個別の事業等を定める計画である「障害者計画」と、障害者総合支援法に基づき円滑にサービス提供が進むよう、障害福祉におけるサービスごとに必要な利用の見込み量等を定める「障害福祉計画」の二つの性質を持つ計画です。

このうち、「障害福祉計画」については、障害者総合支援法により3年ごとに定めることとなっています。

平成28年の児童福祉法改正に伴い、平成30年度から新たに「障害児福祉計画」の策定が義務付けられましたが、本プランは、「ライフステージを通じた一貫した支援」への視点を持ち、障害児の施策及び障害福祉サービスごとに必要な利用の見込み量等についても既に定めています。そこで、本市では「障害福祉計画」のうち障害児を対象とした部分については、今回より「障害児福祉計画」と位置付け、併せて「障害者計画」の個別事業についても見直しを行います。

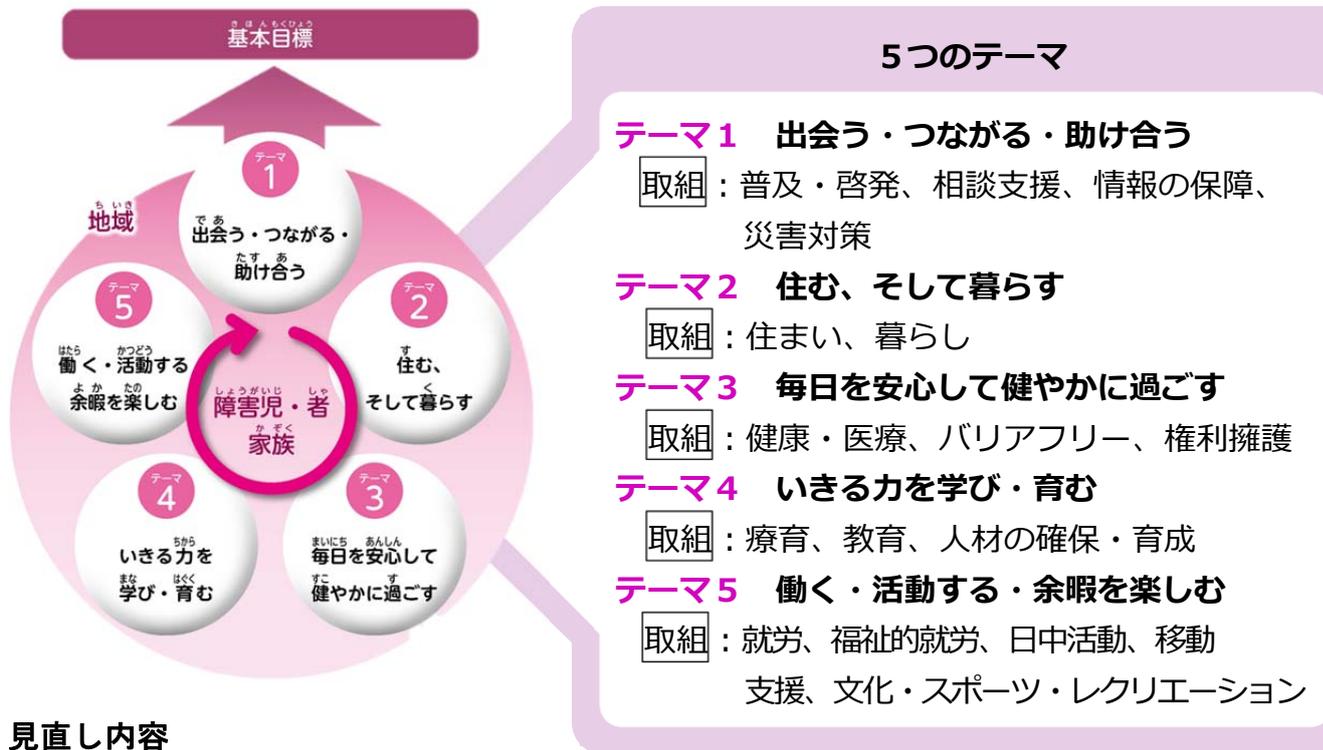
また、平成28年7月の県立障害者支援施設「津久井やまゆり園」で発生した事件を踏まえ、障害があっても一人の市民として、住み慣れた地域で当たり前のように生活していける共生社会の実現に向け、各種の取組を一層推進していきます。

【参考】障害者プラン構成図

第 3 期 横 浜 市 障 害 者 プ ラ ン							該当する法定計画
年度	27	28	29	30	31	32	
構成	施策の方向性 (H27一定議決)						障害者計画
	個 別 事 業						
	サービス利用の見込み量			サービス利用の見込み量			障害福祉計画
			うち、障害児におけるサービス利用の見込み量			障害児福祉計画 (平成30年度～)	

2 プランの全体像

本プランでは、「自己選択・自己決定のもと、住み慣れた地域で、安心して、学び・育ち・暮らしていくことができるまち、ヨコハマを目指す」を基本目標として掲げ、障害児・者の生活を「5つのテーマ」に分類し、施策を進めています。



3 見直し内容

「障害福祉計画」及び「障害児福祉計画」に係る部分については、障害者総合支援法・児童福祉法をはじめとした関係法令の改正並びに国の基本指針等の内容を踏まえ、平成30年度からの後期3年間の障害福祉における、サービスごとに必要な利用の見込み量等を設定します。

併せて、「障害者計画」の個別事業についてもニーズの動向等を踏まえながら必要に応じて内容の見直しを行います。

【参考】国の基本指針(厚生労働省告示第160号・平成29年度3月31日)の要旨

- (2) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築
 - ・保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置
 - ・精神病床における1年以上長期入院患者数の目標値の設定
 - ・入院後3か月、6か月、1年以上の退院率の目標値の設定
 - (3) 障害児支援の提供体制の計画的な整備
 - ・医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置
 - (4) 発達障害者支援の一層の充実
 - ・発達障害者地域支援マネジャーの適切な配置等
 - (5) 難病患者への一層の周知
 - ・難病患者等の障害福祉サービス等の活用が促されるようにすること
 - (6) 障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の提供体制の確保に係る目標の設定
 - ・就労定着支援利用者数 (※)
 - ・自立生活援助利用者数 (※)
 - ・居宅訪問型児童発達支援利用児童数及び量の見込み (※)
 - ・医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置人数
- ※ 国が事業詳細を示した後、地域の実情等を基に設定します。

4 当事者等からの意見聴取

(1) ニーズ把握

ア 当事者ワーキング 全5回開催 <延べ参加者数：約80人>

イ 関係者団体グループインタビュー<計8団体、計8回>

横浜市身体障害者団体連合会／横浜市心身障害児者を守る会連盟
／横浜市精神障害者家族連合会／横浜市知的障害関連施設協議会
／横浜市障害者地域作業所連絡会／横浜市地域活動ホーム連絡会
／横浜市グループホーム連絡会／横浜市精神障害者地域生活支援連合会

ウ 障害児支援等に関する関係者団体アンケート調査及びヒアリング

<計3団体、計3回>

横浜障害児を守る連絡協議会／横浜重心グループ連絡会～ぱざぱネット～
／横浜市自閉症児・者親の会

(2) 当事者ワーキングや関係者団体グループインタビュー等で頂いた御意見（抜粋）

- ・ 障害理解を言葉で進めるだけでは難しい。交流や体験を通じて学ぶことが大切。
- ・ 差別はダメという強いメッセージを。
- ・ 身体障害があり特別支援学校に通ったが、今思えば統合教育の場で勉強が出来ていたらと思うことがある。
- ・ 津久井やまゆり事件はぜったいだめ。
- ・ 地域啓発する場が少ない。自治会や住民の集まりの場で障害理解の勉強会の開催を行う。
- ・ 計画相談事業所を増やすための、具体的な方向性を明示してほしい。
- ・ グループホームの空き状況がわからない。
- ・ 知的障害をよく知る医師・看護師の育成が必要。
- ・ 療育センター、家庭、学校、事業所が無理なく繋がれる療育を。
- ・ 障害児の保育所・放課後児童健全育成事業等での受入れ推進のため、更に職員の障害理解が必要。
- ・ あらゆる手段を検討し、人員・人材不足による福祉施策の滞りや偏りがないような施策を講じてください。
- ・ 障害者もできる作業をもっと増やしてほしい。
- ・ 本人たちが楽しめる場があるとよい。
- ・ 文化に触れる機会を増やすための仕組みが必要。

5 振り返り及び見直し内容（テーマ別）

＜参考資料1「第3期横浜市障害者プラン中間見直し 詳細版」より抜粋＞

テーマ1 出会う・つながる・助け合う

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	振り返り	平成29年度		評価	平成32年度目標
		目標	現状		
当事者や障害福祉関連施設、市民団体等による普及・啓発活動への支援	・セイフティーネットプロジェクト横浜による出前講座の開催など障害理解に向けた普及・啓発活動を実施。	推進	出前講座等の実施	○	推進
相談支援事業の周知及び普及・啓発	・全区の法人型地活ホームに相談員を配置し、「基幹相談支援センター」として位置付け相談支援機能を強化。	推進	相談支援の強化・普及	○	推進
発達障害者支援センター運営事業	・発達障害者が身近な地域で相談を受けられるよう各区福祉保健センターに特定相談日を設定。 (平成27年度プラン策定時：3区実施)	特定相談日実施区18区	全区実施	○	推進
合理的配慮を踏まえた情報発信のルール化	・「障害者差別解消の推進に関する取組指針」等を策定。 ・聴覚障害のある人へタブレット端末を活用した手話通訳サービスの提供による区役所窓口における対応の充実。	推進	実施	○	推進
当事者による相談の充実 (ピア相談)	・ピア相談員の派遣依頼が無く、実績が上がっていない。	実績の検証	派遣相談等の取組の周知不足	△	18区の法人型地活ホームにおいて派遣相談の活用
【新規】 「地域共生社会」の実現に向けた取組等の推進	【事業内容】 地域のあらゆる方が「支え手」と「受け手」に分かれるのではなく、地域、暮らし、生きがいとともに創り、高めあうことができる「地域共生社会」の実現に向けた取組等の推進。	—	—	—	推進
【新規】 難病患者等への必要な情報提供	【事業内容】 難病患者等、本人に対して必要な情報提供を行うこと等により、難病患者等の障害福祉サービス等の活用が促されるよう検討。	—	—	—	推進

【評価欄の凡例】 ○：想定した目標を達成し、想定したとおりの効果が得られた。

△：一定程度の効果は得られた。

×：想定した目標は達成できず、効果も得られなかった。

(2) 「障害福祉計画」に係るサービス見込み量等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
手話通訳者の派遣	8,900人 実績：7,897人	9,500人 実績：8,343人	9,900人 見込：9,900人	10,000人	10,500人	11,000人
計画相談支援利用者数	21,500人 実績：4,777人	23,000人 実績：5,662人	24,500人 見込：8,000人	22,000人	23,000人	24,000人
【新規】 発達障害者支援センター及び発達障害者地域支援マネジャーの外部機関や地域住民への研修、啓発	—	—	—	60件	65件	70件

テーマ2 住む、そして暮らす

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	振り返り	平成29年度		評価	平成32年度目標
		目標	現状		
行動障害のある方の住まい検討	・発達障害者支援センターに新たに地域支援マネジャー2人を配置。 (平成29年10月には2人増員予定) ・障害福祉サービス事業所等に対する行動障害・発達障害に係るコンサルテーションを実施。	推進	地域支援マネジャーの配置 (計4人)	○	推進
自立生活アシスタント	・単身等で生活する障害者が身近な地域で支援が受けられるよう、各区で体制整備を進め、平成28年度から全区実施。 (平成27年度プラン策定時：36か所)	事業所数 40か所 (全区実施)	事業所数 40か所 (全区実施)	○	推進
後見的支援制度	・親亡き後も安心して地域生活が送れる仕組みとして、平成27、28年度に、実施区をそれぞれ2区ずつ増やし、全区実施。 (平成27年度プラン策定時：14区)	全区実施	全区実施	○	推進
障害児施設の整備・再整備	・平成27年度に福祉型障害児入所施設「ぶどうの実(旧白根学園児童寮)」再整備完了。 ・重症心身障害児者施設について「横浜医療福祉センター港南」を平成28年6月に開所、「横浜療育医療センター」を平成28年度に再整備完了。 ・平成29年度には「ぽらいと・えき(旧横浜市なしの木学園)」の再整備完了予定。	工事完了 4か所	工事完了 4か所	○	施設状況等により検討
多機能型拠点の整備・運営	・常に医療的ケアを必要とする重症心身障害児・者の地域での暮らしを支援するため、相談支援、生活介護、訪問看護サービス及び短期入所などを一体的に提供できる多機能型拠点の3館目が、平成29年4月に瀬谷区に開所。 (平成27年度プラン策定時：2か所)	開所2か所 (累計4か所)	開所1か所 (累計3か所)	△	開所3か所 (累計6か所) (整備完了)
【新規】 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築	【事業内容】 精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしく暮らすことができるよう、保健、医療、福祉関係者による協議の場を設置し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを構築。	—	—	—	推進

(2) 「障害福祉計画」に係るサービス見込み量等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
共同生活援助(グループホーム)利用者数	3,700人	3,900人	4,100人	4,352人	4,552人	4,752人
	見込:3,762人	見込:3,959人	見込:4,152人			
地域生活支援拠点の整備※	検討	検討	1か所	2か所	18か所	18か所
	見込:検討	見込:検討	見込:検討			

※ 国の基本指針で、整備完了目標年が「平成29年度末まで」から「平成32年度末まで」に延長。

テーマ3 毎日を安心して健やかに過ごす

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	振り返り	平成29年度		評価	平成32年度目標
		目標	現状		
医療機関連携事業	・障害特性等を理解し適切な医療を提供できる医療機関として、知的障害者専門外来を3病院で開設。 (平成27年度プラン策定時：2病院)	推進	開設4病院(見込み)	○	推進
精神科救急医療対策事業	・精神科救急に対応する診療報酬を取得している病院の役割を整理し、精神科救急に係る指針を作成。 ・平成28年度には、深夜帯に急性期の患者の受け入れを行う民間病院を週5回に増やし、平成29年度には毎日通年稼働。 ・救急受入病院に、切れ目が生じやすかった夕方の時間帯において市内病院の輪番制を強化。	推進	実施	○	推進
(障害者差別に関する)相談体制等の整備	・平成28年度に「横浜市障害者差別解消支援地域協議会」を設置し、相談事例の共有及び相談対応の検討。 ・解決が図られなかった差別事案のあつせんを行う「横浜市障害者差別の相談に関する調整委員会」を設置。	推進	実施	○	推進
医療従事者研修事業	・医療機関や福祉施設等に勤務する看護師を対象に「小児訪問看護・重症心身障害児者研修」を毎年度実施。	推進	実施	○	推進
医療機関ネットワーク等の構築	・重症心身障害児・者を対象としたアンケート結果を活用し、医療的ケアを要する障害児・者の生活を支えるための支援体制の構築を検討。	実態把握及び医療ネットワーク検討と構築	検討	○	推進
法人後見支援事業	・平成26年度から法人後見支援事業を実施し、法人後見実施団体や受任を目指す団体の連絡会等を開催。 ・障害のある方の家族や支援者向けの成年後見制度のパンフレットを作成。	推進	実施	○	推進
【新規】 医療的ケア児・者等の支援のための関係機関の協議の場の設置	【事業内容】 医療的ケア児・者等が適切な支援を受けられるよう、平成30年度末までに、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設置します。	—	—	—	推進

(2) 「障害福祉計画」及び「障害児福祉計画」に係るサービス見込み量等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
申立て及び報酬助成件数 (成年後見制度)	72人	79人	87人	173人	202人	232人
	見込:90人	見込:118人	見込:161人			
【新規】 医療的ケア児・者等に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置	—	—	—	準備	1人	1人

テーマ4 いきる力を学び・育む

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	振り返り	平成29年度		評価	平成32年度目標
		目標	現状		
特別支援学校におけるICT機器の活用	・平成26～28年度の3か年で全ての特別支援学校(12校)でタブレット端末の実践研究を実施し、平成26年度中間報告、29年度最終報告(予定)。	推進	実施	○	推進
障害特性に応じた支援のための研修	・障害福祉サービス事業所等の職員を対象に、行動障害に係る支援力向上を図るための研修を市内法人が共同して「オール横浜」として実施。 (平成28年度:2回実施)	推進	実施	○	推進
学齢後期障害児支援事業	・相談対応延べ件数は増加傾向にあり、4か所目の事業実施を検討。 (平成27年度プラン策定時:3か所)	4か所	3か所	△	4か所
就学・教育相談の体制強化	・平成28年度は4,267件の就学・教育相談を実施。前年度に比べ約300件増加したため、関係機関との更なる連携を検討。	推進	平成29年度:4,300件(見込み)	△	推進
学生等を対象とした人材の確保事業	・平成27年「福祉のしごとフェア」に関連団体と参画。 ・障害福祉人材不足の解決に向け、民間事業者と協働して、有効な広報や打聞策を検討。	推進	実施	△	推進

(2) 「障害児福祉計画」に係るサービス見込み量等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
障害児相談	4,000人 実績:1,771人	4,500人 実績:2,630人	5,000人 見込:3,950人	5,700人	6,400人	7,000人
放課後等デイサービス事業	130か所 実績:162か所	165か所 実績:217か所	200か所 見込:262か所	300か所	350か所	推進
	229,000人※ 実績:350,782人※	298,000人※ 実績:521,130人※	368,000人※ 見込:656,000人※	720,000人※	840,000人※	推進

※ 年間の延べ利用人数

【新規】 子ども・子育て支援等(保育所、放課後児童健全育成事業所等)における障害児の受入れ体制の整備	—	—	—	関係機関と連携し、子ども・子育て支援等(保育所、放課後児童健全育成事業所等)へ、保育所等訪問支援、巡回訪問及び研修等を拡充することにより、利用を希望する障害児の受入れ体制の整備を引き続き推進。		
【新規】 居宅訪問型児童発達支援	—	—	—	国が事業詳細を示した後、地域の実情等を基に設定。		

テーマ5 、働く・活動する・余暇を楽しむ

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	振り返り	平成29年度		評価	平成32年度目標
		目標	現状		
働きたい！あなたのシンポジウム	シンポジウムを開催し、当事者・御家族等に対して就労啓発を実施（平成27～28年度参加者数累計：824人）	参加者累計 600人	平成29年度 参加者数 累計 1,224人	○	参加者累計 3,000人
移動情報センター運営等事業の推進	・移動情報センターの窓口を平成28年度までに15区に設置。平成29年度に新たに3区で開設し、全区展開予定。 （平成27年度プラン策定時：9区）	相談件数 2,500件	平成29年度 相談件数 2,500件 （見込み）	○	相談件数 3,600件
障害者スポーツの啓発	・他都市取組の情報収集を進めると同時に、障害者スポーツ体験会を市内公立学校を中心に開催。 ・横浜マラソンの寄付金を活用し、リオパラリンピック出場選手への助成金の交付や、リオパラリンピックの撮影を行った写真家の写真展を開催し、オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた啓発活動を実施。	啓発方法の 検討	実施	○	推進
よこはま障害者共同受注総合センターの運営	・平成27年度にセンターを開設。 ・市内障害者施設等の登録を進め、作業内容などの情報を集約し、WEBで周知を実施したほか、工賃向上のため、企業訪問やパンフレットの改訂、技術指導を実施。 ・工賃総額は増加したものの、加盟施設及び利用者の増により平均工賃は目標を下回る見込み。 （平成27年度平均月額工賃：10,200円）	加盟施設における「月額平均工賃」が10%以上上昇	加盟施設における「月額平均工賃」の維持（見込み）	△	加盟施設における「月額平均工賃」が10%以上上昇

(2) 「障害福祉計画」に係るサービス見込み量等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
就労移行支援事業	657人分	807人分	898人分	1,376人分	1,628人分	1,949人分
	実績：830人分	実績：950人分	見込：1,036人分			
	10,911人※	13,683人※	15,252人※	24,241人※	29,130人※	35,486人※
	実績：13,988人※	実績：16,116人※	見込：18,176人※			
移動支援事業（移動介護・通学通所支援）	668,820時間分	668,978時間分	709,744時間分	724,125時間分	745,849時間分	768,224時間分
	実績：659,335時間分	実績：682,557時間分	見込：703,034時間分			
	4,546人分	4,819人分	5,109人分	5,898人分	6,134人分	6,379人分
	実績：5,105人分	実績：5,401人分	見込：5,671人分			

※ 月の延べ利用人数

6 今後のスケジュール（予定）

日 程	内 容	
9月25日 ～10月	中間見直し報告	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意見募集（9月25日～10月25日） ・市民説明会・関係者団体説明
11月	市民意見募集報告	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市自立支援協議会 ・第3回横浜市障害者施策検討部会 ・第2回横浜市障害者施策推進協議会
12月		<ul style="list-style-type: none"> ・常任委員会へ報告
1月	第3期横浜市障害者プラン改訂版報告	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回横浜市障害者施策検討部会
2月		<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市自立支援協議会 ・第3回横浜市施策推進協議会 ・常任委員会へ報告

だい き 第 3 期

よこはまししょうがいしゃぷらんちゅうかんみなお 横浜市 障害者プラン 中間見直し

しょう さい ばん 詳 細 版

※この冊子には、今回見直されたすべての取組・事業が掲載してあります。この中には、「現プランに掲載されているが、今回の見直しを経て後期3年間（平成30年度～32年度）のサービス見込み量等を設定したものと、「国の基本指針等を踏まえて新たに取組む事業（今まで掲載されていなかった事業）」の2種類によって構成されています。現プランの第3章（46頁～127頁）を基に作成しています。

【凡例】

＜事業名欄＞

- ㊦：「障害福祉計画」で定めるサービス等の見込み量等を指します。
- ㊧：「障害児福祉計画」で定めるサービス等の見込み量等を指します。
- 【新規】㊨：国の基本指針等（平成29年3月31日告示）を踏まえ新たに実施する事業を指します。
- ㊩：第2期であるしん施策として開始した事業を指します。
- ※ 上記以外のものは障害者計画の個別事業を指します。

＜評価欄の説明＞

- ：想定した目標を達成し、想定したとおりの効果が得られた。
- △：一定程度の効果は得られた。
- ×：想定した目標は達成できず、効果も得られなかった。

目次

テーマ1 出会う・つながる・助け合う

とりくみ 取組1-1	ふきゅう けいはつ 普及・啓発	…… 1	とりくみ 取組1-2	そうだん しえん 相談・支援	…… 5
とりくみ 取組1-3	じょうほう ほしように 情報の保障	…… 14	とりくみ 取組1-4	さいがいたいさく 災害対策	…… 17

テーマ2 住む、そして暮らす

とりくみ 取組2-1	すまい 住まい	…… 20	とりくみ 取組2-2	くらし 暮らし	…… 30
---------------	------------	-------	---------------	------------	-------

テーマ3 毎日を安心して健やかに過ごす

とりくみ 取組3-1	けんこう いりょう 健康・医療	…… 38	とりくみ 取組3-2	ばりあふりー バリアフリー	… 49
とりくみ 取組3-3	けんりようご 権利擁護	…… 53			

テーマ4 いきる力を学び・育む

とりくみ 取組4-1	りょういく 療育	…… 61	とりくみ 取組4-2	きょういく 教育	…… 67
とりくみ 取組4-3	じんざい かくほ いくせい 人材の確保・育成	…… 77			

テーマ5 働く、活動する・余暇を楽しむ

とりくみ 取組5-1	しゅうろう 就労	…… 82	とりくみ 取組5-2	ふくし てきしゅうろう 福祉的就労	…… 87
とりくみ 取組5-3	にっちゅうかつどう 日中活動	…… 89	とりくみ 取組5-4	いどうしえん 移動支援	…… 92
とりくみ 取組5-5	ぶんか すぽーつ れくりえーしょん 文化・スポーツ・レクリエーション	…… 96			



◆持続的な普及・啓発の促進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
とうじしゃ しょうがいふくし 当事者や障害福祉 かんれんしせつ 関連施設、 しみんだんたいとう 市民団体等による ふきゅう けいはつかつどう 普及・啓発活動へ の支援	せいふてい-ねつとぶろじえくと セイフティーネットプロジェクト よこはま しょうがいふくしかんれんしせつ しみん 横浜(*1)や障害福祉関連施設、市民 だんたいとう しょうがいりかい 団体等による障害理解のための けんしゅう こうえん ちいきかつどう しえん きょうどう 研修や講演、地域活動を支援・協働 するなど、様々な普及・啓発を推進し ます。 <振り返り> しょうがいふくしかんれんしせつ じっし しょうがい 障害福祉関連施設が実施する障害 りかい かん じぎょう けいひめん しえん 理解に関する事業を経費面で支援し ました。また、せいふてい-ねつとぶ ろじえくとよこはま だまごうざ かい プロジェクト横浜による出前講座の開 さい しょうがいりかい む ぶきゅう けい 催など、障害理解に向けた普及・啓 はつかつどう じっし 発活動を実施しました。	すいしん 推進*2	だまごうざとう 出前講座等 のじっし 実施	○	すいしん 推進	
しょうがいしゃほんにんおよ 障害者本人及び かぞく ぶきゅう 家族による普及・ けいはつかつどう すいしん 啓発活動の推進	しゃかいさんか すいしん せん た - ちゅうしん 社会参加推進センターが中心とな り、しょうがいしゃほんにん かぞくおよ かくだんたい 障害者本人、家族及び各団体と れんけい きょうどう しょうがいりかい そくしん む 連携・協働し、障害理解の促進に向 けたふきゅう けいはつかつどう すいしん 普及・啓発活動を推進します。 <振り返り> しゃかいさんか すいしん せん た - とう ぶ 社会参加推進センター等により、普 きゅうけいはつり-ふれつと さくせいおよ けいはつ 及啓発リーフレットの作成及び啓発 こうざとう じっし 講座等を実施しました。	すいしん 推進	ぶきゅうけいはつ 普及啓発 り-ふれつ リーフレッ トのさくせいおよ 作成及び 啓発講座 とう じっし 等の実施	○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせいねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせいねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しっぺい しょうがい 疾病や障害に かん しょうほう はっしん に関する情報の発信	<p>ほーむぺーじ などの媒体を活用して、しっぺい しょうがい 疾病や障害に関する じょうほう しえん 情報や支援にかか かつどう しょうかい 紹介し、しみん とうじ 市民や当事者・関係者の理解促進に努めます。</p> <p><振り返り> ねんど じょうほうこうしん 年度ごと情報更新をし、しょうかい 紹介しました。</p>	すいしん 推進		じっし 実施		△	すいしん 推進	
かくく ふきゅう けいはつ 各区の普及・啓発 かつどう そくしん 活動の促進	<p>かくく じゅうみん たい 各区の住民に対して、しっぺい しょうがい 疾病や障害等 たい りかい ふか に対する理解を深めるための研修や けいはつかつどう しえん おこな 啓発活動の支援を行います。</p> <p><振り返り> かくくどくじ ちいきとくせい おう ふきゅう 各区独自で地域特性に応じた普及・ けいはつかつどう 啓発活動をしました。</p>	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	

* 1…セイフティーネットプロジェクト横浜は、横浜市内の15の障害福祉関係団体と機関で組織されています。当事者や家族が主体となって、自分たちのできることから活動していくことを大切にしながら、地域の人々へ様々な障害についての理解を深めてもらい、障害のある人が地域で安心して暮らしていけるよう、活動しています。

* 2…「推進」とは、継続して着実に取り組むことを表しています。



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
<p>こうしゅ ず が こうさく 4校種 図画工作・ びじゅつ しやうさくひんてん 美術・書道作品展 とくべつしえんきやういくぶもん 特別支援教育部門 ~つたえたい ぼく のおもい わたしの かいさい きもち~の開催</p>	<p>こうしゅ しやう ちゅう こう とくべつしえん 4校種（小・中・高・特別支援）の ようじ じどうせいと さくひん いちどう あつ 幼児児童生徒の作品を一堂に集め、 しみんこうかい さくひんてん かいさい 市民公開の作品展を開催することで、 しょうがい こ ぶんかかつどう かん 障害のある子どもの文化活動に関す る普及・啓発を図ります。 ふ きゅう けいはつ はか <振り返り> こうしゅ しやう ちゅう こう とくべつしえん 4校種（小・中・高・特別支援）の ようじ じどうせいと さくひん いちどう あつ 幼児児童生徒の作品を一堂に集め、 しみんこうかい さくひんてん かいさい まいとし まん 市民公開の作品展を開催し、毎年1万 にん こ しみん らいじょう 人を超える市民が来場しています。 また、へいせい ねんど えぬびーおーほうじん 平成28年度にはNPO法人の こうえん う てんじ ばねる あたら 後援を受け、展示するパネルを新し くすることができました。</p>			すいしん 推進	さくひんてん 作品展を かいさい 開催	○	すいしん 推進	
<p>しんき 【新規】 ちいききやうせいしゃかい 「地域共生社会」 じつげん む の実現に向けた とりくみとう すいしん 取組等の推進</p>	<p>ちいき かた ささ て う 地域のあらゆる方が、「支え手」と「受 て わ け手」に分かれるのではなく、ちいき く い つく たか 暮らし、生きがいをともに創り、高め あうことができる「地域共生社会」 じつげん む ちいききやうせいしゃかい の実現に向けた取組等を推進してい きます。</p>	—	—	—	—	—	すいしん 推進	



がくれいき じゅうてんてき ふきゅう けいはつ ◆学齢期への重点的な普及・啓発

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
がくれいきじどうおよ 学齢期児童及び ほごしゃ しょうがい 保護者への障 害 りかいはつ 理解啓発	<p>しない どうじしゃだんたいどう きょうりよく え 市内の当事者団体等の協力を得ながら、障 害理解を進める 教材等を、きょういく いいんかい れんけい 教育委員会と連携しながら作成します。また、それとともに、がくれいき じどう と保護者が、しょうがいじ しゃ いっしょ 一緒に関わ る機会の場について、実施方法を検討 します。</p> <p><振り返り></p> <p>しない どうじしゃだんたいどう きょうりよく え 市内の当事者団体等の協力を得ながら、きょういく いいんかい じ む きょく れんけい 教育委員会事務局と連携し、きょうしよくいん む しょうがいりかい すず さつ 教 職 員向けの障 害理解を進める冊 子を作成・発行しました。</p>	すいしん 推進		しょうがいりかい 障 害理解 すず を進める きょうざいどう 教材等の さくせい 作成	○	すいしん 推進		
ふくがくせき 副学籍による こうりゅうきょういくおよ 交流 教育及び きょうどうがくしゅう 共同学習	<p>とくべつ しえんがっこう ざいせき じどうせいと 特別支援学校に在籍する児童生徒が、きよじゅう ち しょう ちゅうがっこう じどうせいと 居住地の小・中学校の児童生徒と いっしょ まな きかい かくだい はか こう 一緒に学ぶ機会の拡大を図るなど、交 りゅうきょういく きょうどうがくしゅう すず 流 教育と共同学習を進めるとと もに、とくべつ しえんがっこう じどうせいと たい 特別支援学校の児童生徒に対す る必要な 教育的支援を、居住地の学 校においても行います。</p> <p>しょう ちゅうがっこう じどうせいと しょうがい 小・中学校の児童生徒には、障 害 じ しゃ たい りかい ふく こころ しょう 児・者に対する理解を含め、心の障 へき こころ ぼりあぶりー 壁をつくらない「心のバリアフリー」 を育むことを目指します。</p> <p><振り返り></p> <p>まいとし にん こ じどう せいと 毎年、200人を超える児童生徒が ふくがくせき こうりゅう りょう きよじゅう ち 副学籍交流 を利用し、居住地の しょう ちゅうがっこう じゅうぎょう こうがいかつどう 小・中学校での授業や校外活動に おいて一緒に学ぶ機会を設けること ができました。</p>	すいしん 推進	へいせい ねん ど 平成29年度 じゅうし じどうすう 実施児童数 : 223人 (見込み)	△	すいしん 推進			



◆相談支援体制の再構築と充実

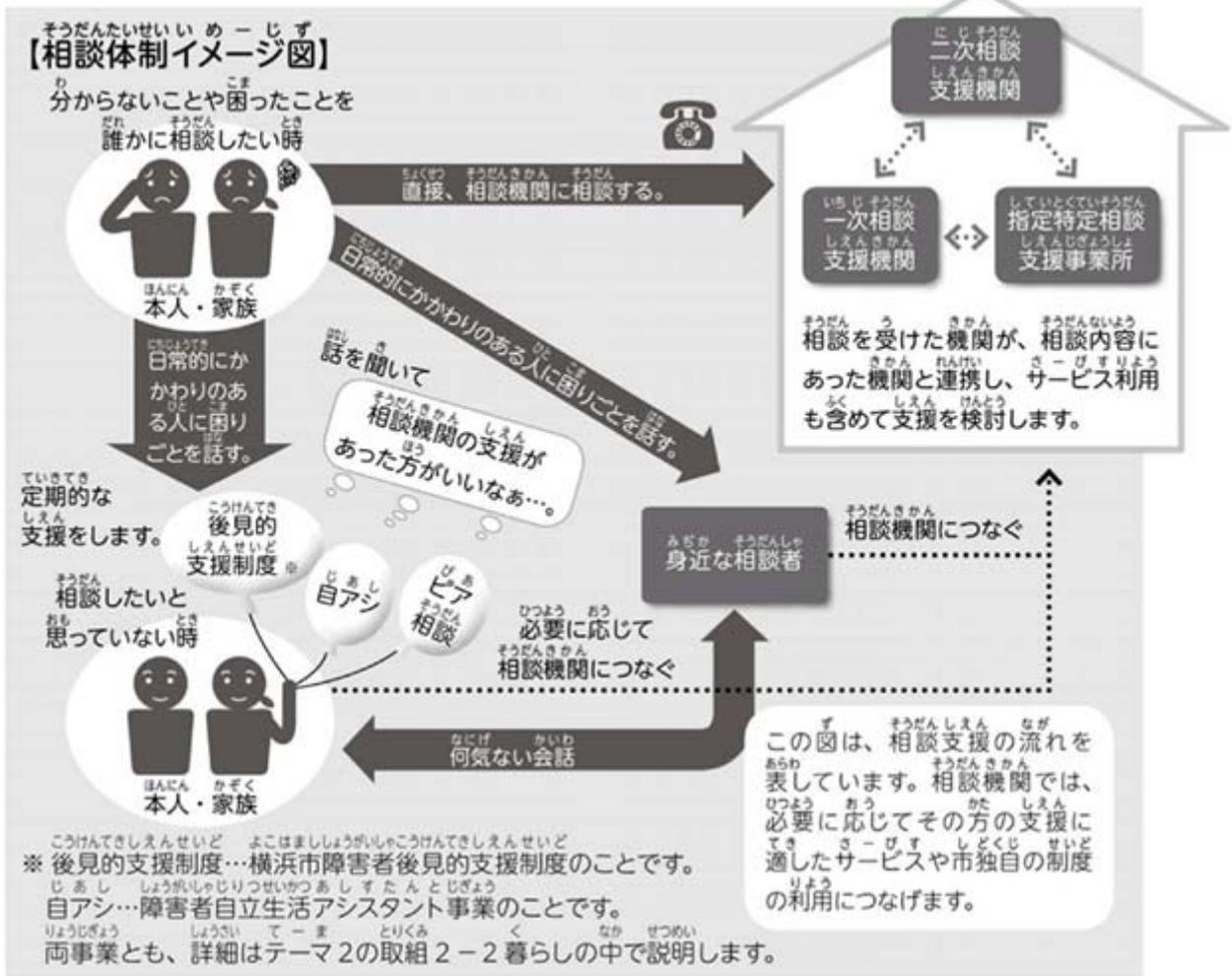
じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
<p>そうだん し えん じぎょう 相談支援事業の</p> <p>しゅうち およ ぷ きゅう 周知及び普及・</p> <p>けいはつ 啓発</p>	<p>しょうがいしゃ やその かぞく みぢか きかん あん 障害者やその家族が身近な機関に安</p> <p>しん そうだん 心して相談することができるよう、身</p> <p>ぢか そうだんしゃ たいしょう そうだん し えん 近な相談者を対象として、相談支援</p> <p>じぎょう しゅうち けいはつ おこな 事業の周知、啓発を行います。</p> <p><ふりかえり></p> <p>ぜんく ほうじんがたち かつ ほ む そうだんいん 全区の法人型地活ホームに相談員を</p> <p>はいち きかん そうだん し えん せん たー 配置し、「基幹相談支援センター」と</p> <p>いちづ そうだん し えん き のう きょうか して位置付け相談支援機能を強化し</p> <p>ました。</p>	すいしん 推進		そうだん し えん 相談支援の	きょうか 強化・	ぷ きゅう 普及	○	すいしん 推進
<p>そうだん し えん じゅう じ しゃ 相談支援従事者の</p> <p>じんざいいくせい 人材育成</p>	<p>よこはまし じりつ し えん きょうぎ かい い か し じりつ 横浜市自立支援協議会(以下「市自立</p> <p>し えん きょうぎ かい 支援協議会」といいます。)で作成し</p> <p>た「よこはまし そうだん し えん じゅう じ しゃ じんざいいくせい 横浜市相談支援従事者人材育成</p> <p>びじょん」に基づき、人材育成を進め</p> <p>ます。</p> <p><ふりかえり></p> <p>し じりつ し えん きょうぎ かい じんざいいくせい ぶ かい 市自立支援協議会人材育成部会にお</p> <p>いて、「よこはまし そうだん し えん じゅう じ しゃ じんざいいくせい 横浜市相談支援従事者人材育成</p> <p>せいび びじょん」を平成28年度に改訂し、</p> <p>へいせい ねんど ほんび びじょん ちと 平成29年度から本ビジョンに基づい</p> <p>たじんざいいくせい とく けんとう 人材育成に取り組めるように検討</p> <p>を 行 っ て い ます。</p> <p>また、区自立支援協議会に相談支援</p> <p>ぶ かい せっち そうだん いん どう し よこ 部会を設置し、相談員同士の横のつな</p> <p>がりを うなが そだ あ かんきょう せいび 促し、育ち合える環境の整備</p> <p>を すいしん 推進しています。</p>	すいしん 推進		かいていばん よこ 改訂版「横 <p>はまし そうだん し 浜市相談支</p> <p>えん じゅう じ しゃ 援従事者</p> <p>じんざいいくせい び 人材育成ビ</p> <p>じょん」に</p> <p>もと じんざい 基づき人材</p> <p>いくせい じつし 育成を実施</p>	△	すいしん 推進		

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とうじしゃ そうだん 当事者による相談 の充実	<p>しゃかいさんかすいしんせんたーにせつちする。ピア相談センターでの当事者相談を検証し、当事者による相談支援を推進します。</p> <p><振り返り> ピア相談員研修を活用し、ピア相談員のスキルアップを図りました。また、ピア相談センターコーディネーターが一次相談支援機関の集まりに参加し、派遣相談等の取組の周知を行っています。派遣依頼が無く、実績が上がっていません。</p>	じっせき 実績の けんしょう 検証		は けんそうだんとう 派遣相談等 のとりくみ 取組の しゅうち 周知	△	18区の社会福祉法人型地活ホームにおいて派遣相談の活用		
きそん そうだんまどぐち ちい 既存の相談窓口(地域ケアプラザ等)による連携	<p>ひごろのかか かわりのなか なにげ かいわ 日頃の関わりの中で、何気ない会話に含まれている相談を身近な相談者としてとらえ、必要に応じて、一次及び二次相談支援機関につなげます。</p> <p><振り返り> 地域の身近な相談機関である、地域ケアプラザにおいて、障害に関する相談を受け、必要に応じて適切な機関へつなげました。</p> <p>へいせい ねん ど 平成27年度 そうだんけんすう 相談件数：1,632件 へいせい ねん ど 平成28年度 そうだんけんすう 相談件数：2,501件</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



福【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
けいかくそうだん 計画相談 しえん 支援	21,500 人	23,000 人	24,500 人			
りようしゃすう 利用者数 ねんかん (年間)	ひつじょう 実績: 4,777 人	ひつじょう 実績: 5,662 人	8,000 人 じつせき (実績見込み)	22,000 人	23,000 人	24,000 人



分類	役割	機関
身近な相談者	日頃の関わりの中で、何気ない会話に含まれている相談に気づき、必要に応じて適した相談支援機関につなげます。	学校、施設、医療機関、近隣住民、サービス提供事業者、グループホーム、作業所、地域ケアプラザ、障害者支援センター、区社会福祉協議会、中途障害者地域活動センター、ピア相談センターなど
指定特定相談支援事業所	計画相談支援を利用する方の支援の中心を担います。	かくしていくていそうだんしえんじぎょうしょ 各指定特定相談支援事業所
一次相談支援機関	地域の相談支援専門機関として、どんな相談でも受け止め、支援を考えます。また、計画相談支援を利用しない方の支援の中心を担います。	きかんそうだんしえんせんたー せいかつ支援センター、療育センター、区福祉保健センター、児童相談所、就労支援センターなど
二次相談支援機関	専門的・個別的な相談及び助言を行います。他の機関と異なり、専門知識を生かして一次相談支援機関等が行う支援をサポートします。	しょうがいしゃこうせいそうだんじょ 障害者更生相談所、こころの健康相談センター、総合保健医療センター、総合リハビリテーションセンター、十愛病院、横浜療育医療センター、てらん広場、花みずき、おおほのぞん 発達障害者支援センター

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しじりつしえんきょうぎかい 市自立支援協議会 くと区自立支援協議会 かいれんけいれんどう 会の連携・連動	かくく かいさい 各区で開催されている区自立支援協 ぎかい とりくみ けんどうないよう しじりつし 議会での取組や検討内容を、市自立支 えんきょうぎかい しさくてんかい 援協議会での施策展開にいかすた め、れんけいれんどうのしくせいいり 連携・連動の仕組みを整理します。 <ふかえ 振り返り> しじりつしえんきょうぎかい くと区自立支援協 議 かいけんどう ちいきかだい ほうこく しさく 会で検討した地域課題の報告や施策 ていあんをおこなるるさだ の提案などを行うルールを定めるこ とで、しじりつしえんきょうぎかい くと区自立支 えんきょうぎかい れんけいれんどうのしく 援協議会が連携・連動する仕組みを つくりました。	すいしん 推進	じっし 実施		△	すいしん 推進		
くいきこ 区域を超えた おうだんてきけんどう 横断的な検討の すいしん 推進	くいき かいけつ かだい きょうゆう 区域で解決できない課題の共有や、 あら しゃかいしげん そせつ む けんどう 新たな社会資源の創設に向けた検討、 しじりつしえんきょうぎかい しさくていあん じょう 市自立支援協議会への施策提案(情 ほうていきょう もくてき くいき こ 報提供)などを目的として、区域を超 えたけんどうのばせつち えた検討の場を設置します。 <ふかえ 振り返り> しじりつしえんきょうぎかい ちいきかだい ほう 市自立支援協議会への地域課題の報 こくどう あるるさだ 告等を挙げるルールを定めたことで、 くと区自立支援協議会及びブロック連絡 かい しいきかだい きょうゆう たい 会における、市域の課題の共有や対 おうけんどうかっぱつか 応の検討が活発化しました。	すいしん 推進	じっし 実施		△	すいしん 推進		

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
なんびょうかんじゃ そうだん 難病患者への相談 しえん じっし 支援の実施	いりよう ふくし せいかつとう かん ちしき 医療、福祉、生活等に関する知識を え 得るための難病医療講演会や、生活 じょう 上の工夫などについて情報交換を おこな 行うための交流会等を、引き続き実 し 施します。 <ふりかえ 振り返り> かくく 各区において、せんもんい 専門医による医療講 えんかい 演会を年間2回ずつ、疾患別の交流 かい 会を実施しています。 へいせい ねんど かいさいすう 平成27年度開催数：203回 へいせい ねんど かいさいすう 平成28年度開催数：193回	—	—	へいせい ねんど 平成29年度 こうりゆうかい 交流会 かいさいすう 開催数 : 200回 (みこみ 見込み)	○	—	—	
しんき 【新規】 なんびょうかんじゃとう 難病患者等への ひつよう 必要な情報提供	なんびょうかんじゃとう 本人に対して必要な情 ほうていきよう 報提供を行うこと等により、難病 かんじゃとう 患者等の障害福祉サービス等の活用 うなが が促されるよう検討します。	—	—	—	—	—	—	
はつたつしょうがいしゃしえん 発達障害者支援 せんたー 運営事業	はつたつしょうがいしゃしえん せんたー 発達障害者支援センターの職員が かくく 各區に出向き、く 区の職員と一緒に そうだん 相談を受ける特定相談日を設けます。 <ふりかえ 振り返り> はつたつしょうがいしゃ 発達障害者が身近な地域で相談を受 けられるよう、かくく 各區福祉保健センター とくていそうだんび くに特定相談日を設けました。	とくていそうだんび 特定相談日 じっし 実施区 18区 (へいせい 平成27 ねんど 年度)	ぜんく 全区実施	○	すいしん 推進			

福【見込み】

	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
【新規】 はったつしょうがいしゃ しえん ちいききょうぎ 発達障害者支援地域協議 かい かいさいけんすう 会の開催件数	4 けん 件	4 けん 件	4 けん 件
【新規】 はったつしょうがいしゃ しえん せんたー 発達障害者支援センターに による そうだんけんすう 相談件数	6,000 けん 件	6,000 けん 件	6,000 けん 件
【新規】 はったつしょうがいしゃ しえん せんたー およ 発達障害者支援センター及 はったつしょうがいしゃ ちいき しえん まね び発達障害者地域支援マネ じゃーの かんけい 機関 への じよげん ジャーの関係機関への助言 けんすう 件数	200 けん 件	200 けん 件	200 けん 件
【新規】 はったつしょうがいしゃ しえん せんたー およ 発達障害者支援センター及 はったつしょうがいしゃ ちいき しえん まね び発達障害者地域支援マネ じゃーの がいぶ きかん ちいきじゆう ジャーの外部機関や地域住 民への けんしゅう 啓発 けいはつ 件数	60 けん 件	65 けん 件	70 けん 件

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
こうじのうきのうしょうがい 高次脳機能障害に かんけい 機関 関わる関係機関の れんけい 連携 連携促進	こうじのうきのうしょうがい たい しえん に ー ず 高次脳機能障害に対する支援ニーズ たいおう こうじのうきのうしょうがいし に対応するため、高次脳機能障害支 えん せんたー ちいき かんけい 機関 との れん 援センターと地域の関係機関との連 携を促進します。 <ふりかえり> こうじのうきのうしょうがい たい せんもん 相談 高次脳機能障害に対する専門相談を おこな そうだん しえん きよてん かくだい しょ 行う相談支援拠点を拡大し、10か所 で実施しました。今後全区に展開を予 定しています。	—	—	18 か所 (全区) (見込み)	○	—



ぎようせいじょうほう ごうりてきはいりよ すいしん
◆行政情報における合理的配慮の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひようか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひよう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひよう 標
こみゆにけーしょ コミュニケーション ンボード・カードの かつようそくしん 活用促進	<p>もじ ことば ことば ことば ことば ことば 文字や言葉によるコミュニケーション ンが苦手な人が、ボードやカードに描 かれた絵や記号を指さすことで、意思 を伝えやすくするツールの活用を継 続して行います。</p> <p><振り返り> セイフティーネットプロジェクト横 浜において、コミュニケーションボー ド・カードの活用を推進したほか、地 域防災拠点等で活用するコミュニケ ーションボード（災害用）を増刷し、 またお店で活用するコミュニケーシ ョンボード（お店用）の改訂を行い ました。</p>	—	—	—	○	—	—	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ごうりてきはいろよふ 合理的配慮を踏ま えた情報発信の ルール化	<p>しかくしょうがいしゃ ちょうかくしょうがいしゃおよ ちてき 視覚障害者、聴覚障害者及び知的 しょうがいしゃとう じょうほうていきょう 障害者等への情報提供について、 ぎょうせいじょうほうはっしん るーか がいどら 行政情報発信のルール化、ガイドラ いんとう さくせい けんとう イン等の作成を検討します。</p> <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> しょうがいしゃさべつかいしょう すいしん かん 「障害者差別解消の推進に関する とりくみしん しょうがい りゆう きべつ 取組指針」や「障害を理由とする差別 かいしょう すいしん かん しょくいんたいおうよう 解消の推進に関する職員対応要 りょう さくてい しょうがい ひと いこう 領」を策定し、障害のある人の意向 かくにん ばめん おう かんが たいおう を確認し、場面に応じて考え、対応し ていくことを本市の対応の基本とし ました。 ちょうかくしょうがい ひと じょうほう ほししょう 聴覚障害のある人への情報保障 とりくみ たぶれつ とたんまつ かつよう の取組として、タブレット端末を活用 した手話通訳サービスの提供等によ しゅわつうやくさーびす ていきょうとう り、区役所窓口における手話通訳対応 くやくしょまどぐち しゅわつうやくたいおう の充実を図りました。 	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



いしそつうしえんじぎょうとう みこ
意思疎通支援事業等【見込み】

	へいせい ねん ど 平成27年度	へいせい ねん ど 平成28年度	へいせい ねん ど 平成29年度	へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
しゅわつうやくしゃ はけん 手話通訳者の派遣 (利用者数)	8,900 人 実績: 7,897 人	9,500 人 実績: 8,343 人	9,900 人 9,900 人 (実績見込み)	10,000 人	10,500 人	11,000 人
ようやくひつ きしゃ はけん 要約筆記者の派遣 (利用者数)	1,750 人 実績: 1,494 人	1,800 人 実績: 1,591 人	1,900 人 1,900 人 (実績見込み)	1,900 人	1,900 人	1,900 人
しゅわほうしんようせい 手話奉仕員養成 研修事業 (養成人数)	80 人 実績: 44 人	80 人 実績: 144 人	80 人 172 人 (実績見込み)	172 人	172 人	172 人
しゅわつうやくしゃ ひっき 手話通訳者・筆記 者養成研修事業 (養成人数)	40 人 実績: 50 人	40 人 実績: 61 人	40 人 90 人 (実績見込み)	90 人	90 人	90 人
もうろうしゃむけ 盲ろう者向け 通訳・介助員養成 研修事業 (養成人数)	25 人 実績: 4 人	25 人 実績: 21 人	25 人 30 人 (実績見込み)	30 人	30 人	30 人

◆ さいがいじ じじよ きょうじよ こうじよ しんどう
災害時の自助・共助・公助の浸透

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
さいがいじ ようえんごしゃ 災害時要援護者 しえんじぎょう 支援事業	さいがいじ じりきひなん こんなん ようえんごしゃ 災害時に自力避難が困難な要援護者 あんびかくにん ひなん しえんとう かつどう えん の安否確認や避難支援等の活動が円 かつ おこな じょうほうきようゆうほう 滑に行われるよう、「情報共有方 しき じっしとう つう さいがい そな 式」の実施等を通じて、災害に備えた ひごろ ちいき じしゆてき ささ あ 日頃からの地域での自主的な支え合 いとりくみ しえん いの取組を支援します。 <振り返り> さいがいじ ようえんごしゃしえん とりくみ じっし 災害時要援護者支援の取組を実施し ていじちかい ちやうないかい わりあい ている自治会・町内会の割合 へいせい ねんどまつ ぼーせんと 平成28年度末：82.2 %	さいがいじ ようえん 災害時要援 ごしゃしえん 護者支援の とりくみ じっし 取組を実施 している自 ちかい ちやうない 治会・町内 会の割合 かい わりあい 会の割合 ぼーせんと 82.2 % (見込み) : 80 %			○	すいしん 推進		
しょうがいしゃ しえんしゃ 障害者・支援者に よるきゃらばんたい 派遣支援事業	かくく じっし ちいきぼうさいきてんくんれん 各区で実施される地域防災拠点訓練 せいふていーねつとぶろじえくと に、セイフティーネットプロジェクト よこはま さんか 横浜が参加しやすいように支援し、 しょうがいとくせい せつめい さんか 障害特性を説明します。そして参加 しゃたい しょうがいしゃ ぼらんていあ 者に対し、障害者へのボランティア しえん しょうがいじ しゃ こみゆにけー 支援や障害児・者とのコミュニケー ションについて、理解を図ります。 <振り返り> せいふていーねつとぶろじえくとよこ セイフティーネットプロジェクト横 はま きやうりよく え ちいきぼうさいきてんくんれん 浜の協力を得て、地域防災拠点訓練 しょうがいりかい かか でまえこうぎ において障害理解に係る出前講座を じっし でまえこうぎ かつよう 実施しました。また、出前講座の活用 む かくくやくしよ かつどう しゅうち に向け、各区役所に活動を周知しま した。	すいしん 推進	じっし 実施		△	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゅべつさいがいじ 障害種別災害時 たいおうまにゅある 対応マニュアルの さくせい 作成	さいがいはっせいちよくご 災害発生直後から復興期に至る期間 において、障害種別ごとの対応マニ ュある さくせい ュアルを作成します。 <振り返り> しょうがいしゅべつ 障害種別ごとの特性等が記載された しょうがいしゃりかいけいはつさし 障害者理解啓発冊子「心と手を貸し てください」を各区地域防災拠点運営 いんかい 委員会で配付したほか、地域防災拠点 くんれんとう 訓練等で障害特性を含めた対応方法 の周知に取り組みました。	たいおうまにゅ 対応マニ ュある ないよう アルの内容 けんとう 検討	たいおうまにゅ 対応マニ ュある ないよう アルの内容 けんとう 検討		△	たいおうまにゅ 対応マニ ュある さくせい アルの作成		
ちいきぼうさいきよてん 地域防災拠点に おける しょうがいしゃたいけん 障害者体験	かくちく ねん かいかいさい 各地区、年1回開催される地域防災拠 てんくんれん めにゅー 点訓練のメニューとして、障害者体 けん じっし 験を実施できるよう支援します。 <振り返り> せいふてい-ねっとプロジェクト横 はま じっし 浜が実施している障害理解に係る出 まえこうぎとう 前講座等を地域防災拠点訓練等で活 用いただけるよう、各区地域防災拠点 うんえい いんかいとう 運営委員会等に周知しました。	すいしん 推進	じっし 実施		△	すいしん 推進		
くきょくしょうがいしゃさいがい 区局障害者災害 たいさくかいぎ 対策会議	さいがいはっせいじ 災害発生時における区福祉保健セン た- けんこうふくしきょく ター、健康福祉局のそれぞれの役割 および連携方法について、検討します。 しいき こ れんけい はんそうほうほう 市域を越えた連携・搬送方法について けんとう も検討します。 <振り返り> かんけいきょく 関係区局において、特別避難場所に係 る課題検討を行いました。	くきょくしょうがい 区局障害 しゃさいがいたいさく 者災害対策 かいぎ じっし 会議の実施	けんとう 検討		△	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゃさいがいたいさく 障害者災害対策 かいぎ 会議	しょうがいしゃ し えんしゃ じ ぎょうしゃ ち いきおよ 障害者、支援者、事業者、地域及び ぎょうせいとう さいがい じ きょうじよ 行政等が災害時における共助につ いて、検討する場を設けます。また、 けんとう ぼ もう その検討の中で自助の役割も明確に けんとう なか じ じよ やくわり めいかく します。 し いきない そう ご れんけいおうえんたいせい こうちく 市域内の相互連携応援体制の構築を けんとう 検討します。 ふ かえ <振り返り> かいぎ じっし ほうほう けんとう ないぶ 会議の実施方法の検討および内部 ちょうせい おこな 調整を行いました。	しょうがいしゃさい 障害者災 がいたいさくかい ぎ 害対策会議 じっし の実施	けんとう 検討	△	すいしん 推進			
しょうがいしゅべつおうきゅう 障害種別応急 びちくぶつ しれんけい じぎょう 備蓄物資連携事業	す と まようそうぐ しょうがいとくせい おう ストマ用装具など 障害特性に応じた おうきゅう びちくぶつ し ほかん かのう 応急 備蓄物資について、保管が可能 し せつ な施設をそれぞれ公募するなど、 ほかん む けんとう おこな 保管に向けた検討を行います。 ふ かえ <振り返り> す と まようそうぐ ほかんぼしよ ほかん ストマ用装具の保管場所として、保管 ようろっかー ぜんく かくく しよ せつ 用ロッカーを全区（各区1か所）に設 ち 置しました。	すいしん 推進	す と まようそう ストマ用装 ぐ ほかんよう 具の保管用 ろっかー ロッカーを ぜんく かくく 全区（各区 1か所）に せつち 設置	○	すいしん 推進			

◆ 障害状況に合わせた住まいの充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
こうどうしょうがい 行動障害のある方 す 住まい けんとう 検討	<p>ひつよう とされる しえん せいり しえん 必要とされる支援などを整理し、支援体制のある生活の仕組みづくりについて、検討を進めます。</p> <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> はつたつしょうがいしやしえん せん たー あら 発達障害者支援センターに新たにちいきしえんまねじゃー 2名を配置し、しょうがいふくしきーび すじぎょうしやう たい 障害福祉サービス事業所等に対するこうどうしょうがい はつたつしょうがい かか こんさる 行動障害・発達障害に係るコンサルテーションを実施しました。 しょうがいふくしきーび すじぎょうしやう しよく 障害福祉サービス事業所等の職員を対象に、行動障害に係る支援力向上を図るための研修を市内法人が共同して「オール横浜」として実施しました。 こうどうしょうがい たいおう ぐるーぷほーむ 行動障害に対応するグループホームについて検討しました。 	すいしん 推進		ちいきしえん 地域支援 まねじゃー マネジャー ぞういん 増員 (計： 4人)	○	すいしん 推進		
さぼーとほーむ サポートホーム じぎょう 事業 (あ) (発達障害者に対する生活支援の推進)	<p>はつたつしょうがい にゆうきよしや たい せいかつ 発達障害のある入居者に対し、生活支援を行うことで、地域での一人暮らしに向けた準備を支援する「サポートホーム」について、効果を検証しながら進めます。</p> <p><振り返り></p> <p>さぼーとほーむ じぎょう サポートホーム事業により、発達障害のある人の生活支援を実施しました。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ようごろうじんほーむ 養護老人ホーム せいびじぎょう 整備事業 (しかくしょうがいしゃ 視覚障害者の にゅうしょ 入所)	かんきょうじょうりゆうおよ けいざいてきりゆう 環境上の理由及び経済的理由によ り、居宅において養護を受けることが こんなん こうれいしゃ にゅうしょ みんせつみんえい 困難な高齢者が入所する民設民営の ようごろうじんほーむ へいせい ねん どまつかいしよ 養護老人ホーム（平成27年度末開所 よてい こうなんくのぼちよう きゅうのぼしよ 予定）を港南区野庭町の旧野庭小 学校跡地に整備します。その一部居室 において、しかくしょうがいしゃ うい 視覚障害者を受け入れます。 <ふかえ 振り返り> ・平成28年2月1日に養護老人ホー ム「野庭風の丘」が開所しました。 ・平成29年5月1日時点で5人の視覚 しょうがいしゃ にゅうしょ しかくしょう 障害者が入所しています。（視覚障 がいしゃていいん にん 害者定員6人）	しかくしょうがい 視覚障害 しゃ にゅうしょ 者の入所 じっし 実施		じっし 実施	○	すいしん 推進		
しんたいしょうがいしゃ 身体障害者・ こうれいしゃ じゅうたく 高齢者の住宅 かいぞうおよ もようが 改造及び模様替え	しえいじゅうたく にゅうきよ しょうがいしゃどう 市営住宅に入居している障害者等 の要望に対し、トイレや浴室への手す りの取付などの住宅改造を実施しま す。 <ふかえ 振り返り> へいせい ねん ど じっせき じゅうたくかいぞう けん しょう 平成27年度実績：住宅改造59件（障 がいしゃたいおう けん こうれいしゃたいおう けん も 害者対応24件、高齢者対応35件）、模 ようがえしょうにん けん 様替承認154件 へいせい ねん ど じっせき じゅうたくかいぞう けん 平成28年度実績：住宅改造37件 （しょうがいしゃたいおう けん こうれいしゃたいおう けん もようがえしょうにん けん 件）、模様替承認140件	すいしん 推進	へいせい ねん ど 平成29年度 じゅうたくかいぞう 住宅改造 :35件 しょうがいしゃたいおう （障害者対応 :25件、 こうれいしゃたいおう 高齢者対応 :10件） みこ （見込み） 、 もようがえしょうにん 模様替承認 :140件 みこ （見込み）		○	すいしん 推進		



		へいせい ねん ど 平成27年度		へいせい ねん ど 平成28年度		へいせい ねん ど 平成29年度		
きょう どう せい かつ えん じょ 共同生活援助 (グループホーム) りようしゃすう 利用者数	しん きせつ ち ねん (新規設置/年)	200	人分	200	人分	200	人分	
		実績: 195	人分	実績: 192	人分	193 (実績見込み)	人分	
	り よう にん ずう ねん (利用人数/年)	3,700	人分	3,900	人分	4,100	人分	
		実績: 3,762	人分	実績: 3,959	人分	4,152 (実績見込み)	人分	
			へいせい ねん ど 平成30年度		へいせい ねん ど 平成31年度		へいせい ねん ど 平成32年度	
	しん きせつ ち ねん (新規設置/年)	200	人分	200	人分	200	人分	
4,352		人分	4,552	人分	4,752	人分		

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゃしえんしせつ 障害者支援施設の さいせいび 再整備	<p>たいしんきじゆん み 耐震基準を満たしていない、または ろうきゆうか 老朽化している障害者支援施設につ いて、ユニット化・個室化を進めつ ゆ に つ と か こ し つ か す 建て替えを行います。</p> <p><振り返り> しょうがいしゃしえんしせつ けいわせいねんりょう どう ・障害者支援施設「恵和青年寮」等 さいせいび へいせい ねん ど こう 再整備については、平成28年度で工 じ かんりょう 事が完了しました。</p> <p>しょうがいしゃしえんしせつ かいけい どうさいせいび ・障害者支援施設「偕恵」等再整備に ついては、平成28年度で工事が完了 へいせい ねん ど こうじ かんりょう しました。</p>	こうじかんりょう 工事完了		かんりょう 完了	○	かんりょう 完了		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいじ しせつ 障害児施設の せいび さいせいび 整備・再整備 ㊤	<p>ししよかん 3か所目の じゅうしょうしんしんしょうがいじ 市所管 3か所目の 重症心身障害児 しせつ せいび 施設を整備するとともに、老朽化が進 んでい る しょうがいじにゆうしよしせつ さいせいび 障 害 児 入 所 施 設 の 再 整 備 ・ ゆにっとかすす ユニット化を進めます。</p> <p><ふかえ 振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> へいせい ねんどにふくしがたしょうがいじにゆうしよ 平成27年度に福祉型障害児入所 しせつ せいび さいせいび 施設「ぶどうの実（旧白根学園児童 りょう）の再整備を完了しました。 じゅうしょうしんしんしょうがいじしやしせつ ・重症心身障害児者施設について よこはま いりょうふくし せんたー こんなん へい 「横浜医療福祉センター港南」を平 せい ねん がつ かいしよ よこはま りょういく いりょう 成28年6月に開所、「横浜療育医療 せんたー」を平成28年度に再整備完 りょう 了しました。 へいせい ねんど ・平成29年度には「ぼらいと・えき きゅうよこはまし きがくえん さいせいび （旧横浜市なしの木学園）」の再整備 かんりょう よてい を完了する予定です。 	こうじかんりょう 工事完了 4か所	こうじかんりょう 工事完了 4か所	○	しせつじょうきょう 施設状況 とうによりけん 等により検 とう 討			
こうりつしょうがいしや しえんし 公立障害者支援施 せつ よこはま ししやうふうがく 設（横浜市松風学 えん さいせいび けんとう 園）の再整備の検討	<p>しょうがいしや しえんし せつ よこはま ししやうふう 障害者支援施設である横浜市松風 がくえん にな やくわり ちと 学園の担うべき役割や求められる きのう けんしやう さいせいび 機能について、検証しながら、再整備 けんとう を検討します。</p> <p><ふかえ 振り返り></p> <p>しせつ しょうきゅうかすす かしよ あら だ 施設の老朽化の進んだ箇所の洗い出 おこな しを行いました。</p>	すいしん 推進	けんとう 検討	△	すいしん 推進			

福 【目標】 福祉施設入所者の地域生活への移行

げんじょう 現状	すうち 数値	けいかくち 計画値	すうち 数値	けいかくち 計画値	すうち 数値
へいせい ねんどまつじ 平成25年度末時 てん でのしせつにゆう 点での施設入 しよしやすう 所者数	1,544人	へいせい ねんどまつじ 平成29年度末時 てん でのしせつにゆう 点での施設入 しよしやすう 所者数	1,515人 【平成28年度】 実績:1,494人	へいせい ねんどまつじ 平成32年度末時 てん でのしせつにゆうしよ 点での施設入所 者数	1,465人
へいせい ねんどまつじ 平成25年度末時 てん でのていいんすう 点での定員数	1,125人	へいせい ねんどまつじ 平成29年度末時 てん でのていいんすう 点での定員数	1,125人 【平成28年度】 実績:1,104人	へいせい ねんどまつじ 平成32年度末時 てん でのていいんすう 点での定員数	1,104人

福児 【目標】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
しせつにゆうしよしえん 施設入所支援 りようにんすう つき (利用人数/月)	1,530人 実績:1,510人	1,523人 実績:1,494人	1,515人 1,487人 (実績見込み)	1,485人	1,475人	1,465人
しょうがいじにゆうしよ 障害児入所 しえん ぶくし 支援(福祉 がた いりようがた 型・医療型) りようじどうすう つき (利用児童数 /月)	226人分 実績:226人分	256人分 実績:239人分	256人分 251人分 (実績見込み)	277人分	277人分	277人分
しゆくはくがたじりつ 宿泊型自立 くんれん 訓練 りようにんすう つき (利用人数/月)	2,516人日 実績:2,430人日	2,516人日 実績:2,443人日	2,516人日 2,447人日 (実績見込み)	2,516人日	2,516人日	2,516人日
	96人分 実績:89人分	96人分 実績:92人分	96人分 90人分 (実績見込み)	96人分	96人分	96人分
りようようかいご 療養介護	189人分 実績:197人分	295人分 実績:225人分	295人分 233人分 (実績見込み)	281人分	281人分	281人分

※ 施設入所支援は、旧身体障害者更生施設を除く。



【目標】18歳以上の障害児施設入所者の障害者支援施設及び地域への移行

	へいせい ねん ど 平成27年度	へいせい ねん ど 平成28年度	へいせい ねん ど 平成29年度	へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
18歳以上の 入所者の移行 人数	28人 実績:17人	28人 実績:24人	29人 7人 (実績見込み)	7人	7人	6人
移行予定対象 人数	57人 実績:51人	29人 実績:27人	0人 20人 (実績見込み)	13人	6人	0人

【目標】精神障害者地域移行・地域定着支援事業(市事業)

	へいせい ねん ど 平成27年度	へいせい ねん ど 平成28年度	へいせい ねん ど 平成29年度	へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
個別支援 対象者数 (人/年)	70人 実績:79人	70人 実績:83人	70人 87人 (実績見込み)	89人	93人	97人

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
【新規】 精神障害にも対応 した地域包括ケア システムの構築	精神障害者が、地域の一員として 安心して自分らしく暮らすことがで きるよう、保健、医療、福祉関係者に よる協議の場を設置し、精神障害に も対応した地域包括ケアシステムを 構築します。	—	—	—	—	すいしん 推進



福 【目標】

		へいせい ねんど 平成32年度
【新規】	せいしんびょうしょう ねん い じょうちよう 精神病床における1年以上長 き にゅういんかんじゃすう (さい い じょう) 期入院患者数 (65歳以上)	くに、じぎょうしょうさい しめ のち ちいき 国が事業詳細を示した後、地域の じつじょうどう もと せつてい 実情等を基に設定します。
【新規】	せいしんびょうしょう ねん い じょうちよう 精神病床における1年以上長 き にゅういんかんじゃすう (さい み まん) 期入院患者数 (65歳未満)	
【新規】	せいしんびょうしょう そう き たいいんりつ 精神病床における早期退院率 (にゅういんご げつ じてん) (入院後3か月時点)	
【新規】	せいしんびょうしょう そう き たいいんりつ 精神病床における早期退院率 (にゅういんご げつ じてん) (入院後6か月時点)	
【新規】	せいしんびょうしょう そう き たいいんりつ 精神病床における早期退院率 (にゅういんご ねん じてん) (入院後1年時点)	

福 【目標】 ちいきそうだんしえん ねんかん にんぶんの すう
地域相談支援 (年間の人分は延べ数)

		へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
ちいきいこう 地域移行 しえん 支援	つき (/月)	5 人分 実績: 2 人分	7 人分 実績: 2 人分	8 人分 2 人分 (実績見込み)	8 人分	8 人分	8 人分
	ねん (/年)	60 人分 実績: 18 人分	80 人分 実績: 19 人分	100 人分 27 人分 (実績見込み)	100 人分	100 人分	100 人分
ちいきてい 地域定 ちやくしえん 着支援	つき (/月)	10 人分 実績: 2 人分	15 人分 実績: 2 人分	20 人分 4 人分 (実績見込み)	20 人分	20 人分	20 人分
	ねん (/年)	120 人分 実績: 23 人分	180 人分 実績: 20 人分	240 人分 45 人分 (実績見込み)	240 人分	240 人分	240 人分



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
みんかんじゅうたく 民間住宅あんしん にゅうきよ じぎょう 入居事業	やちんとう しはらいのうりよく れん 家賃等の支払能力はあるものの、連 たいほしようにん かくほ 帯保証人が確保できないことなどを りゅう みんかんちんたいじゅうたく にゅうきよ こん 理由に民間賃貸住宅への入居に困 きゅう しやうがいしやとう たい きょう 窮している障害者等に対して、協 りよく ふ どうさんてん ぶっけん しやうかい じん 力不動産店による物件の紹介と民 かん ほ しやうがいしや りよう やちん ほしやう 間保証会社を利用した家賃保証に にゅうきよ きかい ふ より入居の機会を増やします。 ふ かえ <振り返り> けんちくきよく けんこうふくし きよく れんけい はか 建築局、健康福祉局で連携を図りな にゅうきよしや おーなー ふ どうさんてん がら、入居者、オーナー、不動産店の りようそくしん つな あんびかくにんさー 利用促進に繋がるよう、安否確認サー びすモデル事業を開始し、各宅地建 ものとりひきぎょうだんたい かいぎ せいど しゅうち 物取引業団体の会議にて制度周知 をおこな だんたい を行いました（7団体）。	すいしん 推進	じっし 実施	△	すいしん 推進			
みんかんじゅうたくにゅうきよ 民間住宅入居の そくしん 促進	ぐるーぶほーむ等から民間賃貸住宅 てんきよ ご たんしんせいかつ あんしん への転居や、その後の単身生活が安心 おく し く けん して送れるための仕組みについて検 とう じっし 討し、実施します。 ふ かえ <振り返り> せいしんしやうがいしや す けんとう ぶかい 「精神障害者の住まい検討部会」を ぜん かいかいさい 全2回開催しました。 じゅうたくかく ほようはいりよしや たいしやう あ や 住宅確保要配慮者を対象に空き家 とう かつよう あら じゅうたくせーふてい 等を活用した新たな住宅セーフティ ねっ とせいど けんとう ネット制度を検討しています。	みんかんじゅうたく 民間住宅 にゅうしよ し 入所の仕 く けんとう 組み検討・ じっし 実施	けんとう 検討	△	すいしん 推進			



◆ 高齢化・重度化を踏まえた住まいの構築

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
こうれいか じゅうどかたいおう 高齡化・重度化対応 のグループ ほむ けんしょう ホームの検証・ けんとう 検討	げんざいじっし じゅうどかたいおうぐるー 現在実施している 重度化対応グループ ぶほむもてるじぎょう こうれいかたいおう プホームやモデル事業の高齡化対応 ぐるーぶほむけんしょう おこな こんご グループホームの検証を行い、今後 すす みこ しょうがい も進んでいくことが見込まれる 障害 しゃ こうれいか じゅうどか みす いちにち 者の高齡化・重度化を見据えて、一日 とお あんしん す かくほ を通して安心できる住まいの確保を めぎ じぞくてき じつげんかのう す 目指して、持続的に実現可能な住まい かたち こうちく の形を構築します。 ふ かえ <振り返り> じゅうどか こうれいかぐるーぶほむ 重度化・高齡化グループホームについ ないぶ けんとう つづ じゅうどかたいおうぐ て、内部で検討を続け、重度化対応グ らーぶほむへいせい ねん どの こうれいか ループホームは平成25年度、高齡化 ぐるーぶほむへいせい ねん どの もで グループホームは平成28年度にモデ るじぎょう しゅうりょう つうじょうじぎょう い ル事業を終了し、通常事業へ移 こう 行しました。	—	—	—	△	—		

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
こうれいか じゅうどかたいおつ 高齢化・重度化対応 ばりあふりーかいしゅう ばりアフリー改修 じぎょう 事業	ぐるーぷほーむ りよう しょうがいしゃ グループホームを利用する 障害者が こうれい ともな しんたいき のう 高齢になり、それに 伴う身体機能の ていかとう じゅうらい ほーむ せつび 低下等により、従 来のホームの設備 で生活することが困難となる場合で も、居住しているホームで安心して せいかつ つづ せいかつ つづ 生活し続けることができるよう、ばり あふりーとうかいしゅう かか けいひ ほじょ アフリー等改修に係る経費を補助し ます。 <ふ かえ 振り返り> この3か年(ねん ほーむ しんせい)で3ホームから申請があ り、2ホームについては、トイレや浴 室(しつ かいしゅう かいだんしやうこうき せつち おこな)の改修、階段昇降機(かいだんしやうこうき)の設置を行 いました。1ホームについては、平成 29年度(ねんど じっし よてい)実施(じっし)予定です。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			

ちいき せいかつ ささ しく じゅうじつ
◆地域での生活を支える仕組みの充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ちかつほ - む うんえい 地活ホームの運営	<p>ちかつほ - む ちいき きよてん 地活ホームは、地域における拠点とし て設置してきました。これからも、障 がいふくし かが しゃかいしげん ちゅうしん 害福祉に関わる社会資源の中心とし て、より利用しやすい拠点となるよ う、しゃかいふくしほうじんがた きのうきょうかがた ちかつ 社会福祉法人型・機能強化型地活 ホームの両方について、地域におけ る役割や位置付けを明確にするため、 やくわり いちづ めいかく 改めて検討し、機能の充実を図りま す。</p> <p><振り返り> しゃかいふくしほうじんがた ちかつほ - む 社会福祉法人型地活ホームについて、 ちいき に - ず、たい くやくしよ れんけい 地域のニーズに対し、区役所と連携し て、じゅうなん じぎょうてんかい おこな 柔軟な事業展開が行えるよう、 せいど いちぶみなお 制度を一部見直しました。</p> <p>また、やくわり いちづ かんけい 役割や位置付けについて、関係 ぶしよ かない きょうゆう 部署と課題を共有するとともに、事 ぎょうしよとう けんとう おこな 業所等と検討を行いました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
せいかつしえんせんたー 生活支援センター の運営	<p>せつちとうしよ いばしよきもの 設置当初の居場所機能だけではなく、 きそん さーびす せいり さいごうちく うえ 既存のサービスを整理・再構築した上 で、そうきたいおう せいかつしえんせんたー こ 早期対応や生活支援センターに來 られない方など、せいしんしやうがいしゃ そうだん 精神障害者の相談 きもの じゅうてん お しえん じゅうじつ 機能に重点を置いた支援の充実を はか 図ります。</p> <p><ふりかえり> そうだん きもの じゅうてん お しえん 相談機能に重点を置いた支援の じゅうじつ もくてき でんわ そうだんおよ しょくじ 充実を目的に、電話相談及び食事 さーびすとう きそん さーびす せいり サービス等の既存サービスを整理し ました。</p>	すすいん 推進		じっし 実施	○	すすいん 推進		
たきのうがたきよてん 多機能型拠点の せいび うんえい 整備・運営 ②	<p>じゅうしやうしんしんしやうがいじ しゃ など つね い 重症心身障害児・者など、常に医 りやうてきけ あ ひつよう ひと かぞく ち 療的ケアが必要な人やその家族の地 いき く らしを しえん 域での暮らしを支援するため、相談支 えん せいかつかいご ほうもんかんご さーびすおよ 援、生活介護、訪問看護サービス及び たん きにゅうしよ いったいてき ていきよう 短期入所などを一体的に提供でき るたきのうがたきよてん せいび しなほほうめんべつ 多機能型拠点の整備を市内方面別 すす に進めます。</p> <p><ふりかえり> へいせい ねん がつ せ や く かんめ 平成29年4月に瀬谷区に3館目の たきのうがたきよてん かいしよ ぜん しょ 多機能型拠点を開所し、全3か所 さかえく つづまく せ や く たきのうがた (栄区、都筑区、瀬谷区)の多機能型 きよてん うんえいしえん おこな 拠点の運営支援を行っています。 しなほ かんめ せいび ちけつてい む 市内4館目の整備地決定に向けて けんとう おこな 検討を行っています。</p>	かいしよ 2か所 (累計4か 所)		かいしよ 1か所 (累計3か 所)	△	かいしよ 3か所 (累計6か 所) (整備 完了)		



福

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
ちいきせいかつしえん 地域生活支援	けんとう 検討	けんとう 検討	1か所 しよ			
きよてん せいび 拠点の整備	けんとう 実績：検討	けんとう 実績：検討	けんとう 検討 (実績見込み)	2か所 しよ	18か所 しよ	18か所 しよ

福 【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
きよたくかいご 居宅介護	140,521時間 じかん	149,710時間 じかん	159,499時間 じかん			
	実績：128,138時間 じかん	実績：124,038時間 じかん	122,611時間 じかん (実績見込み)	124,349時間 じかん	124,504時間 じかん	124,659時間 じかん
	6,896人分 にんぶん	7,336人分 にんぶん	7,804人分 にんぶん			
	実績：6,643人分 にんぶん	実績：6,787人分 にんぶん	6,854人分 にんぶん (実績見込み)	7,294人分 にんぶん	7,561人分 にんぶん	7,838人分 にんぶん
じゅうどほうちん 重度訪問 かいご 介護	42,593時間 じかん	45,378時間 じかん	48,345時間 じかん			
	実績：47,540時間 じかん	実績：54,193時間 じかん	58,688時間 じかん (実績見込み)	69,254時間 じかん	78,288時間 じかん	88,501時間 じかん
	239人分 にんぶん	254人分 にんぶん	270人分 にんぶん			
	実績：271人分 にんぶん	実績：314人分 にんぶん	335人分 にんぶん (実績見込み)	409人分 にんぶん	467人分 にんぶん	534人分 にんぶん



福【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
どうこうえんご 同行援護	14,649時間 <small>じかん</small>	15,607時間 <small>じかん</small>	16,627時間 <small>じかん</small>	16,398時間 <small>じかん</small>	17,205時間 <small>じかん</small>	18,052時間 <small>じかん</small>
	実績: 14,343時間 <small>じかん</small>	実績: 14,896時間 <small>じかん</small>	15,527時間 <small>じかん</small> (実績見込み)			
	713人分 <small>にんぶん</small>	758人分 <small>にんぶん</small>	807人分 <small>にんぶん</small>	798人分 <small>にんぶん</small>	837人分 <small>にんぶん</small>	878人分 <small>にんぶん</small>
	実績: 694人分 <small>にんぶん</small>	実績: 726人分 <small>にんぶん</small>	744人分 <small>にんぶん</small> (実績見込み)			
どうこうえんご 行動援護	2,833時間 <small>じかん</small>	3,018時間 <small>じかん</small>	3,215時間 <small>じかん</small>	12,432時間 <small>じかん</small>	17,171時間 <small>じかん</small>	23,716時間 <small>じかん</small>
	実績: 5,281時間 <small>じかん</small>	実績: 6,517時間 <small>じかん</small>	7,282時間 <small>じかん</small> (実績見込み)			
	106人分 <small>にんぶん</small>	113人分 <small>にんぶん</small>	120人分 <small>にんぶん</small>	669人分 <small>にんぶん</small>	994人分 <small>にんぶん</small>	1,476人分 <small>にんぶん</small>
	実績: 233人分 <small>にんぶん</small>	実績: 303人分 <small>にんぶん</small>	346人分 <small>にんぶん</small> (実績見込み)			
たんきにゅうしょ 短期入所 (福祉型)	1,007人分 <small>にんぶん</small>	1,074人分 <small>にんぶん</small>	1,146人分 <small>にんぶん</small>	1,000人分 <small>にんぶん</small>	1,000人分 <small>にんぶん</small>	1,000人分 <small>にんぶん</small>
	実績: 934人分 <small>にんぶん</small>	実績: 968人分 <small>にんぶん</small>	987人分 <small>にんぶん</small> (実績見込み)			
	6,251人日 <small>にんにち</small>	6,480人日 <small>にんにち</small>	6,718人日 <small>にんにち</small>	6,000人日 <small>にんにち</small>	6,000人日 <small>にんにち</small>	6,000人日 <small>にんにち</small>
	実績: 5,440人日 <small>にんにち</small>	実績: 5,552人日 <small>にんにち</small>	5,115人日 <small>にんにち</small> (実績見込み)			
たんきにゅうしょ 短期入所 (医療型)	360人分 <small>にんぶん</small>	498人分 <small>にんぶん</small>	689人分 <small>にんぶん</small>	400人分 <small>にんぶん</small>	400人分 <small>にんぶん</small>	400人分 <small>にんぶん</small>
	実績: 266人分 <small>にんぶん</small>	実績: 300人分 <small>にんぶん</small>	304人分 <small>にんぶん</small> (実績見込み)			
	1,937人日 <small>にんにち</small>	2,619人日 <small>にんにち</small>	3,541人日 <small>にんにち</small>	2,000人日 <small>にんにち</small>	2,000人日 <small>にんにち</small>	2,000人日 <small>にんにち</small>
	実績: 1,345人日 <small>にんにち</small>	実績: 1,526人日 <small>にんにち</small>	1,584人日 <small>にんにち</small> (実績見込み)			

福 【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
にっちゅういちじ 日中一時 しえん 支援	411 ^{にんぶん} 人分	411 ^{にんぶん} 人分	411 ^{にんぶん} 人分	471 ^{にんぶん} 人分	479 ^{にんぶん} 人分	487 ^{にんぶん} 人分
	実績: 457 ^{にんぶん} 人分	実績: 464 ^{にんぶん} 人分	493 ^{にんぶん} 人分 (実績見込み)			
	729 ^{かい} 回	729 ^{かい} 回	729 ^{かい} 回	783 ^{かい} 回	796 ^{かい} 回	809 ^{かい} 回
	実績: 707 ^{かい} 回	実績: 749 ^{かい} 回	817 ^{かい} 回 (実績見込み)			
にちじょうせいかつ 日常生活 ようぐきゅうふ 用具給付・ たいよ ねん 貸与 (/年)	65,000 ^{けん} 件	65,000 ^{けん} 件	65,000 ^{けん} 件	81,000 ^{けん} 件	81,000 ^{けん} 件	81,000 ^{けん} 件
	実績: 81,008 ^{けん} 件	実績: 86,220 ^{けん} 件	82,900 ^{けん} 件 (実績見込み)			

この表における単位の考え方は以下のとおりです。

- ・「人分」「回」…月間の利用人数・回数
- ・「人日」…「月間の利用人数」×「一人一か月あたりの平均利用日数」
- ・「時間」…月間のサービス提供時間

(※重度障害者等包括支援は利用実績がなく、今後の利用を見込んでいません。)

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
めでいかるしょー とすていしすてむ トステイシステム ㊤	いりょうてきけ あ ひつよう じゅうしょうしんしんしょうがい 医療的ケアが必要な重症心身障害 じしゃを ざいたく かいご かぞく ふたん 児・者を、在宅で介護する家族の負担 けいげん ざいたくせいかつ あんてい もくてき 軽減と在宅生活の安定を目的として、 いちじてき ざいたくせいかつ こんなん 一時的に在宅生活が困難となった ばあい びょういん う い 場合などに、病院での受け入れを じっし 実施します。 <ふ かえ 振り返り> じぎょう かいし へいせい ねんど へいせい 事業開始の平成24年度から平成28 ねんど りょうどうろくしゃすう にん りょう 年度までの利用登録者数212人、利用 の にんずう にん りょう の にっすう 延べ人数366人、利用延べ日数は 2,805日で、そのうち、かぞく しっぺい 家族の疾病に りょう にん よる利用は120人でした。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	
せいしんしょうがいしゃ かぞく 精神障害者の家族 しえんじぎょう 支援事業 ㊤	せいしんしょうがいしゃ かぞく てきせつ かんけい 精神障害者とその家族が適切な関係 を保つため、きんきゅうたいざいばしょ じゅんび 緊急滞在場所を準備す るとともに、かぞく せいしんしつかん 家族が精神疾患について りかい ふか きかい ていきよう 理解を深める機会を提供します。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねんど せいど りょう 平成28年度に制度をより利用しやす くなるよう改正を行いました。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	

ほんにん せいかつりよく ひ だ しえん じゅうじつ
◆本人の生活力を引き出す支援の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
じりつせいかつ 自立生活 あしすたんと アシスタント	<p>ちいき たんしんどう せいかつ しょうがいしゃ たい 地域で単身等で生活する 障害者に対 して、自立生活アシスタントが、その しょうがいとくせい ふ ぐたいてき せいかつ 障害特性を踏まえて、具体的な生活 ばめん しゃかいてきおうりよく たか じよげん 場面での社会適応力を高める助言を ちゅうしん しえん おこな 中心とした支援を行います。</p> <p>ふ かえ <振り返り> みちか ちいき しえん う 身近な地域で支援が受けられるよう、 かくく じぎょう てんかい たいせい せいび 各区で事業を展開できる体制の整備 すす へいせい ねんど ぜんく を進め、平成28年度から全区での支 えんたいせい せいび 援体制を整備しています。</p>	じぎょうしよすう 事業所数 40 か所 (全区実 し 施) げんじょう (現状:36 しよ か所)	じぎょうしよすう 事業所数 40 か所 (全区実 し 施)	○	すいしん 推進	
こうけんてきしえんせいど 後見的支援制度 あ	<p>しょうがいしゃほんにん しょうがいふくしきーびす 障害者本人に障害福祉サービスに かか しえん ひつよう 係る支援が必要とされていない時か かんけいせい ち おやな ら関係性を持つことにより、「親亡き あと あんしん ちいきせいかつ おく しく 後も安心して地域生活を送れる仕組 みこうちく おこな みの構築」を行います。</p> <p>ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど へいせい ねんど じっしゅく 平成27年度、平成28年度に、実施区を それぞれ2区ずつ増やし、全区実施と なりました。 へいせい ねんど こうなんく あおぼく 平成27年度：港南区、青葉区 へいせい ねんど なかく せやく 平成28年度：中区、瀬谷区</p>	ぜんくじっし 全区実施 (現状：14 げんじょう 区)	ぜんくじっし 全区実施	○	すいしん 推進	

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 度 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん 度 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうひしゃきょういくじぎょう 消費者教育事業 (あ)	しょうがいしゃ かぞくおよ しえんしゃ しょうひん 障害者や家族及び支援者が、商品・サービスの利用及び契約に関わるとらぶるとう まな トラブル等を学ぶことにより、安心して日常生活を送れるよう、意識啓発を図ります。 <振り返り> けいざいきょく きょういく いんかいじむきょく けんこう 経済局、教育委員会事務局、健康福祉局の3局が連携し、特別支援がっこうの生徒を対象とした出前講座を2校で実施しました。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	

(福)

	へいせい ねん 度 平成27年度	へいせい ねん 度 平成28年度	へいせい ねん 度 平成29年度	へいせい ねん 度 平成30年度	へいせい ねん 度 平成31年度	へいせい ねん 度 平成32年度
しんき 【新規】 じりつせいかつえんじょ 自立生活援助 かしょう (仮称)	—	—	—	くに じぎょうしょうさい しめ のち ちいき じつじょうとう 国が事業 詳細を示した後、地域の実情等を基に設定します。		



いりようかんきょう せいび
◆医療環境のさらなる整備

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
じゅうどしんけいなんびょうかんじゃ 重度神経難病患者 在宅支援システム の構築	はつびょう すすねん きゅうそく しんこう 発病から数年で急速に進行する しんけい なんびょう かんじゃ たい ざいたく しえん 神経難病患者に対する在宅支援 しすてむを、せんもん いりよう きかん ざいたく システムを、専門医療機関・在宅 りはびりてーしょんとう ほけん いりよう リハビリテーション等の保健・医療 かんけいしゃ しょうがいふくしサーびすじぎょうとう 関係者と障害福祉サービス事業等 との連携により、構築します。 <ふりかえり> しんだんちよくご きん いしゆくせいそくさくこう かしょう えー 診断直後の筋萎縮性側索硬化症（A えるえす かた せいかつしょうがい しえん もくてき L S）の方の生活障害支援を目的に、 そうきかいにゅう しごう とりくみ あ 早期介入を試行しました。取組に当 たり、ざいたくりはびりてーしょんじぎょう 在宅リハビリテーション事業 の紹介を、しんない しよ いりよう きかん の紹介を、市内11か所の医療機関 （しんだん きかん じっし どうじ くふくし 診断機関）へ実施し、同時に区福祉 ほけん せんたーへも、そうきかいにゅう ひつよう 保健センターへも、早期介入の必要 性を伝えました。しんだんちよくご りようしゃ 診断直後の利用者 の支援を おこな なか じしん き 行う中で、自身では気づき にくい生活障害への支援が行え、生 せいかつしょうがい しえん おこな せい 活動作の負担を軽減することに効果 が 出 ています。しんだんじ いりよう きかん 診断時の医療機関あ るいはなんびょうしんせいじ ほけんし ざい りはびりてーしょんじぎょう なが 宅リハビリテーション事業への流れ が でき 始めています。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
なんびょうかんじゃざいたく 難病患者在宅 りょうようけいかくさくてい 療養計画策定・ ひょうかじぎょう 評価事業	ざいたくなんびょうかんじゃ たい ほけん いりよう 在宅難病患者に対し、保健・医療・ ふくし かくさーびす てきせつ ていきよう 福祉の各サービスを適切に提供する ために、関係者が合同でサービス内容 かんけいしゃ ごうどう さーびすないよう を検討します。 けんとう <振り返り> ふ かえ 平成27年度は、実施はありません。 へいせい ねんど じっし 平成28年度は、旭区で1件実施しま した。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 は、旭区・ あさひく こうほくく 港北区で じっし 実施	△	すいしん 推進	
なんびょうかんじゃいちじ 難病患者一時 にゅういんじぎょう 入院事業	いりよういそんど たか なんびょうかんじゃ かいじょしゃ 医療依存度の高い難病患者が介助者 の事情により、在宅で介助を受けるこ とが こんなん ばあい いちじてき 困難になった場合、一時的に にゅういん 入院できるようにします。 ふ かえ <振り返り> げんざい びょういん びょうしょう うけいれ 現在は7病院、5病床にて受入を じっし 実施しています。 へいせい ねんどのべりようにつすう にち 平成27年度延利用日数：920日 へいせい ねんどのべりようにつすう にち 平成28年度延利用日数：840日	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 のべりようにつすう 延利用日数 にち ：970日 (見込み)	○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
けんこうのーと 健康ノート	<p>しょうがいじ しゃ じぶん す ちいき いりよう 障害児・者が自分の住む地域の医療 きかん じゆしん さい かつよう けんこう 機関で受診する際に活用できる「健康 のーと ノート」について、あり方を検討しま す。</p> <p><振り返り> ざいこ はいふ じょうきよう ちようさ おこな 在庫・配付状 況の調査を行ったほ か、しょうがいかんけいだんたい ひありんぐを じっし 実施しました。</p>	かた あり方の けんとう 検討		けんとう 検討	△	けんとうけっか 検討結果 による		
いりようじゅうじしゃけんしゅう 医療従事者研修 じぎょう 事業 ㊦	<p>しつぺい しょうがい しょうにおよ じゅうしょうしん 疾病や障害のある小児及び重症心 しんしょうがいじ しゃ しえん ひつよう ちしき 身障害児・者の支援に必要な知識・ ぎじゆつ こうじよう はか しょうがいとくせい りかい 技術の向上を図り、障害特性を理解 した医療従事者を育成するための けんしゅう じっし 研修を実施します。</p> <p><振り返り> いりよう きかん ふくし しせつとう きんむ かん 医療機関や福祉施設等に勤務する看 ごし たいしょう しょう にほうもんかんご じゅう 護師を対象に「小児訪問看護・重 しょうしんしんしょうがいじ しゃけんしゅう まいねん どじっ 症心身障害児者研修」を毎年度実 施しています。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいふくししせつとう 障害福祉施設等で 働く看護師の支援 (あ)	しょうがい ふくし しせつ とう はたら かんごし 障害福祉施設等で働く看護師の ていちゃく む しえん おこな 定着に向けた支援を行うとともに、 かくほ ほうさく けんとう 確保の方策について検討します。 <ふ かえ 振り返り> ちかつほ - む し か い し はけん しよく 地活ホームに歯科医師を派遣し、食 じ ば め ん しょうがいふくし げんば 事場面において、障害福祉の現場に そく じょげんしどう けんしゅう じっし 即した助言指導や研修を実施してい ます。 また、ちかつほ - む た き のうがたきよてん 地活ホームや多機能型拠点で はたら かんごし たいしょう かいぎ かい 働く看護師を対象とした会議を開 さい かだい きょうゆう ネットワーク 催し、課題の共有やネットワーク くりをおこな くりを行っています。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
じゅうどしょうがいしゃとう 重度障害者等 にゅういんじこみゆにけ 入院時コミュニケ ーション支援事業 (あ)	にゅういんさきいりょうきかん いし かんごしとう 入院先医療機関の医師・看護師等と いし そつう じゅうぶん はか の意思疎通が十分に図れない しょうがいじ しゃ たいしょう にゅういんさき 障害児・者を対象に、入院先に こみゆにけーしょんしえんいん はけん コミュニケーション支援員を派遣し ます。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねんど じっせき 平成27年度実績 はけんけんすう けん 派遣件数：25件 そうはけんじかん じかん 総派遣時間：995時間 へいせい ねんど じっせき 平成28年度実績 はけんけんすう けん 派遣件数：67件 そうはけんじかん じかん 総派遣時間：1,081時間	すいしん 推進		へいせい ねんど 平成29年度 はけんけんすう 派遣件数 : 40件 (みこ 見込み)	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
はいえんきゅうきんわくちん 肺炎球菌ワクチン せつしゅじよせいじぎょう 接種助成事業 ㊤	はいえん かん ばあい きけんせい たか 肺炎にり患した場合に危険性が高い ないぶしょうがい しんたいしょうがいしゃ て ちょうしよ じ しゃ 内部障害の身体障害者手帳所持者 たい ひ つづ き か はいえんきゅうきんわく に対し、引き続き23価肺炎球菌ワク ちんせつしゅひよう いちぶ じよせい チン接種費用の一部を助成します。 ふ かえ <振り返り> せいじんようはいえんきゅうきんわくちんじぎょう かい 成人用肺炎球菌ワクチン事業の開 し ふ ねんれい じょうげんせつてい たい 始を踏まえ、年齢の上限設定と、対 しょう しんたいしょうがいしゃ て ちょう ないぶ き 象となる身体障害者手帳（内部機 のうしょうがい しょううしゃ どうきゅう せいげん 能障害）所有者の等級による制限を てつぱい 撤廃しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
いりようきかんれんけいじぎょう 医療機関連携事業 ㊤	しょうがいじ しゃ みちか ちいき てきせつ いりよう 障害児・者が身近な地域で適切な医療 が受けられる環境づくりを推進する ため、しょうがいとくせいとう りかい てきせつ 障害特性等を理解し適切な いりよう ていきょう いりようきかん ふ 医療を提供できる医療機関を増やし ます。 ふ かえ <振り返り> ち てきしょうがいしゃせんもんがいらい びょういん かい 知的障害者専門外来を、3病院で開 せつ よこはまあいはらびょういん しうんかい 設しました。（横浜相原病院・紫雲会 よこはまびょういん こうほくびょういん し ない い 横浜病院・港北病院）また、市内医 りょうていきょうしせつ いりようじゅうじしゃ たいしやう 療提供施設の医療従事者を対象 とした「医療安全研修会」において、 しょうがいしゃ し えん かか こうえん おこな 障害者支援に係る講演を行いました。	すいしん 推進	びょういん 4 病院で かいせつ 開設 みこ (見込み)	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
めでいかるしょー とすていしすてむ トステイシステム 【再掲】㊦	<p>いりようてき け あ ひつよう じゅうしょうしんしんしょうがい 医療的ケアが必要な重症心身障害 児・者を、在宅で介護する家族の負担 軽減と在宅生活の安定を目的として、 一時的に在宅生活が困難となった 場合などに病院での受入れを実施し ます。</p> <p><振り返り> 事業開始の平成24年度から平成28 年度までの利用登録者数212人、利用 の延べ人数366人、利用延べ日数は 2,805日で、そのうち、家族の疾病に よる利用は120人でした。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
ざいたくりょうようじ ちいき 在宅療養児の地域 せいかつ ささ ねっ 生活を支えるネッ とわーくれんらくかい トワーク連絡会	<p>しょうがいじ しゃ いりよう にゅういん ざいたく かか 障害児・者の医療（入院・在宅）に関 わる医療関係者を中心に、福祉・ 教育関係者を対象として、在宅支援 に必要な情報交換や人的交流を通 じて、障害理解を促進します。</p> <p><振り返り> 医療関係者が中心となり、障害児・ 者の生活を支える上での課題及び取 組等の情報交換などを実施し、支援 の促進に努めました。</p> <p>多職種連携の勉強会の実績 平成27年度：2回、参加者647人 平成28年度：2回、参加者337人</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
いりょうきかん ネットワーク等の構築	<p>しょうがいじ しゃ ざいたくせいかつ ささ 障害児・者の在宅生活を支えるための いりょうきかん しえんたいせい ネットワーク 医療機関の支援体制とネットワーク を検討し、構築を図ります。</p> <p><振り返り> じゅうしんしょうがいじ しゃ ひつよう 重心障害児・者が必要としている医 療等を把握するためのアンケート ちようさ へいせい ねん ど じっし 調査を平成28年度に実施しました。 (860人回答) この結果を活用し、こども青少年 局、健康福祉局、医療局の関係3 局で構成する庁内会議を設置し、医 療的ケアを要する障害児・者の生活 を支えるための支援体制の構築を 検討しています。</p>	じつたいはあくおよ 実態把握及 び医療ネ ットワーク 検討と構築	けんとう 検討	○	すいしん 推進			
し か ほけん いりょうすいしん 歯科保健医療推進 事業 (心身障害児・者歯 科診療)	<p>し か しんりょう きかい めぐ しんしん 歯科診療の機会に恵まれない心身 しょうがいじ しゃ たい し か ちりょう かくほ 障害児・者に対する歯科治療の確保 を、引き続き、図ります。</p> <p><振り返り> よこはまし し か ほけん いりょうせん たーしんしん 横浜市歯科保健医療センター心身 しょうがいじ しゃ し か しんりょうじっせき 障害児・者歯科診療実績 へいせい ねん けん 平成27年 9,773件 へいせい ねん けん 平成28年 9,797件 よこはまし しんしんしょうがいじ しゃ し か しんりょうじぎょう 横浜市心身障害児者歯科診療事業 きょうりよく いりょうきかん 協力医療機関 210か所 (平成29年3月末)</p>	すいしん 推進	へいせい ねん ど 平成29年度 し か しんりょう 歯科診療 じっせき 実績 :9,545件 (見込み)	へいせい ねん ど 平成29年度 きょうりよく い 協力医 療機関 :210か所 (見込み)	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
【新規】 医療的ケア児・者等の支援のための関係機関の協議の場の設置	医療的ケア児・者等が適切な支援を受けられるよう、平成30年度末までに、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設置します。	—	—	—	—	—	すいしん 推進	

⑧ **【見込み】**

	へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
【新規】 医療的ケア児・者等に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置	じゅんび 準備	1 人	1 人



さんか けんこう しさく すいしん
◆参加しやすい健康づくり施策の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
さんか 参加しやすい健康 づくり事業の検討	ほんし めざ けんこうじゅみようにほんいち 本市が目指す健康寿命日本一に む けんこうすたんぷらりーのよう に向けて、健康スタンプラリーのように しょうがいしゃ たの けんこう 障害者も楽しみながら健康づくりに と けんこう 取り組めるよう、障害者団体とも きょうりょく しょうがいとくせいどう 協力しながら、障害特性等にも はいりよ けんこう かいごよぼうじぎょう 配慮した健康づくり・介護予防事業を けんとう 検討します。 ふ かえ <振り返り> しょうがいしゃ すぼーつ しゅうちかつどう すぼー 障害者スポーツの周知活動、スポー つぼらんてい あようせいこうぎ しょきゅうしょう ツボランティア養成講座や初級障 がいしゃ すぼーつ しどういんけんしゅうかいどう じっし 害者スポーツ指導員研修会等の実施 をとおして、しえんしゃ しどうしゃ じんざいいく 支援者・指導者の人材育 せいすす 成を進めています。	—	—	—	△	—	—	
けんこう 健康づくり環境の せいび 整備	しょうがいとくせい りかい よこはまらぼーる 障害特性を理解した横浜ラポールの すたっふどう じんてきしげん せんようせつび スタッフ等の人的資源や専用設備を ゆう かんれんしせつ い しょうがいしゃ 有する関連施設を生かし、障害者に ひつよう たいりょく 必要な体力づくりや りはびりてーしょんが ちいき おこな リハビリテーションが地域で行える よう、ちいき じんざいいくせい ふく かんきょう 地域の人材育成も含めた環境 せいびすす の整備を進めます。 ふ かえ <振り返り> しょうがいしゃ すぼーつ しゅうちかつどう すぼー 障害者スポーツの周知活動、スポー つぼらんてい あようせいこうぎ しょきゅうしょう ツボランティア養成講座や初級障 がいしゃ すぼーつ しどういんけんしゅうかいどう じっし 害者スポーツ指導員研修会等の実施 をとおして、しえんしゃ しどうしゃ じんざいいく 支援者・指導者の人材育 せいすす 成を進めています。	—	—	—	△	—	—	

きゅうきゅういりようたいせい じゅうじつ
◆ 救急医療体制の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
せいしん か きゅうきゅう 精神科救急 いりようたいさく じぎょう 医療対策事業	<p>せいしん しっかん きゅうげき はっしょう せいしん しょう 精神疾患の急激な発症や精神症 じょう あつか さっきゅう てきせつ せいしん 状の悪化などで、早急に適切な精神 か いりよう ひつよう ばあい せいしん ほけん 科医療を必要とする場合に、精神保健 ふくしほう ちと しんさつ びょういん しょうかい 福祉法に基づく診察や病院の紹介を おこな ひつよう いりようしせつ かく 行うとともに、必要な医療施設を確 ほ とつ きゅうきゅうかんじゃ えん 保すること等により、救急患者の円 かつ いりようおよ ほご はか 滑な医療及び保護を図ります。</p> <p><振り返り> き め しょう ゆうがた じ かん 切れ目が生じた夕方の時間 し ないびょういん りんぱんせい きょうか において市内病院の輪番制を強化 ゆうがた や かん たいおう びょういん し、夕方から夜間に対応できる病院 はいち を配置しました。</p> <p>せいしん か きゅうきゅうにゆういんりょう しゅとく また、精神科救急入院料を取得し びょういん せいしん か きゅうきゅう かか ししん た病院の精神科救急に係る指針を さくせい げんざいよこはま しない しせつ 作成しました。(現在横浜市内7施設 しゅとく が取得)</p> <p>へいせい ねんど しんやたい う い 平成28年度には、深夜帯に受け入れ おこな みんかんびょういん しゅうかい ふ を行う民間病院を週5回に増や へいせい ねんど まいにちつうねんかどう し、平成29年度には、毎日通年稼働と しました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 度 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん 度 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
せいしんしっかん がっぺい 精神疾患を合併す る身体救急患者 の救急医療体制 整備事業	せいしんしっかん がっぺい しんたいきゅうきゅうかんじゃ 精神疾患を合併する身体救急患者 を適切な医療機関へ円滑に搬送でき るよう、救急医療体制を構築しま す。 ふ かえ <振り返り> せいしんしっかん とくていしょうじょう 精神疾患のうち特定症状をもつ身 体救急患者に対応する病院群につ いて、平成28年度末現在で2病院が たいせい さんかく 体制に参画しています。	すいしん 推進		とくていしょうじょう 特定症状 たいおうびょういんすう 対応病院数 ：2病院	○	すいしん 推進		



ばりあふりー ふきゅう けいはつ そくしん
◆バリアフリーの普及・啓発の促進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しみん じぎょうしゃ 市民や事業者へ む ふきゅう けいはつ 向けた普及・啓発	<p>こうれいしゃ しょうがいしゃとう ふく すべ ひと 高齢者、障害者等を含む全ての人が そうご こうりゅう ささ あ 相互に交流し、支え合うとともに、 あんぜん えんかつ たてもの せつび りよう 安全かつ円滑に建物や設備を利用す るためには、しょうがい ただ りかい 障害への正しい理解が ひつよう ひろ しみん じぎょうしゃ む 必要なため、広く市民や事業者へ向 けた普及・啓発を進めます。</p> <p><ふ かえ 振り返り></p> <p>※ とりくみ ふきゅう けいはつない たいおう 取組1-1の普及・啓発内で対応 していきます。</p>	—	—	—	○	—	—	



ばりあふりー すいしん
◆さらなるバリアフリーの推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ふくし 福祉のまちづくり じょうれいすいしんじぎょう 条例推進事業	<p>「横浜 にかか する すべての人がお互いを 尊重し、助け合う、人の優しさにあ ふれたまちづくり」を実現するため、 はーど (しせつ せつび せいび) とソフト (おも いやりの ころ いくせい) を一体的に とり組み、福祉のまちづくりを推進し ます。 <振り返り> こども向けリーフレットの配布や、 職員等を対象とした研修の開催な どにより、福祉のまちづくりを推進し ました。 平成24年12月に福祉のまちづくり 条例を改正し、条例に基づく事前 協議や設計相談等に対応しました。</p>			すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
こうきょうこうつう きかん 公共交通機関の ばりあふりーか バリアフリー化	<p>誰もが移動しやすい環境整備の一環 として、鉄道駅舎へのエレベーター等 の設置及びノンステップバスの導入 促進を図ります。 <振り返り> 駅舎エレベーター設置について、平成 28年度末時点で、市内157駅中149 駅が段差解消済みで、進捗率は、 94.9 % です。 ノンステップバス導入について、平 成24年度より、市内民営バス事業者 の導入に際する補助を再開し、平成 27年度は50台、平成28年度は24台 を補助対象としました。</p>			すいしん 推進	<p>てつどうえきしゃ 鉄道駅舎へ のエレベ ーター等 の設置 率: 96 % (対象は 1日の利用 者3,000人 以上の駅) ノンステッ プバス導 入率: 69 % (見込み)</p>	○	<p>てつどうえきしゃ 鉄道駅舎へ のエレベ ーター等 の設置 率: 100 % (対 象は1日 の利用者 3,000人以 上の駅) ノンステッ プバス導 入率: 70 %</p>	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
<p>ばりあふりー すいしん ばりあふりー 推進 (バリアフリ ー基本構想の検討・ 策定)</p>	<p>えき ちゅうしん ちく たいしやう 駅を中心とした地区などを対象と して、バリアフリー法に基づき、まち のバリアフリー化の方針・計画である 「バリアフリー基本構想」の策定を、 引き続き、進めます。 <振り返り> へいせい ねんどまつ かくく ちく ぜん 平成28年度末までに、各区1地区、全 18地区26駅を含む地区でバリアフリ ー基本構想の策定を完了しました。</p>	かくく しゅよう 各区の主要 えき さくてい 駅への策定 (18地区) かんりよう 完了	へいせい ねんど 平成29年度 ばりあふり ー基本構想 の策定 : 18地区	○	みさくてい ちく 未策定地区 しんきさくてい の新規策定 とう すいしん 等を推進			
<p>ばりあふりー すいしん ばりあふりー 推進 (バリアフリ ー歩行空間の整備)</p>	<p>えきしゅうへん ばりあふりーか すいしん 駅周辺のバリアフリー化を推進する ため、バリアフリー基本構想に基づ き、道路のバリアフリー化を、引き続 き、進めます。 <振り返り> ばりあふりーか せいびえんちやう るいけい バリアフリー化整備延長の累計 へいせい ねんど きろめーとる 平成27年度 : 33.5 k m へいせい ねんど きろめーとる 平成28年度 : 37.6 k m</p>	ばりあふり ーか せいびえん ー化整備延 ちやうるいけい 長累計 きろめーとる 36 k m	へいせい ねんど 平成29年度 るいけい : 累計39.6 きろめーとる k m (見込み)	○	ばりあふり ーか せいびえん ー化整備延 ちやうるいけい 長累計 きろめーとる 42 k m			
<p>よこはまし ぐうきやう さいん 横浜市公共サイン ガイドラインの 改訂</p>	<p>ぐうきやうきかん せっち ほごうしやよう 公共機関により設置される歩行者用 案内・誘導サインの規格や表示内容等 の統一を図るためのガイドラインを 改訂します。 <振り返り> とうきやうおりんぴくく ばらりんぴくく 東京オリンピック・パラリンピック の動向を踏まえた情報収集を進め ました。</p>	かいていがいど 改訂ガイド ラインの運 用推進	けんとう 検討	△	かいていがいど 改訂ガイド ラインの運 用推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
がっこうしせつ 学校施設の ばりあふりー バリアフリー	<p>エレベーターの整備など、学校施設の バリアフリー化を進め、障害児が学び やすい環境を整備します。</p> <p><振り返り> 車いす利用等の児童・生徒が在籍し ているがエレベーターが未整備であ る学校に、エレベーターを整備してい ます。</p> <p>整備校数 平成28年度： 小・中・義務教育学校487校中163 校</p>	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 しょう ちゅう ぎ 小・中・義 むきょういくがっ 務教育学 こう しょう 校：487校 ちゅう しょう 中174校 (見込み)	○	すいしん 推進		

しょうがいしゃぎゃくたいぼうし とりくみ しんとう
◆ 障害者虐待防止の取組の浸透

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゃぎゃくたいさいく 障害者虐待対策 じぎょう 事業 (ふきゅう けいはつ 普及・啓発)	しみんむ りーふれっとさくせいとう 市民向けのリーフレット作成等によ こうほう おこな り広報を行います。 また、これまでの虐待事例を検証し ぎゃくたいじれい けんしやう た上で、障害福祉サービスの事業者 うえ しょうがいふくしきーびす じぎょうしゃ 等を対象とした研修を実施します。 たいしやう けんしやう じっし <振り返り> ふ かえ ・市民向けの啓発チラシを作成しまし しみんむ けいはつ ちらし さくせい た。(平成29年3月) へいせい ねん がつ ・事業者等を対象とした研修を実 じぎょうしゃとう たいしやう けんしやう じっ 施しました。 へいせい ねん ど いごう じっし じぎょうしゃ ・平成29年度以降に実施する事業者 とう たいしやう けいはつ かくじゅう 等を対象とした、内容を拡充した ぎゃくたいぼうし けんしやう くに じっし けんしやう 虐待防止研修(国が実施する研修 を踏まえたもの)に向けて、必要な調 ふ む ひつよう ちやう 整等を行いました。 せいとう おこな	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



しょうがいしゃさべつかいしょうほう ちと とりくみ
◆ 障害者差別解消法に基づく取組

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゃ さべつかいしょう 障害者差別解消 ほうしごう む たい 法施行に向けた対 おう 応	ほんし こんご とりくみ しょうがい 本市の今後の取組について、障害 とうじしゃ がくしきけいけんしゃとう ごうせい かいぎ 当事者、学識経験者等で構成する会議 において検討します。また、会議の けんとう けんとう かいぎ 検討結果をもとに、具体的な取組を すいしん 推進します。 ふ かせ <振り返り> よこはま ししょうがいしゃ さべつかいしょうけんとう ぶ かい ・「横浜市 障害者差別解消 検討部会」 しょうがいしゃ さべつかいしょうほう しごう において、障害者差別解消法の施行 ともな ほんし おこな けん に伴って本市が行うべきことを検 とう へいせい ねん がつ 討いただき、平成27年11月にまとめ ていげん う としての提言を受けました。 けんとう ぶ かい ていげん う へいせい ねん ・検討部会の提言を受け、平成28年2 がつ ほんし とりくみ かんが かつ どりくみ ない 月に本市の取組の考え方や取組の内 よう しめ とりくみ ししん さくてい 容を示した取組指針を策定しました。	へいせい ねんど 平成27年度 けんとう うえ 検討の上、 とりくみ すいしん 取組を推進	とりくみ ししん 取組指針を さくてい 策定	○	—			

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
し じょくいんたいおうようりょう 市職員対応要領 さくていおよ しゅうち の策定及び周知	<p>ほんしじょくいん てきせつ たいおう おこな 本市職員が適切な対応を行って くための指針として、差別的取扱い としん さべつてきとりあつか となり得る事例や、合理的な配慮の え じれい ごうりてき はいりよ 好事例等を含む対応要領を策定し、 こうじれいとう ふく たいおうようりょう さくてい 市職員への周知及び浸透を図りま す。 ふ かえ <振り返り> し じょくいんたいおうようりょう さくてい かくくきよく ・市職員対応要領を策定し、各区局 む しゅうち 向けに周知しました。 ぜんしじょくいん たいしやう けんしゅう いーらー ・全職員を対象とした研修(eラー にんぐ けいぞくてき じっし ニング)を継続的に実施しています。 かくくきよくとう しやうがいしや さべつかい ・各区局等においても障害者差別解 しょう てーま けんしゅう じっし 消をテーマとした研修を実施して います。</p>			すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しみん へいふく けいはつ 市民への普及・啓発	<p>しょうがい りゆう として きべつ かいしょう あ 障害を理由とする差別の解消に当 たっては、市民の方々に関心と理解を 深めていただくことが何よりも大切 であることから、市民向けの広報及び 啓発活動を効果的に実施します。</p> <p><ふりかえり> ・ 広報よこはまへの記事掲載による 周知・啓発を行いました。</p> <p>おも ちてきしょうがい ひと たいしょう ・ 主に知的障害のある人を対象とし た啓発資料(すごろく)を作成・配布 しました。</p> <p>しょうがい ひと しょうがい ひと ・ 「障害のある人と障害のない人の 交流を通した啓発活動」を実施して います。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
そうだんたいせいとう せいび 相談体制等の整備	しょうがいしゃ さべつ かん しょうだん ぶんそう 障害者差別に関する相談、紛争の ぼうしどう たいせい せいび 防止等のための体制を整備すると もに、その周知を図ります。また、相談 およ ぶんそう ぼうしどう ちいき 及び紛争の防止等を地域において すいしん ちいききょうぎかい そしき 推進するための地域協議会を組織し ます。 <ふりかえり> こうほう とう そうだんたいおう かん ・広報よこはま等で、相談対応に関す る周知を行いました。 よこはまし しょうがいしゃ さべつかいしょう し えん ちいき ・「横浜市 障害者差別解消 支援地域 きょうぎかい せつち そうだんじれい きょうゆう 協議会」を設置し、相談事例の共有 を図るとともに、相談対応に関する検 討を行っています。 そうだんたいおう かいけつ はか ・相談対応によっても解決が図られな かった差別事案のあっせんを行う 「横浜市 障害者差別の相談に関する ちょうせい いんかい せつち 調整委員会」を設置しました。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
ほうしこうご じっし 法施行後の実施 じょうきょう けんしょう 状況の検証	ほんし とりくみ じっしじょうきょう かくにん 本市の取組の実施状況を確認する とともに、課題の確認及びその後の とりくみ ほうこうせい かん けんとう ていきてき 取組の方向性に関する検討を定期的 におこな しく こうちく に行う仕組みを構築します。 <ふりかえり> よこはまし しょうがいしゃ さべつかいしょう し えん ちいききょう 横浜市 障害者差別解消 支援地域協 ぎかい しょうがいしゃ さべつかいしょう ちょうないすいしんかい 議会、障害者差別解消 庁内推進會 ぎ とりくみ じっし じょうきょう ほうこく 議において取組の実施状況を報告 し、共有しています。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		

せいねんこうけんせいど りようそくしん
◆成年後見制度の利用促進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
よこはましし 市民こうけんにん 横浜市市民後見人 ようせい かつどうしえんじぎょう 養成・活動支援事業	ちいき けんりようご しみんさんかく 地域における権利擁護を市民参画で すす よこはませいかつ せんた 進めるため、横浜生活あんしんセンタ ーが全区で市民後見人の養成を実施 し、区役所、市・区社会福祉協議会、 せんもんしよくだんたいどう れんけい かつどうしえん 専門職団体等が連携した活動支援の たいせい こうちく 体制を構築します。 <ふりかえり> ・平成27年度に第2期市民後見人養 成課程が修了し、全区で市民後見人 ばんくどうろくしゃ こうほしや もうした バンク登録者を候補者として申立て かのう が可能となりました。また、平成28年 度には、バンク登録者が少ない鶴見、 にし こうなん かなざわ さかえ いずみ さやく 西、港南、金沢、栄、泉、瀬谷区を たいしやう だい きやうせい じっし へいせい 対象に第3期養成を実施し、平成28 ねんどまつじてん ばんくどうろくしゃ にん 年度末時点で、バンク登録者が71人、 じゆにんそうすう けん 受任総数は30件となっています。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 ばんくどうろく バンク登録 者：67人 へいせい ねん 平成29年 がつ にちじ 7月1日時 てん 点 、 じゆにんそうすう 受任総数： 31件 へいせい ねん 平成29年 がつ にちじ 7月1日時 てん 点	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ほうじんごうけんしえんじぎょう 法人後見支援事業	<p>よこはませいかつ せんたー 横浜生活あんしんセンターが、これま でのほうじんごうけんじゆにんじっせき ふ 市の社会福祉法人等への法人後見 しな い しゃかいふく し ほうじんとう ほうじんごうけん 実施に向けた支援を行います。</p> <p><ふ かえ 振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度よりほうじんごうけんしえんじぎょう ほうじんごうけんしえんじぎょう を実施し、法人後見を実施している団 たい じゆにん め ぎ だんたい れんらくかいとう 体や、受任を目指す団体の連絡会等を かいさい 開催しました。 ・平成26,27年度にしょうがいしゃしえんしせつ とうじしゃかぞくとうむ あんけーと じつ 当事者家族等向けにアンケートを し けっか ふ しょうがい かた 実施。その結果を踏まえ、障害のある方 かぞく しえんしゃむ せいねんごうけんせいど の家族や支援者向けの成年後見制度 ばんふれっとを、へいせい ねんど さく パンフレットを、平成28年度に作 せい 成しました。 	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
せいねんごうけんせいど 成年後見制度の りょうそくしんむ 利用促進に向けた かんけいだんたい けんとう 関係団体との検討	<p>けんしゅう じれい つう べんご し し 研修や事例などを通じて、弁護士、司 ほうしよしおよ ぎょうせいしよしとう しょうがいしゃ 法書士及び行政書士等と、障害者の せいねんごうけんせいど りょうそくしんむ けん 成年後見制度の利用促進に向けた検 とう おこな 討を行います。</p> <p><ふ かえ 振り返り></p> <p>せいねんごうけんせいど りょうそくしんむ べんご 成年後見制度の利用促進に向け、弁護 し かい けんとうかい おこな 士会との検討会を行いました。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
もうした およ 申立て及び ほうしゅうじよせいけん 報酬助成件 すう 数	72 けん 件	79 けん 件	87 けん 件	173 けん 件	202 けん 件	232 けん 件
	じっせい 実績: 90 けん 件	じっせい 実績: 118 けん 件	161 けん 件 (実績見込み)			

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
けんりようごじぎょう 権利擁護事業	けんり まも 権利を守るための相談や契約に基づ きんせんかんり さーびす く金銭管理サービスなどの日常生活 の支援を、区あんしんセンターが、契 約に基づいて実施します。 <振り返り> くしゃきょう 区社協あんしんセンターの権利擁護 じぎょうけいやくすう へいせい ねんど 事業契約数は平成26年度が620件、 へいせい ねんど 平成27年度が728件、平成28年度が 904件と年々増加傾向となっていま す。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 1,000 けん 件 (見込み)	○	すいしん 推進	



◆ 早期療育体制の充実

⑧ 【目標】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
しょうがいじそくだん 障害児相談	4,000 人	4,500 人	5,000 人	5,700 人	6,400 人	7,000 人
	じつせい 実績: 1,771 人	じつせい 実績: 2,630 人	3,950 人 (実績見込み)			

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
ちいきりょういくせんたー 地域療育センター 運営事業	<p>しょうがい 障害がある、またはその疑いのある じどう 児童の地域における りょういくたいせい 療育体制の じゅうじつ 充実などを目的として運営を行います。</p> <p>また、くふくしほけんせんたー 区福祉保健センターの りょういくそ だん 相談へのスタッフ派遣、かんけいきかん 関係機関への じゅんかいほうもん 巡回訪問による ぎじゅつしえん 技術支援、しょうがいじ そくだん 障害児相談支援等を行います。</p> <p><振り返り> しょうしん 初診の申込件数が多い西部及び東部 ちいきりょういくせんたー 地域療育センターの相談場所を拡 じゅう 充し、支援の円滑化を図ることで、へい せい 平成28年度末で しょうしんたいき 初診待機期間は 3.2 月 となりまして。</p>	しょうしんたいき 初診待機期間	3.0 月 (現状 3.5 月)	○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ちいまくんれんかい うんえいひ 地域訓練会運営費 じよせいじぎょう 助成事業	<p>しょうがいじ ぼうしやとう じしゆてき そしき 障害児の保護者等が自主的に組織し、 ちいき きのかいふくくんれん ほいく おこな 地域で機能回復訓練や保育を行う、 ちいまくんれんかい うんえいひ じよせい 地域訓練会の運営費を助成します。</p> <p><ふりかえり> ちいまくんれんかい さんか じ どう げんしょうけいこう 地域訓練会の参加児童は減少傾向に ありますが、当事者力や地域力を高 めら活動であり、参加促進や参加しや すい工夫が必要です。</p> <p>【助成実績】 へいせい ねん ど だんたい 平成27年度：57団体 へいせい ねん ど だんたい 平成28年度：56団体</p>	すいしん 推進 (げんじょう 現状69 だんたい 団体)	すいしん 推進	○	すいしん 推進			

⑧ 【目標】

	へいせい ねん ど 平成27年度		へいせい ねん ど 平成28年度		へいせい ねん ど 平成29年度		へいせい ねん ど 平成30年度		へいせい ねん ど 平成31年度		へいせい ねん ど 平成32年度	
ほいくしょうとう 保育所等 ほうもんし 訪問支 えん じゅんかい 援・巡回 ほうもん 訪問	1,500 人	にん	1,500 人	にん	1,750 人	にん	1,775 人	にん	1,850 人	にん	1,950 人	にん
	実績: 1,497 人	にん	実績: 1,653 人	にん	1,680 人 (実績見込み)	にん						
えん じゅんかい 援・巡回 ほうもん 訪問	11,000 人日	にんにち	11,000 人日	にんにち	14,000 人日	にんにち	14,500 人日	にんにち	15,000 人日	にんにち	17,000 人日	にんにち
	実績: 10,169 人日	にんにち	実績: 10,371 人日	にんにち	11,500 人日 (実績見込み)	にんにち						
じ どうはつたつ 児童発達 し えん 支援 ※	49 場所	しよ	52 場所	しよ	55 場所	しよ	100 場所	しよ	110 場所	しよ	すいしん 推進	
	実績: 53 場所	しよ	実績: 77 場所	しよ	92 場所 (実績見込み)	しよ						
し えん 支援 ※	133,000 人日	にんにち	141,000 人日	にんにち	149,000 人日	にんにち	229,000 人日	にんにち	252,000 人日	にんにち	すいしん 推進	
	実績: 159,562 人日	にんにち	実績: 176,280 人日	にんにち	201,000 人日 (実績見込み)	にんにち						

※ 主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所は、平成28年度時点で1場所



⑧ 【目標】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
いりょうがた 医療型 じどうはったつ 児童発達 しえんえん 支援 ※	9 かしよ か所	9 かしよ か所	9 かしよ か所	9 かしよ か所	9 かしよ か所	9 かしよ か所
	のりせき 実績: 9 かしよ か所	のりせき 実績: 9 かしよ か所	のりせき 実績見込み (じっせまかこ) 9 かしよ か所			
	19,000 にんにち 人日	19,000 にんにち 人日	19,000 にんにち 人日	19,000 にんにち 人日	19,000 にんにち 人日	19,000 にんにち 人日
	のりせき 実績: 20,953 にんにち 人日	のりせき 実績: 18,849 にんにち 人日	のりせき 実績見込み (じっせまかこ) 19,000 にんにち 人日			

ちいきりょういくせんたーじっしぶん ちいきりょういくセンター実施分を含む

※ いずれも地域療育センター実施分を含む

しんき
【新規】

きょたくほうもんがたじ どうはったつ しえん 居宅訪問型児童発達支援については、くに じぎょうしやうさい しめ のち ちいき じつじやうとう もと せってい 国が事業詳細を示した後、地域の実情等を基に設定します。

⑧ 【目標】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
しんき 【新規】 こども・子育て 支援等(保 育所、放課後 児童健全育 成事業所 等)における 障害児の受 入れ体制の 整備	—	—	—	かんけいきかん れんけい こども こそだ し 関係機関と連携し、子ども・子育て支 援等(ほいくじよ ほうかご じどうけんぜんいくせいじ 業所等)へ、ほいくじよとうほうちん しえん じゆん 保育所等訪問支援、巡 かいほうちんおよ けんしゅうとう かくじゅう 回訪問及び研修等を拡充すること により、りやう きぼう しょうがいじ うけ 入れ体制の整備を引き続き推進して いきます。		



◆ 学齢障害児の支援の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
ほうかごとう 放課後等における いばしよ じゅうじつ 居場所の充実	がくれいき しょうがいじ たいしょう ほうかご 学齢期の障害児を対象に、放課後や なつやす 夏休みなどに、のびのびと過ごしながら りょういくくねん よかしえん 療育訓練や余暇支援を受けられる いばしよ かくほすす ひ 居場所の確保を進めます。また、引き つづ ほうかごきつずくらぶとう ほうかごじ 続き放課後キッズクラブ等、放課後児 どういくせいじぎょう うけい すいしん 童育成事業における受入れも推進し ます。さらに、放課後等デイサービス じぎょうしょ たい けんしゅう じっし とう 事業所に対し研修を実施する等、 しょうがいじしえん しつ こうじょう む とり 障害児支援の質の向上に向けた取 ぐみ じゅうじつ 組を充実します。 <ふかえ 振り返り> しんきしていまえ せつめいかい へいせい ねんど 新規指定前の説明会を平成27年度 より開催し、事業周知とともに質の かいさい じぎょうしゅうち しつ こうじょう 向上に向けた説明を行いました。 (へいせい ねんど かい へいせい ねんど かい 平成27年度4回、平成28年度3回) じぎょうしょ じっちしどう しゅうだんしどう 事業所への実地指導、集団指導に ぐわ へいせい ねんど けんしゅう おこな 加え、平成27年度からは研修も行 っています。(へいせい ねんど かい へいせい 平成27年度2回、平成 ねんど かい 28年度4回) へいせい ねんど よこはましばんほうかごとう 平成27年度には「横浜市版放課後等 ていサービスガイドライン」を作成・ こうひょう へいせい ねんど がいどらい 公表し、平成28年度にはガイドライ ンに基づいた事業所自己評価及び ほごしゃひょうか じっし ぜん じぎょうしょ し 保護者評価の実施を全事業所に指 導しました。	—	じっし 実施	○	すいしん 推進	



【目標】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
放課後等デイサービス事業	130 箇所 実績: 162 箇所	165 箇所 実績: 217 箇所	200 箇所 実績見込み: 262 箇所	300 箇所	350 箇所	すいしん 推進
※	229,000 人日 実績: 350,782 人日	298,000 人日 実績: 521,130 人日	368,000 人日 実績見込み: 656,000 人日	720,000 人日	840,000 人日	すいしん 推進

※ 主に重症心身障害児を支援する放課後等デイサービス事業所は、平成28年度時点で4箇所

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	現状
がくれいこうきしょうがいじ 学齢後期障害児支援事業	<p>医師、ソーシャルワーカー等のスタッフを配置し、学齢後期の主として発達障害のある児童を対象として、思春期におけるそれぞれの課題の解決に向けた診療、相談及び関係機関との調整等を行います。</p> <p><振り返り> 相談対応延件数は増加傾向にあり、4か所目の事業実施を検討しました。</p> <p>平成27年度： 新規利用者:1,193人 相談対応延件数:13,077件</p> <p>平成28年度： 新規利用者:1,022人 相談対応延件数:14,739件</p>	4 箇所 (現状 3 箇所)	3 箇所	△	4 箇所	



りょういく きょういく れんけい き め しえん
◆療育と教育の連携による切れ目のない支援

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
よこはまがたせんたーてき 横浜型センター的 きのうじゅうじつ 機能の充実	ちいきりょういくせんたーとくべつしえんがっこう 地域療育センターや特別支援学校、 つうきゅうしどうきょうしつとう たんとしや せんもんせい 通級指導教室等の担当者が専門性 かつよう しえん おこな がっこうしえんたいせい を活用して支援を行う学校支援体制 (よこはまがたせんたーてききのう)の充実を はか 図ります。そして、しょうちゅうがっこう の相談や児童生徒、保護者からの相談 そつだん じどうせいと ほごしや そつだん たいおう とくべつ しえん ひつよう に対応するなど、特別な支援が必要な じどうせいと てきかく しえん 児童生徒を的確に支援します。 <ふかえ 振り返り> へいせい ねんど せんたーてききのう 平成28年度には、センター的機能の ばんふれつと さくせい しりつがっこう パンフレットを作成し、市立学校に しゅうち けいはつ はか 周知・啓発を図りました。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
とくべつしえんきょういく 特別支援教育に おけるようほしょう おける幼保小の れんけい 連携	しょうがっこう ようちえん ほいくしょ等 きょうりょく 小学校が、幼稚園・保育所等と協力 けんきゅうじっせん おこな とくべつしえんきょう して、研究実践を行い、特別支援教 いく ようほしょう れんけい じょうほう 育における幼保小の連携と情報の きょうゆうか かん けんきゅう おこな 共有化に関する研究を行います。 <ふかえ 振り返り> へいせい ねんど ねん ほうめん 平成26・27年度の2か年で、4方面 けんきゅうじっせん おこな において研究実践を行いました。 ねんど けんきゅうせいか さつし 28年度には、その研究成果を冊子に すべ しりつがっこう はつしん きょう まとめ、全ての市立学校に発信し共 ゆう 有しました。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しゅうがくせつめいかい 就学説明会	とくべつ しえん きょういく きぼう ようじ 特別支援教育を希望する幼児の しゅうがく かん せつめいかい かいさい 就学に関する説明会を開催します。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねん ど がつ がつ 平成28年度は5月から6月にかけて 28かいじっし 28回実施しました。	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 しゅうがく 就学 せつめいかい 説明会 : 26かい 回	○	すいしん 推進		
しゅうがく きょういく そうだん 就学・教育相談 たいせいきょうか の体制強化	ひとり きょういく に ー ず てきかく 一人ひとりの教育ニーズを的確に はあく じんそく てきせい しゅうがく きょういく 把握し、迅速で適正な就学・教育 そうだん おこな かんけい かん そうご 相談を行うために関係機関が相互に れんけい しゅうがくまえ そつぎょうご 連携しながら、就学前から卒業後ま みとお そうだんたいせい きょうか はか で見通した相談体制の強化を図り ます。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねん ど けん しゅうがく きょう 平成28年度は4,267件の就学・教 いく そうだん おこな ぜんねん ど くら 育相談を行いました。前年度に比べ やく けんそうか かんけい かん 約300件増加したため、関係機関との さら れんけい ひつよう 更なる連携が必要です。	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 しゅうがく きょう 就学・教 いく そうだん 育相談 : 4,300けん (見込み)	△	すいしん 推進		
ちょうかくしょうがいしえん 聴覚障害児支援 じぎょう 事業	よこはま しりつ しょう ちゅうがっこう ざいせき 横浜市立小・中学校に在籍する ちょうかくしょうがい じどうせいと の ー と 聴覚障害のある児童生徒にノート てい く じょうほう ほしょう じっし テイクによる情報の保障を実施し ます。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねん ど にん じどうせいと たい 平成28年度は15人の児童生徒に対 して、390かいのボランティアあはけん を おこな 行いました。	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 ぼらんてい ボランティア あはけん ア派遣 : 260かい (見込み)	○	すいしん 推進		

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ほごしゃ きょうしつかいさい 保護者教室開催 じぎょう 事業	よこはまし りつしょう ちゅうがっこう とくべつ しえんがっこう 横浜市立小・中学校、特別支援学校の保護者を対象とした障害に対する正しい知識の啓発を進めます。 <振り返り> まいとし なんちょう げんご しょうがい 毎年、難聴・言語障害にかかわるものを3回、発達障害にかかわるものを3回開催しています。	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 ほごしゃ 保護者 教室 : 6回	○	すいしん 推進		
なつやす しえんじぎょう 夏休み支援事業 (きゅうがくれいしょうがいじ (旧学齢障害児 夏休み支援事業))	とくべつ しえんがっこう ようじ じどうせい と なつやす 特別支援学校幼児児童生徒の夏休み期間中における余暇活動の充実、保護者の介護負担の軽減及び地域との連携を進めます。 <振り返り> とくべつ しえんがっこう なつやす きかん かくごう 特別支援学校の夏休み期間に、各校の実情に合わせて、プール開放やぶかつどう れくりえーしょん かつどう 等 の余暇活動を毎年度実施しています。	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 さんかしゃ 参加者 : 4,700人 (見込み)	○	すいしん 推進		
しりつようちえんどう とくべつ しえんきょういく 私立幼稚園等 特別支援教育費 補助事業	しりつようちえんどう ざいえん しょうがいじ 私立幼稚園等に在園している障害児に対する教育が、障害の種類・程度などに応じて適切に行われるよう、その経費の一部を設置者に補助し、しょうがいじ きょういく やくだ 障害児の教育に役立てます。 <振り返り> へいせい ねん ど とくべつ しえんきょういく ひ ほじよ 平成28年度の特別支援教育費補助の対象園児数は903人、補助総額は180,600千円となりました。	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 ほじよそうがく 補助総額 : 95,000千円	○	すいしん 推進		

きょういくかんきょう きょういくかつどう じゅうじつ
◆ 教育環境・教育活動の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつしえんきょういくこーでいねーたーのき 特別支援教育コーディネーターの機能強化とスキルアップ (旧発達障害児等支援事業)	とくべつしえんきょういくこーでいねーたーようせい 特別支援教育コーディネーター養成研修を受講して活動している特別支援教育コーディネーターを対象に、さらなるスキルアップを目指して、事例研究などを中心とした研修を進めると共に、関係機関との連携を強化し、専門的な資質を高めめます。 <振り返り> へいせい ねん ど ようせいけんしゅう 平成28年度、養成研修は326人を対象に15回、スキルアップ研修は70人を対象に10回実施しました。また、各区、方面協議会において各校のとりくみ きょうゆう 共有や事例検討を行いました。	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 養成研修 : 12回、スキルアップ研修 : 6回	○	すいしん 推進		
ユニバーサルデザイン の視点に基づく授業の展開	いっぴんがくきゅう きょうががくしゅう 一般学級の教科学習において、特別支援教育で生み出された様々な工夫を取り入れ、全ての子どもたちの授業に対する意欲を高めたり、理解を深めたりすることを目指します。 <振り返り> とくべつしえんきょういく そうごう せん たーおよ せん 特別支援教育総合センター及びセンター研修生の勤務校において研究を行い、毎年3月に報告会を開催しています。重点研究を行っている学校に対し、指導助言を実施しています。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつ し えんがっこう 特別支援学校における ICT 機器 の活用	<p>しゅたいてき がくしゅう のための 効果的な タブレット端末の活用について、特別支援学校全校で実践研究を行います。</p> <p><振り返り></p> <p>へいせい ねん ど 平成26~28年度の3か年で、全ての市立特別支援学校(12校)で実践研究を行いました。平成26年度末には研究の中間報告を冊子にまとめ、29年度に最終報告を予定しています。</p>	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	
とくべつ し えんがっこう さい 特別支援学校の再編整備	<p>にゅうがくしゃぞう ともな きょうあいか たい 入学者増に伴う狭隘化のため、対応が必要な特別支援学校(肢体不自由)を再編整備し、環境の改善と教育内容の充実を図ります。</p> <p><振り返り></p> <p>へいせい ねん ど 平成31年度の左近山特別支援学校(仮称)の開校に向けた設計等を実施するとともに、閉校を予定している北綱島特別支援学校では保護者説明会や個別面談等を実施しました。</p>	すいしん 推進		じっし 実施		○	さいへんせいび 再編整備 じゅうりょう 終了	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 度 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん 度 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつしえんがっこう 特別支援学校 すくーるばす スクールバスの うんこう 運行	<p>じどうせいと どうげこう あんぜんかくほ せいしん 児童生徒の登下校の安全確保と精神 てき しんたいてき ふたん けいげん がっこうきょう 的・身体的負担の軽減による学校教 いく じゅうじつ はか すくーるばす 育の充実を図るため、スクールバス うんこう を運行します。</p> <p><振り返り> へいせい ねん 度 したいふ じゅうこう すく 平成28年度には肢体不自由校でスク ーるばす だいぞうしゃ こう こー ールバスを1台増車し、8校41コー す うんこう じっし スの運行を実施しました。また、平成 ねん 度 から すべ ばす に いちじょうほう 29年度から全てのバスに位置情報 し すて む どうにゅう てきせい うんこうかんり システムを導入し、適正な運行管理 およ ほごしゃ りべんせいこうじょう はか 及び保護者の利便性向上を図りまし た。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
とくべつしえんがっこう いりょう 特別支援学校医療 てきけ あたいせいせいび じ 的ケア体制整備事 ぎょう 業 (きゅうしたいふ じゅうとく 旧肢体不自由特 べつしえんがっこう いりょう 別支援学校医療 てきけ あたいせいせいび じ 的ケア体制整備事 ぎょう 業)	<p>とくべつしえんがっこう したいふ じゅう こう かん 特別支援学校(肢体不自由)5校に看 ごし はいち じどうせいと しゅ 護師を配置しています。児童生徒の主 じ いとう しじ もと かんごし きょう 治医等の指示に基づき、看護師と教 いん れんけい いりょうてきけ あじっしたいせい 員が連携して、医療的ケア実施体制 せいび おこな の整備を行います。</p> <p><振り返り> したいふ じゅうとくべつしえんがっこう こう かんご 肢体不自由特別支援学校5校に看護 し はいち きょういん れんけい いりょうてき 師を配置し、教員と連携した医療的 け あじっしたいせい こうちく ケア実施体制を構築することで、医 りょうてきけ あ ともな じどうせいと あんしん あん 療的ケアを伴う児童生徒が安心・安 ぜん きょういく う 全に教育を受けられる環境整備を おこな 行っています。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



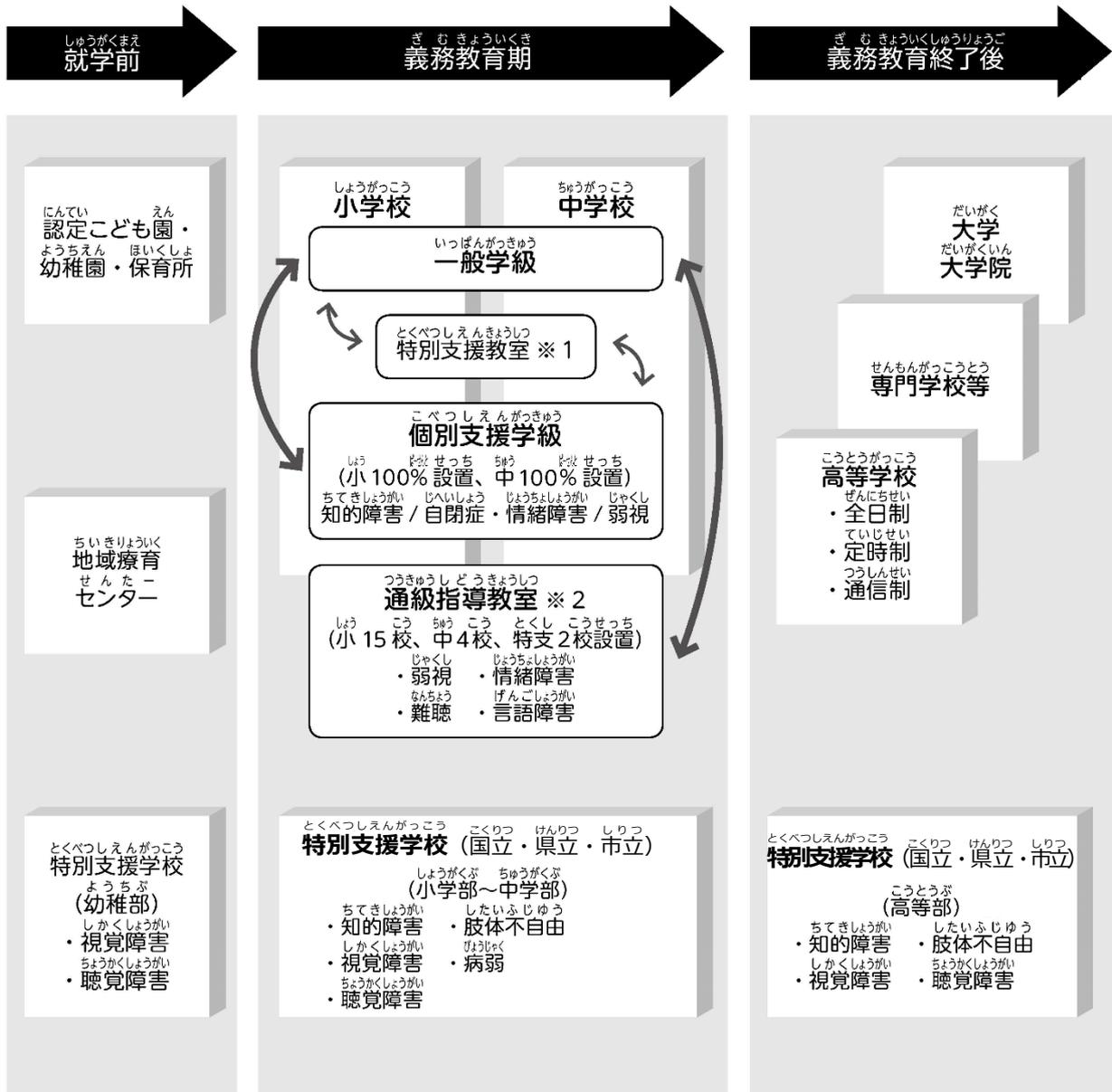
じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ごうないけんしゅう じっし 校内研修の実施	<p>いっばんがっきゅう においても とうくべつ 特別な 支援を要する児童生徒が増加し、支援のニーズが多様化している状況を踏まえ、全ての教員が障害の状態や特性に応じた指導・支援を行えるよう、ケーススタディを重視した研修を充実させ、専門性の向上を目指します。</p> <p><振り返り> すべての小・中学校において、「障害者差別解消法施行に伴う合理的配慮」や「発達障害の理解を深めるために」など各校の実情に応じたテーマで校内研修を実施しています。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
とくべつ しえんきょういく し 特別支援教育支 えんいん じぎょう 援員事業 (旧 障害児学校 生活支援員事業)	<p>小・中学校で障害により学習面、生活面や安全面への支援が必要な児童生徒に対し、校内支援体制が整うまでの間、特別支援教育支援員を配置します。</p> <p><振り返り> 小・中学校で障害等により学習面、生活面や安全面への支援が必要な児童生徒に対し、特別支援教育支援員を配置しました。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつ し えんきょういく 特別支援教育の りーだー いくせい リーダーの育成	<p>だいがくとうせんもんきかん への ほうけん おこな 大学等専門機関への派遣を行うこと により、とくべつ し えんきょういく にな きょういん 特別支援教育を担う教員の りーだー ほうせい おこな リーダーの養成を行います。</p> <p><ふりかえり> きょうしよくいん とくべつ し えんきょういく かん し 教職員の特別支援教育に関する指 導力の向上及び校内における特別 し えんきょういく りーだー いくせい 支援教育のリーダー育成として、横 はまこくりつだいがく とくべつ し えんきょういく こーでい 浜国立大学の特別支援教育コーディネ ーター養成コース ほうけんけんしゅう しょう 派遣研修に小 がっこうきょう ゆ ほうけん 学校教諭を派遣しました。また、特別 し えんきょういく こーでい ねーたーむ けん 支援教育コーディネーター向けの研 しゅう みなお じっせんてき ないよう と 修を見直し、より実践的な内容を取 りいれるなど、すきるあっぷ はか り入れるなど、スキルアップを図って います。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		

◆ 教育から就労への支援

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつしえんがっこう 特別支援学校 しゅうろうしえんじぎょう 就労支援事業	<p>きぎょうしゅうろう め ぎ せい と じっしゅうさきかい 企業就労を目指す生徒の実習先開拓や職場定着支援を行うため、高等とくべつしえんがっこう わかば だいとくべつしえんがっこう ち 特別支援学校(若葉台特別支援学校知的障害教育部門を含む)に就労しえんしどういん はいち 支援指導員を配置します。</p> <p><振り返り> こうとうとくべつしえんがっこう ひ の ちゅうおう ふた 高等特別支援学校(日野中央、二つばし わかば だい ち てきしょうがいきょういく ぶもん 橋、若葉台知的障害教育部門)の3こう り じゅうろうしえんしどういん じよく 校に1人ずつ就労支援指導員を嘱託員として配置し、各校における実しゅうさきかいたく しよくば ていちゃくしえん きよ 習先開拓や職場定着支援に寄与しています。</p>	すいしん 推進		しゅうろうしえん 就労支援 しどういん 指導員を はいち 配置	○	すいしん 推進		
とくべつしえんがっこうしんろ 特別支援学校進路 たんどうしゃれんらくかい 担当者連絡会の かいさい 開催	<p>しりつ とくべつしえんがっこう しんろ たんどうしゃ 市立特別支援学校の進路担当者がしゅうがいしゅべつ こ ていきてき じょうほう 障害種別を超えて定期的に情報こうかん じれいけんきゅう おこな はばひろ しんろ 交換や事例研究を行い、幅広い進路せんたく たいおう 選択に対応できるようにします。</p> <p><振り返り> しりつとくべつしえんがっこう しんろ たんどうしゃ じょうほうこうかん じれいけんきゅう ねんかん かいいていど じつ 市立特別支援学校の進路担当者の情報交換や事例研究を年間5回程度実施し、幅広い進路選択に対応できるようにしました。</p>	すいしん 推進	へいせい ねん ど 平成29年度 しんろたんどうしゃ 進路担当者 れんらくかい 連絡会 かい : 5回 (予定)	○	すいしん 推進			



さんこう よこはまし とくべつしえんきょういく ところ ぼしよ へいせい ねんげんざい (参考) 横浜市における特別支援教育を行う場所 (平成 29 年現在)

- ※1 特別支援教室：集団では学習に参加することが難しい児童生徒が、一時的に一般学級を離れて、落ち着ける環境の中で学習するためのスペース
- ※2 通級指導教室：一般学級に在籍する、比較的軽度の障害がある児童生徒に対して、障害の状態に応じた特別な指導をするための場。

とくべつ しえん ひつよう こ しゅうがくまえ さまざま きかん しえん う
 特別な支援の必要な子どもたちは、就学前から様々な機関の支援を受けていることが
 おお しえん ないよう ぐたいてき ほうほう き けいぞく
 多くあり、それぞれの支援の内容や具体的な方法が切れめなく継続していくようにすること
 たいせつ しゅうがくき とく こべつ きょういくしえんけいかく さくせい しんきゅう しんがく さい ひ
 が大切です。就学期には特に「個別的教育支援計画」を作成して、進級・進学の際の引き
 つ かつよう
 継ぎに活用しています。



しょうがいふくしじゅうじや かくほ いくせい
◆ 障害福祉従事者の確保と育成

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
がくせいとう たいししょう 学生等を対象と した人材の確保事 業 ㊤	せんもんがっこう しないだいがくとう れんけい がくせい 専門学校や市内大学等と連携し、学生 む せつめいかい せみなー けんがくつあー 向けに説明会やセミナー、見学ツアー とう おこな しょうがいふくし ぶ きかい 等を行い、障害福祉に触れる機会を ふ しょうがいふくし じんざいかくほ 増やすなど、障害福祉への人材確保 む とりくみ おこな に向けた取組を行います。 <振り返り> ・平成27年「福祉のしごとフェア」 かんれんだんたい さんかく に関連団体と参画しました。 しょうがいふくし じんざい ぶそく かいけつ む ・障害福祉人材不足の解決に向け、 みんかんじぎょうしや きょうどう ゆうこう こうほう 民間事業者と協働して、有効な広報 だ かいさく けんとう や打開策を検討しています。	すいしん 推進	じっし 実施	△	すいしん 推進	
しょうがいとくせい おう 障害特性に応じた しえん けんしゅう 支援のための研修	こうどうしょうがい はったつしょうがいとう しょうがいとくせい 行動障害や発達障害等の障害特性 おう けんしゅう しょくほうしょうがいしや に応じた研修や、触法障害者に かん けんしゅう けんとう じっし 関する研修などを検討・実施します。 <振り返り> しょうがいふくし きーびす じぎょうしやとう しょく ・障害福祉サービス事業所等の職 いん たいししょう こうどうしょうがい かなか しえん 員を対象に、行動障害に係る支援 りよくこうじょう はか けんしゅう しないほう 力向上を図るための研修を市内法 じん きょうどう おーるよこはま じつ 人が共同して「オール横浜」として実 し 施しました。(再掲) はったつしょうがい かん いちじ そうだん しえん き ・発達障害に関する一次相談支援機 かん しえん すきる こうじょう けんしゅう 関の支援スキル向上のため、研修を じっし 実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
いりょうじゅうじしゃけんしゅう 医療従事者研修 じぎょう さいけい 事業【再掲】㊤	<p>しつぺい しょうがい しょうにおよ じゅうしょうしん 疾病や障害のある小児及び重症心 身障害児・者の支援に必要な知識・ ぎじゆつ こうじょう はか しょうがいとくせい りかい 技術の向上を図り、障害特性を理解 した医療従事者を育成するための いりょうじゅうじしゃ いくせい 研修を実施します。</p> <p>ふ かえ <振り返り></p> <p>いりょう きかん ふくし しせつどう きんむ かん 医療機関や福祉施設等に勤務する看 ごし たいしょう しょうにほうもんかんご じゅう 護師を対象に「小児訪問看護・重 しょうしんしんしょうがいじしゃけんしゅう ぜん にちかん 症心身障害児者研修」を全11日間 じっし 実施しました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
しょうがいふくししせつどう 障害福祉施設等で はたら かんごし しえん 働く看護師の支援 さいけい 【再掲】㊤	<p>しょうがいふくししせつどう はたら かんごし 障害福祉施設等で働く看護師の ていちゃく む しえん おこな 定着に向けた支援を行うとともに、 かくほ ほうさく けんどう 確保の方策について検討します。</p> <p>ふ かえ <振り返り></p> <p>ちかつほ - む しかいし はけん しょく 地活ホームに歯科医師を派遣し、食 じばめん しょうがいふくし げんぼ 事場面において、障害福祉の現場に そく じよげんしどう けんしゅう じっし 即した助言指導や研修を実施してい ます。</p> <p>ちかつほ - む たきのうがたきよてん また、地活ホームや多機能型拠点で はたら かんごし たいしょう かいぎ かい 働く看護師を対象とした会議を開 さい かだい きょうゆう ネットワーク 催し、課題の共有やネットワーク おこな くりを行っています。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しゅうろうしえんきかん 就労支援機関の じんざいいくせい 人材育成	<p>しゅうろうしえんきかんしよくいん しえんすきる 就労支援機関職員の支援スキルを こうじょう じんざいいくせい しく 向上させるため、人材育成の仕組み づくりを検討します。</p> <p><振り返り> しゅうろうしえんせんたー かたけんとう なか 就労支援センターのあり方検討の中 で、人材育成に関する次の内容に取り く 組むことを決めました。 きそちしきすきる せいり がくしゅう き ・基礎知識・スキルの整理と学習の機 会の検討 しょうがいしゅべつけんしゅう たきかん れんけい ・障害種別研修や他機関と連携した 研修の実施 ほんしかいさい そうだんし えんけんしゅう さんか ・本市開催の相談支援研修への参加</p>	けんとう ふ 検討を踏ま えた研修 等の実施	じっし 実施	○	すいしん 推進			
しょうがいふくしきーびす 障害福祉サービ す じぎょうしやうしよくいんむ 事業所等職員向け の研修	<p>じぎょうしよ しよくいん しょうがいしやこよう おこな 事業所の職員が、障害者雇用を行 っている企業での「就業体験」など を通じて、就労支援スキルの向上 や、就労に向けた意識付けを行いま す。</p> <p><振り返り> きぎょう だんたい きょうりよく しななじ 企業・団体の協力のもと、市内事 業所職員を対象に実施しました (毎年度6～7月)。 へいせい ねんど さんか にんずう るいけい 平成27～28年度参加人数(累計)： 92人</p>	さんか にんずう 参加人数 (累計) 90人	へいせい ねんど 平成29年度 さんか にんずう 参加人数 (累計) ：173人	○	さんか にんずう 参加人数 (累計) 380人			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
がいどへるばーとう ガイドヘルパー等 けんしゅうじゅごうりょうじよせい 研修受講料助成 ㊤	がいどへるばーとう しかくしゅとく ガイドヘルパー等の資格取得のため けんしゅうじゅごうりょう いちぶ じよせい じんざい の研修受講料の一部を助成し、人材 かくほ はか 確保を図ります。 <ふりかえり> へいせい ねん ど じよせいにんずう にん 平成28年度助成人数：210人 そうじよせいがく えん 総助成額：3,759,000円 うちわけ ちてきが いどへるばー けん ぜんしん 内訳：知的ガイドヘルパー39件、全身 せい がいどへるばー けん どうごうえんごいつ 性ガイドヘルパー44件、同行援護一 ばんかてい けん こうどうえんご けん 般課程100件、行動援護31件	すいしん 推進	へいせい ねん ど 平成29年度 じよせいにんずう 助成人数 : 250人 (見込み) 、 そうじよせいがく 総助成額 : 5,000,000円 (見込み)	○	すいしん 推進			
がいどへるばー ガイドヘルパー すきるあつぷけんしゅう スキルアップ研修 ㊤	しつ たか きーびす ていきょう より質の高いサービスが提供できる よう、いどうしえん じぎょう じゅうぎょうしゃ よう、移動支援事業の従業者を たいしやう けんしゅう じっし 対象に研修を実施します。 <ふりかえり> へいせい ねん ど さーびす ていきょうせきにんしゃ 平成28年度はサービス提供責任者 む じゅうぎょうしゃ む わ かいざい 向けと従業者向けに分けて開催し ました。 さーびす ていきょうせきにんしゃ む けんしゅう じゅ サービス提供責任者向け研修の受 こうしやすう にん ぜん かい 講者数：132人(全4回) じゅうぎょうしゃ む けんしゅう じゅこうしやすう 従業者向け研修の受講者数：250 にん ぜん かい 人(全6回)	すいしん 推進	へいせい ねん ど 平成29年度 さーびす てい サービス提 きやうせきにんしゃ 供責任者 む けんしゅう 向け研修 : 240人 (見込み) 、 じゅうぎょうしゃ む 従業者向 け研修 : 480人(見 込み)	○	すいしん 推進			



とうじしゃ しえんたいせい じゅうじつ
◆当事者による支援体制の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しゃかいさんかすいしんせん 社会参加推進セン ターによる団体活 動支援機能の充実	しょうがいしゃほんにん かつどう ささ じんざい 障害者本人の活動を支える人材の いくせい すす おな しょうがい 育成を進めるとともに、同じ障 害が ある人たちの交 流や ひと こうりゅう コミュニケーションの機会を拡 充 こみゆにけーしょん きかい かくじゅう し、各団体活動を促進する取組を推進 します。 かくだんたいかつどう そくしん とりくみ すいしん <振り返り> しょうがいしゃ じりつ しゃかいさんかどう そくしん 障害者の自立や社会参加等を促進す るための当事者による事業を17事 とうじしゃ じぎょう じ 業実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
しょうがいしゃほんにんおよ 障害者本人及び かぞく ふ 家族による普 きゅう けいはつかつどう すい 及・啓発活動の推 進【再掲】	しゃかいさんかすいしんせん たー ちゅうしん 社会参加推進センターが中心とな り、しょうがいしゃほんにん かぞくおよ かくだんたい 障害者本人、家族及び各団体と れんけい きょうどう しょうがいりかい そくしん む 連携・協働し、障害理解の促進に向 けた普及・啓発活動を推進します。 ふきゅう けいはつかつどう すいしん <振り返り> しゃかいさんかすいしんせん たーどう とう ふきゅう 社会参加推進センター等により、普及 けいはつりーふれっと さくせいおよ けいはつこうさ 啓発リーフレットの作成及び啓発講座 とう じっし 等を実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



◆ 一般就労の促進と定着支援の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しゅうろうしえんせんたー 就労支援センター (9か所)	<p>はたら 働くことを希望する しょうがい 障害のある方や</p> <p>すでに働いている方が安心して</p> <p>はたら 働き続けるための支援を、企業や</p> <p>かんけいきかん 関係機関と連携して行います。</p> <p><振り返り></p> <p>かんけいきかん 関係機関と連携しながら、しょうがいしゃ 障害者の</p> <p>きぎょうとう 企業等への就労・定着支援を推進</p> <p>するほか、へいせい 平成27年度から しゅうろうしえん 就労支援</p> <p>せんたー センターのあり方について、方向性を</p> <p>さだ 定めて具体的な取組の検討を行いま</p> <p>した。また、へいせい 平成28年度から ぜんせんた 全センタ</p> <p>ー 共通の支援員向け研修を実施し</p> <p>ています。</p> <p>(へいせい 平成28年度末の支援対象者数(登</p> <p>ろくしゃすう 録者数) : 4,316人)</p>	しえんたいしやう 支援対象者数 (9か所計) 3,400人	しえんたいしやう 支援対象者数 (9か所計) 4,300人 (見込み)	○	しえんたいしやう 支援対象者数 (9か所計) 4,400人			
しゅうろうしえんきかん 就労支援機関の じんざいいくせい 人材育成【再掲】	<p>しゅうろうしえんきかん 就労支援機関職員 支援スキルを</p> <p>こうじやう 向上させるため、じんざいいくせい 人材育成の仕組み</p> <p>づくりを検討します。</p> <p><振り返り></p> <p>しゅうろうしえんせんたー 就労支援センターのあり方検討の中</p> <p>で、じんざいいくせい 人材育成に関する次の内容に取り</p> <p>く 組むことを決めました。</p> <p>・きそちしき 基礎知識・スキルの整理と学習の</p> <p>きかい 機会の検討</p> <p>・しょうがいしゅべつけんしゅう 障害種別研修や他機関と連携した</p> <p>けんしゅう 研修の実施</p> <p>・ほんしかいさい 本市開催の相談支援研修への参加</p>	けんとう 検討を踏まえた研修等の実施	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
はたら 働きたい！あなた のシンポジウム	はたら しょうがいしゃ こよう すず きぎょう 働く障害者や、雇用を進める企業 などの「生の声」を聴くことで、 しょうがいしゃ こよう りかい そくしん けいはつ すず 障害者雇用の理解促進や啓発を進 めます。 <振り返り> 「働きたい！あなたのシンポジウ ム」を開催（年1回）し、当事者・御 家族等に対して就 労啓発を行いま した。（平成27～28年度参加者数累 計：824人）	さんかしゃすう 参加者数 （累計） 600人	へいせい ねん ど 平成29年度 さんかしゃすう 参加者数 （累計） 1,224人 （見込み）	○	さんかしゃすう 参加者数 （累計） 3,000人	
きぎょう ふくし 企業と福祉をつな ぐセミナー	しょうがいしゃ こよう けんとう きぎょう とう 障害者雇用を検討する企業等を たいしょう ふくし しえん きかんとう 対象に、福祉の支援機関等をつなげ ることや雇用に関する制度の情報 提供を行います。 <振り返り> かながわけん たとし ごどう きぎょう む 神奈川県や他都市と合同で企業向 けセミナーを実施しました。 平成27～28年度累計：185社	さんかきぎょうすう 参加企業数 （累計） 120社	へいせい ねん ど 平成29年度 さんかきぎょうすう 参加企業数 （累計） 240社 （見込み）	○	さんかきぎょうすう 参加企業数 （累計） 240社	
しょうがいしゃ こよう じれい 障害者雇用事例の 紹介	しょうがいしゃ こよう すく とりくみ おこな 障害者雇用で優れた取組を行う 企業等をデータベースにして市の WEBページ等で広く紹介します。 <振り返り> きぎょう だんたいなど ひありんぐ おこな 企業や団体等へのヒアリングを行 い、順次WEBページへの掲載を行 いました。また、神奈川県や国の機関 との情報共有を行いました。 しょうかい きぎょうすう りんけい しゃ へいせい 紹介企業数（累計）：76社（平成28 年度末）	しょうかいきぎょうすう 紹介企業数 （累計） 90社	へいせい ねん ど 平成29年度 しょうかいきぎょうすう 紹介企業数 （累計） 90社 （見込み）	○	しょうかいきぎょうすう 紹介企業数 （累計） 150社	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ちゅうしょうきぎょう 中小企業への しょうがいしゃこようしえん 障害者雇用支援	しないきぎょうたいはんしちゅうしょうき 市内企業の大半を占める中小企 ぎょうたいこようけいはつむけんどう 業に対する雇用啓発に向けて検討し ます。 <ふかえ <振り返り> けいざいだんたいどうでむでまえこうぎじっし 経済団体等に出向き、出前講座を実施 しました。 へいせいねんどうるいけいだんたいしゃ 平成27~28年度累計：6団体93社	けんどうふ 検討を踏ま えた事業 の実施	へいせい 平成27~ 29年度 るいけい 累計 : 8団体 120社 (見込み)		○	すいしん 推進		

ふくしてきしゅうろう いっぱんしゅうろう いこう
◆ 福祉的就 労から一般就 労への移行

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ちいき 地域における就 労 しえんねつとわーく 支援ネットワーク の構築	かんけいきかんどうしれんけいきょうりよくたいせい 関係機関同士の連携・協力体制を こうちく 構築することで、企業就 労の促進、 しゅうろうごていちゃくしえんおよ、せいかつしえん 就 労後の定着支援及び生活支援の じゅうじつはか 充実を図ります。 <ふかえ <振り返り> しゅうろうしえんせんたーちゅうしん 就 労支援センターを中心として、特 べつしえんがっこうしゅうろういこうしえんじぎょうしよ 別支援学校や就 労移行支援事業所 とうかくかんけいきかんれんけいすす 等、各関係機関と連携を進めました。	かんけいきかん 関係機関 との連携 ガイドライン の策定等	じっし 実施		○	すいしん 推進		

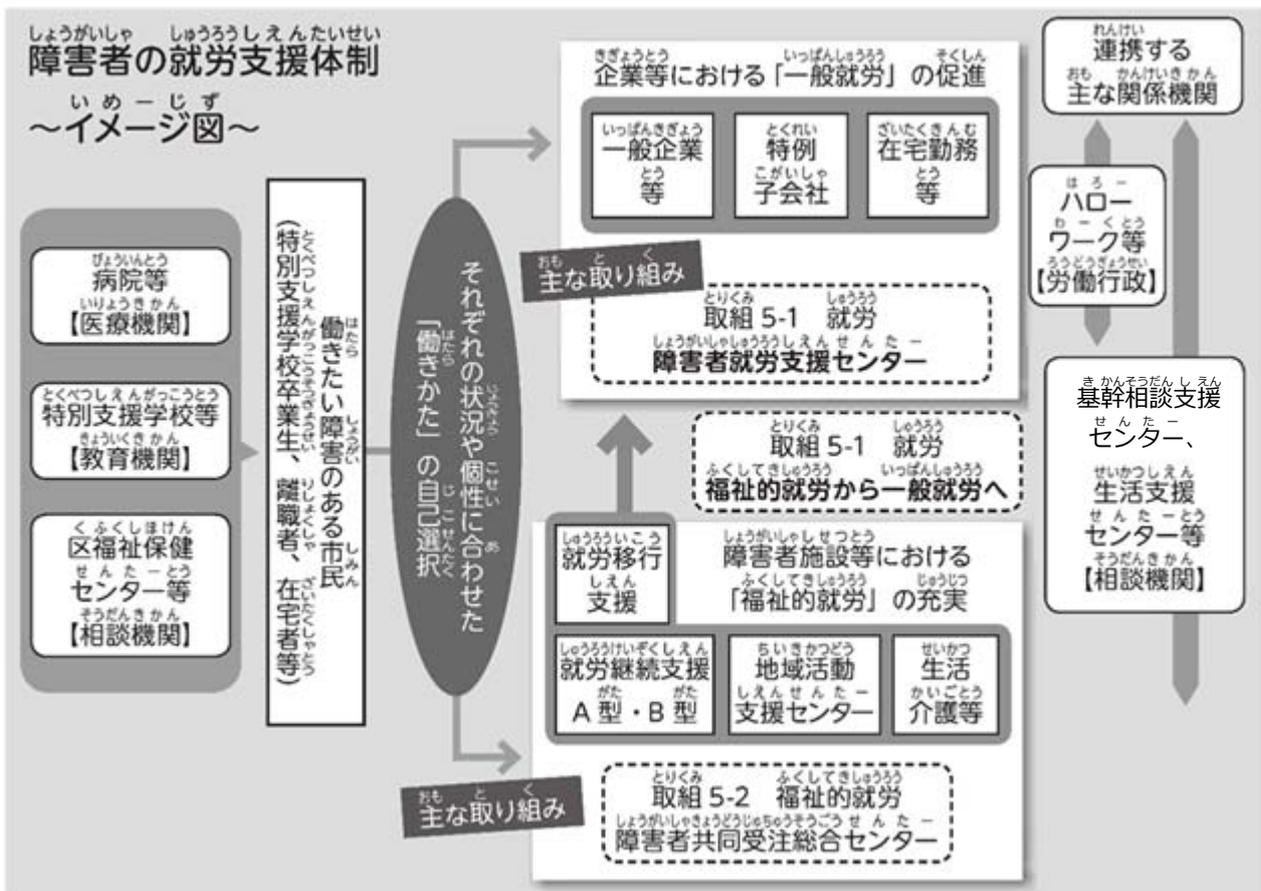
福 【目標】

平成24年度実績の福祉施設から一般就労への移行者数	160人	平成29年度見込の福祉施設から一般就労への移行者数	360人 【平成28年度実績】:457人	平成32年度見込の福祉施設から一般就労への移行者数	781人
平成25年度末時点での就労移行支援事業の利用者数	556人	平成29年度末時点での就労移行支援事業の利用者数	898人 【平成28年度実績】:950人	平成32年度末時点での就労移行支援事業の利用者数	1,949人
平成25年度実績の就労移行支援事業の利用者のうち就労移行率が3割以上の事業所の割合	36%	平成29年度見込の就労移行支援事業の利用者のうち就労移行率が3割以上の事業所の割合	41% 【平成28年度実績】:26%	平成32年度見込の就労移行支援事業の利用者のうち就労移行率が3割以上の事業所の割合	41%

福

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
【新規】 就労定着支援利用者数 (仮称)	—	—	—	くに じぎょうしようさい しめ のち ちいき じつじょうとう 国が事業 詳細を示した後、地域の実情等 を基に設定します。		

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいふくしき - びす 障害福祉サービス じぎょうしよとくしよくいんむ 事業所等職員向け の研修【再掲】	<p>じぎょうしよの職員が、しょうがいしやこよう おこなっている企業での「就業体験」などを通じて、しゅうろうしえんすきる こうじょうや、しゅうろうむ いしきづ おこな 就労に向けた意識付けを行います。</p> <p><振り返り> きぎょう だんたい きょうりよく しな いじ 企業・団体の協力のもと、市内事業所職員を対象に実施しました（毎年6月～7月）。</p> <p>へいせい ねんど きょうりよく きぎょうすう るい 平成27～28年度協力企業数（累計）：40社</p> <p>へいせい ねんど さんか にんずう るいけい 平成27～28年度参加人数（累計）：92人</p>	さんか にんずう 参加人数（累計）90人		へいせい ねんど 平成29年度 さんか にんずう 参加人数（累計）：173人	○	さんか にんずう 参加人数（累計）380人		





さぎょう じゅうじつ こうちんこうじょう
◆作業の充実と工賃向上

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
よこはま しょうがいしゃ 共同受注総合セ ンターの運営	<p>市内の障害者施設等の情報を集約するとともに、企業等からの作業受注における窓口及びコーディネート等を行います。</p> <p><振り返り> 平成27年度にセンターを開設しました。センターでは、市内障害者施設等の登録を進め、作業内容などの情報を集約し、WEBページで周知しました。また、工賃向上のため、企業訪問やパンフレットの改訂、研修や技術的指導を行いました。なお、工賃総額は増加したものの、加盟施設及び利用者の増により平均工賃は目標を下回る見込みです。</p>	10 % 以上 上昇	加盟施設に おける「月額 平均工賃」が	平成29年度 加盟施設に おける「月額 平均工賃」の 維持 (見込み)	△	加盟施設に おける「月額 平均工賃」が 10 % 以上 上昇		
ゆうせんちょうたつすいしん 優先調達推進のた めの庁内への啓発	<p>庁内LANや庁内報などを活用し、優先調達における区局等の優れた発注事例について広く周知・啓発を行います。</p> <p><振り返り> 毎年度、優先調達方針を策定し、優れた発注事例を「ハートオーダー通信」として庁内LANに掲載するとともに(平成27~28年度 累計12号発行)、庁内会議等で事例を説明し、発注を促進しました。</p>	すすん 推進	じっし 実施	○	すすん 推進			



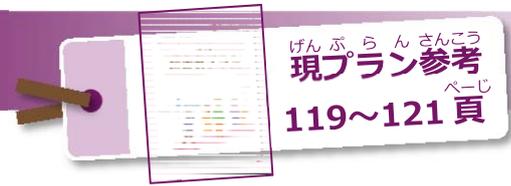
じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
たいしょう じぎょうしょ かく 対象事業所の拡 大に向けた検討	とくれいごがいしゃ じゅうどしやうがいしゃ たすうこようじ 特例子会社、重度障害者多数雇用事 業所及び在宅就業障害者等、法律 ぎょうしよおよ ざいたくしゅうぎょうしやうがいしゃとう ほりつ の対 象 範 囲 である 企 業 等 への 対 象 たいしやうはん い きぎやうとう たいしやう かくだい む けんとう おこな 拡大に向けて検討を行います。 <振り返り> へいせい ねんど けんとう おこな ねんど 平成28年度から検討を行い、29年度 じゅうどしやうがいしゃ たすうこようじぎょうしよおよ に 重 度 障 害 者 多 数 雇 用 事 業 所 及 び ざいたくしゅうぎょう し えんだんたい よこはまし 在宅就業支援団体、横浜市ふれあい しよっ ぷ、たいしやう ふく よこはまししやう シヨップを対 象 に含めた「横浜市障 がいしや し えん し せつ とう じゆん もの にんてい 害者支援施設等に 準 ずる者の認定に かかるとう ざくてい じぎょうしよ かかる要綱」を策定し、10事業所を にんてい 認定しました。	か だい けん 課題の検 しょう ふ 証を踏ま えた検討 けんとう		じっし 実施	○	すいしん 推進		
しゃかいさんか 社会参加する機会 の確保	きぎやう はたら しせつ にちちゅうかよ 企業で働くことや、施設に日中通 う ことが こんなん ざいたく かた しゃかいさんか が困難な在宅の方でも、社会参加 する機会を確保できるような仕組み きかい かくほ しく を検討します。 <振り返り> しかくしやうがいしゃ かたとう しゃかいさんか てれ 視覚障害者の方等の社会参加やテレ わーく じやうほうしゅうしゅう いけんこう ワークについて情報収集・意見交 かん おこな 換を行いました。	—		—	○	—		

◆ 日中活動場所の拡充

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
にっちゅうかつどうばしょ 日中活動場所の やくわり めいかくかおよ 役割の明確化及び せっちそくしん 設置促進	<p>げんざい にっちゅうかつどう にかか さまざま しゃ 現在の日中活動に関わる、様々な社</p> <p>かいしげん やくわり いちづ めいかく 会資源の役割や位置付けを明確にし、</p> <p>しょうがいしゃほんにん きぼう かつどう ばしょ せん 障害者本人が希望する活動場所を選</p> <p>たく ほうほう いりょうてき け あとうせんもんてき 択できる方法や医療的ケア等専門的</p> <p>しえん ひつよう かた しえんほうほう な支援が必要な方への支援方法につ</p> <p>いて、検討します。併せて、特別支援</p> <p>がっこう そつぎょうせいとう い さき 学校の卒業生等の行き先となる日</p> <p>ちゅうかつどう ばしょ せっち そくしん 中活動場所の設置を促進します。</p> <p><ふりかえり></p> <p>にっちゅう きーびす にかか かくしせつ やく 日中のサービスに関わる各施設の役</p> <p>わり かんけいしゃ まじ 割などについて、関係者などを交えた</p> <p>けんとう かだい きょうゆう か おこな 検討や、課題などの共有化を行いました。</p>	—	—	△	—			

福【見込み】

	へいせい ねん ど 平成27年度	へいせい ねん ど 平成28年度	へいせい ねん ど 平成29年度	へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
せいいかつかいご 生活介護	7,150人分	7,759人分	8,420人分	7,783人分	8,080人分	8,417人分
	実績: 6,956人分	実績: 7,147人分	7,306人分 (実績見込み)			
	125,140人日	135,795人日	147,357人日	127,637人日	131,598人日	136,283人日
	実績: 116,606人日	実績: 118,489人日	125,438人日 (実績見込み)			



福【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
じりつくんれん (機能訓練)	26人分	26人分	26人分	30人分	30人分	30人分
	実績: 29人分	実績: 35人分	35人分 (実績見込み)			
	422人日	422人日	422人日	511人日	511人日	511人日
	実績: 497人日	実績: 603人日	596人日 (実績見込み)			
じりつくんれん (生活訓練)	191人分	193人分	194人分	207人分	222人分	233人分
	実績: 169人分	実績: 192人分	208人分 (実績見込み)			
	2,801人日	2,829人日	2,857人日	3,402人日	3,638人日	3,874人日
	実績: 2,784人日	実績: 3,015人日	3,364人日 (実績見込み)			
しゅうろういこう 支援事業	657人分	807人分	898人分	1,376人分	1,628人分	1,949人分
	実績: 830人分	実績: 950人分	1,036人分 (実績見込み)			
	10,911人日	13,683人日	15,252人日	24,241人日	29,130人日	35,486人日
	実績: 13,988人日	実績: 16,116人日	18,176人日 (実績見込み)			
しゅうろうけいそくし 支援事業 (A型)	670人分	891人分	1,141人分	698人分	750人分	812人分
	実績: 563人分	実績: 593人分	664人分 (実績見込み)			
	13,422人日	17,851人日	22,849人日	13,994人日	15,031人日	16,255人日
	実績: 11,294人日	実績: 11,886人日	13,259人日 (実績見込み)			
しゅうろうけいそくし 支援事業 (B型)	2,964人分	3,507人分	4,150人分	4,248人分	4,855人分	5,551人分
	実績: 2,846人分	実績: 3,250人分	3,570人分 (実績見込み)			
	53,365人日	61,501人日	72,747人日	72,506人日	82,283人日	93,555人日
	実績: 49,612人日	実績: 55,979人日	63,011人日 (実績見込み)			

福【見込み】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
地域活動支援センター	189か所	185か所	181か所	154か所	154か所	154か所
	実績: 170か所	実績: 158か所	実績見込み: 158か所			
作業所型 (※)	3,892人	3,800人	3,707人	3,411人	3,411人	3,411人
	実績: 3,755人	実績: 3,462人	実績見込み: 2,709人			
中途障害者地域活動センター	18か所	18か所	18か所	18か所	18か所	18か所
	実績: 18か所	実績: 18か所	実績見込み: 18か所			
	529人	529人	529人	529人	529人	529人
	実績: 527人	実績: 531人	実績見込み: 529人			

※ 地域活動支援センター作業所型については、必要数を確保するとともに、障害福祉サービスへの事業移行を進めていきます。

※ この表における単位の考え方は次のとおりです。

- ・「人分」「回」…月間の利用人数・回数
- ・「人日」…「月間の利用人数」×「一人一か月あたりの平均利用日数」

いどうしえん じゅうじつ しゃかいさんか そくしん ◆移動支援の充実による社会参加の促進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
いどうじょうほうせんたー 移動情報センター うんえいとらじぎょう 運営等事業の推進 ④	いどうしえん かん じょうほう しゅうやく 移動支援に関する情報を集約し、ひとりひとりにあった適切な情報を提供することや、移動支援を支える人材の発掘・育成を行う移動情報センターを全区で開設し、市内のどの地域でも移動支援の仕組みを効果的に利用できるようにします。 <振り返り> いどうじょうほうせんたーの窓口を平成28年度までに15区に設置し、運営を行いました。平成29年度に新たに3区で開設することで、全区で展開する予定です。	そうだんけんすう 相談件数 2,500件		へいせい ねんど 平成29年度 そうだんけんすう 相談件数 2,500件 (見込み)		○	そうだんけんすう 相談件数 3,600件	
がいどへるばーとう ガイドヘルパー等 けんしゅうじゅうこうりょう 研修受講料助成 【再掲】 ④	がいどへるばーとう しかくしゅとく 知的障害者等の資格取得のため けんしゅうじゅうこうりょう いちぶ じょせい 研修受講料の一部を助成し、人材確保を図ります。 <振り返り> へいせい ねんど 平成28年度助成人数：210人 そうじょせいがく 総助成額：3,759,000円 うちわけ ちてきが いどへるばー けん ぜん 内訳：知的ガイドヘルパー39件、全身性ガイドヘルパー44件、同行援護 いっばんかてい 一般課程100件、行動援護31件	すいしん 推進		へいせい ねんど 平成29年度 じょせいにんずう 助成人数 ：250人 (見込み) 、 そうじょせいがく 総助成額 ：5,000,000円 (見込み)		○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねん 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
がいどへるばー ガイドヘルパー すきるあつぷけんしゅう スキルアップ研修 【再掲】 ㉞	より質の高いサービスが提供できる よう、移動支援事業の従業者を 対象に研修を実施します。 <振り返り> 平成28年度はサービス提供責任者 向けと従業者向けに分けて開催し ました。 サービス提供責任者向け研修の受 講者数：132人（全4回） 従業者向け研修の受講者数：250 人（全6回）	すいしん 推進	へいせい ねん 平成29年度 サービス提供責任者 向け研修 : 240人 (見込み) 、 従業者向 け研修 : 480人 (見込み)	○	すいしん 推進	
こうりつてき しゃりょうりよう 効率的な車両利用 の仕組みの検討 ㉞	つうしやとう しゃかいさんか 一層進められる よう、乗合形式等による効率的な 車両利用の仕組みを検討します。 <振り返り> カーシェアリング(乗合送迎)の仕組 みについて、検討委員会を設置し、平 成25年から平成27年にかけて検討を おこなひ、報告書を作成しました。また、 エリアを限定したモデル走行等も実 施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	



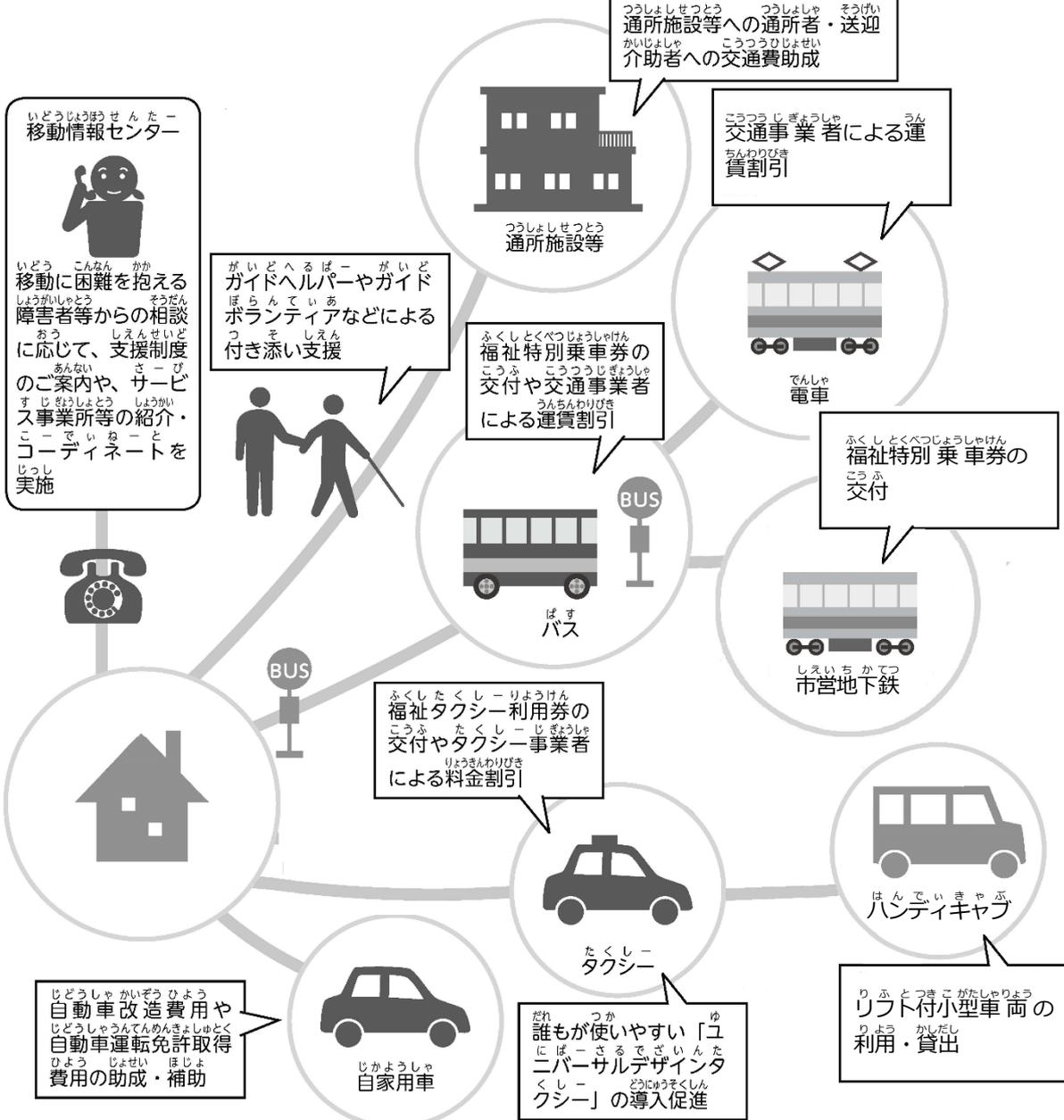
じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
なんびょうかんじゃがいしゅつ 難病患者外出 しえん さーびす じぎょう 支援サービス事業	<p>いっばん こうつうきかん りよう がいしゅつ 一般の交通機関を利用しての外出に こんなん ともな くるま りようしゃとう ふくし 困難を伴う、車いす利用者等に福祉 しやりよう さーびす ていきよう 車両によるサービスを提供します。</p> <p><振り返り></p> <p>へいせい ねん どのべりようかいすう 平成27年度延利用回数:1,119回</p> <p>へいせい ねん どのべりようかいすう 平成28年度延利用回数:946回</p>	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 のべりようかいすう 延利用回数 :850回 (見込み)	○	すいしん 推進		
ざいたく じゅうしやう かんじゃ 在宅重症患者 がいしゅつしえんじぎょう 外出支援事業	<p>くるま いどう こんなん すとれっ 車いすによる移動が困難でストレッ チャー対応車を使用せざるを得ない なんびょうかんじゃ つういんとう さい しよてい かんじゃ 難病患者が、通院等の際、所定の患者 とうはんそうようじどうしゃ りよう ばあい 等搬送用自動車を利用した場合に、そ の移送費の一部を助成します。</p> <p><振り返り></p> <p>へいせい ねん どのべりようかいすう 平成27年度延利用回数：499回</p> <p>へいせい ねん どのべりようかいすう 平成28年度延利用回数：540回</p>	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 のべりようかいすう 延利用回数 :580回 (見込み)	○	すいしん 推進		
ふくしゆうしやうらんそうじぎょう 福祉有償運送事業	<p>いどう かいじょ ひつよう しんたいしやうがいしやとう 移動に介助が必要な身体障害者等を たいしやう とうろく えぬびーおーほうじんとう 対象に、登録されたNPO法人等に より、じかようじどうしゃ しやう ゆうしやう より、自家用自動車を使用して有償 ゆそう さーびす そくしん で輸送するサービスを促進します。</p> <p><振り返り></p> <p>ふくしゆうしやうらんそう おこな えぬびーおーほうじんとう 福祉有償運送を行うNPO法人等 のとうろくとう ふくしゆうしやうらんそう てきせい 登録等や福祉有償運送の適正な じっしとう きようぎ ふくしゆうしやう 実施等について協議する、福祉有償 いどう さーびす うんえいきやうぎかい かいさい 移動サービス運営協議会を開催しま した。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



【見込み】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
移動支援事業	668,820時間分	688,978時間分	709,744時間分			
業	659,335時間分	682,557時間分	703,034時間分 (実績見込み)	724,125時間分	745,849時間分	768,224時間分
(移動介						
護・通学通	4,546人分	4,819人分	5,109人分			
所支援)	5,105人分	5,401人分	5,671人分 (実績見込み)	5,898人分	6,134人分	6,379人分

障害児・者の移動を支援するさまざまな仕組み





とりくみ ぶんか すぽーつ れくりえーしょん
取組 5-5 文化・スポーツ・レクリエーション

ぶんか げいじゅつかつどう すいしん
◆文化・芸術活動の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
さんかがたあーといべ 参加型アートイベ んとかいさい ントの開催	<p>市内のさまざまな会場を活用して、参加型のアートイベントを検討・開催します。3年に一度開催するパラトリエンナーレへの基盤づくりとして、障害者の芸術活動の環境づくりを検討します。</p> <p><振り返り></p> <p>障害のある方のアート活動を支援する人材を育成することを目的とし、文化事業ボランティア等の研修会及び各種ワークショップを実施しました。</p>	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	
よこはまばらとり ヨコハマ・パラトリ エンナーレの開催	<p>障害者の芸術活動を促進することや、障害者と芸術家の協働による作品作りを行うことなどにより、障害者自身の一層の自立につなげていくため、現代アート国際展である「ヨコハマ・パラトリエンナーレ」を開催します。</p> <p><振り返り></p> <p>ヨコハマ・ヒューマン & テクノランドにおいてパラトリエンナーレ2014および横浜ランデヴープロジェクトで継続して実施している障害者施設とのアート活動について紹介しました。</p>	かいさい 開催		かいさい 開催		○	かいさい 開催	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
こうしゅ ず が こうさく 4校種 図画工作・ びじゅつ しやうさくひんてん 美術・書道作品展 とくべつしえんきやういくぶもん 特別支援教育部門 ~つたえたい ばく のおもい わたしの きもち~の開催 【再掲】	こうしゅ しやう ちゅう こう とくべつしえん 4校種（小・中・高・特別支援）の ようじ じどうせいと さくひん いちどう あつ し 幼児児童生徒の作品を一堂に集め、市 民公開の作品展を開催することで、 しょうがい こ ぶんかかつどう かん 障害のある子どもの文化活動に関す る普及・啓発を図ります。 <ふ かえ 振り返り> こうしゅ しやう ちゅう こう とくべつしえん 4校種（小・中・高・特別支援）の ようじ じどうせいと さくひん いちどう あつ 幼児児童生徒の作品を一堂に集め、 しみんこうかい さくひんてん かいさい まいとし まん 市民公開の作品展を開催し、毎年1万 人に 超える 市民が 来場 しています。 また、へいせい ねんど 平成28年度には N P O 法人の こうえん う てんじ ば ねる あたら 後援を受け、展示するパネルを新し くすることができました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
しょうがいしゃ げいじゅつかつ 障害者の芸術活 どうしえん ねつとわー 動支援ネットワ ークの構築	しょうがいしゃ びじゅつかつどう ささ じんざい だん 障害者の美術活動を支える人材、団 たいどう かんけいきかん ねつとわーく 体等の関係機関によるネットワーク か はか げいじゅつかつどう じょうほうしゅうしゅう 化を図り、芸術活動の情報収集、 はっしん おこな きよてん せつち 発信を行う拠点を設置します。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねんど 平成29年度から じぎょうか 事業化するため、よ 算を配分しました。	こうちく 構築	こうちく 構築	○	すいしん 推進	



げんぷらんさんこう
現プラン参考
 ページ
125~127 頁

すぽーつかつどう すいしん
◆スポーツ活動の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ぼらとらいあすろん パラトライアスロンの強化	よこはまらぼーる ぼらとらいあ 横浜ラポールにおいて、パラトライア するんきょうぎ ふきゅう きょうか む スロン競技の普及・強化に向けた とりくみ すいしん 取組を推進します。 <振り返り> ぐりーんとらいあすろん せかいとらい グリーントライアスロン、世界トライ あすろんしりーずよこはまたいかい しーさい アスロンシリーズ横浜大会、シーサイ どとらいあすろんに きょうりよく ドトライアスロンに協力していま す。また、イグジットハンドラーの実 ぎけんしゅう よこはまらぼーる ぶーる じつ 技研修を横浜ラポールのプールで実 施しました。			すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
とくべつしえんがっこう 特別支援学校にお けるスポーツ選手 育成強化事業	おりんピック・パラリンピックとうきょう オリンピック・パラリンピック東京 たいかいさい けいき とくべつしえんがっこう 大会開催を契機として、特別支援学校 おこな すぽーつ せかい めぎ じどう で行うスポーツで世界を目指す児童 せいと しえん 生徒を支援することにより、障害の ある子どもたちのじりつ しゃかいさんか 自立と社会参加に つなげます。 <振り返り> とくべつしえんがっこう じどうせいと たつきゅう すい 特別支援学校の児童生徒が卓球、水 えい りくじょうきょうぎ せかいてき たいかい しゅう 泳、陸上競技で世界的な大会に出 じょう 場するにあたり、奨励金を交付した しょうがいしゃ すぽーつ ふきゅうけいはつ ほか、障害者スポーツの普及啓発の ためにゴールボールやボッチャの備 ひん とくべつしえんがっこう せいび 品を特別支援学校に整備しました。			すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

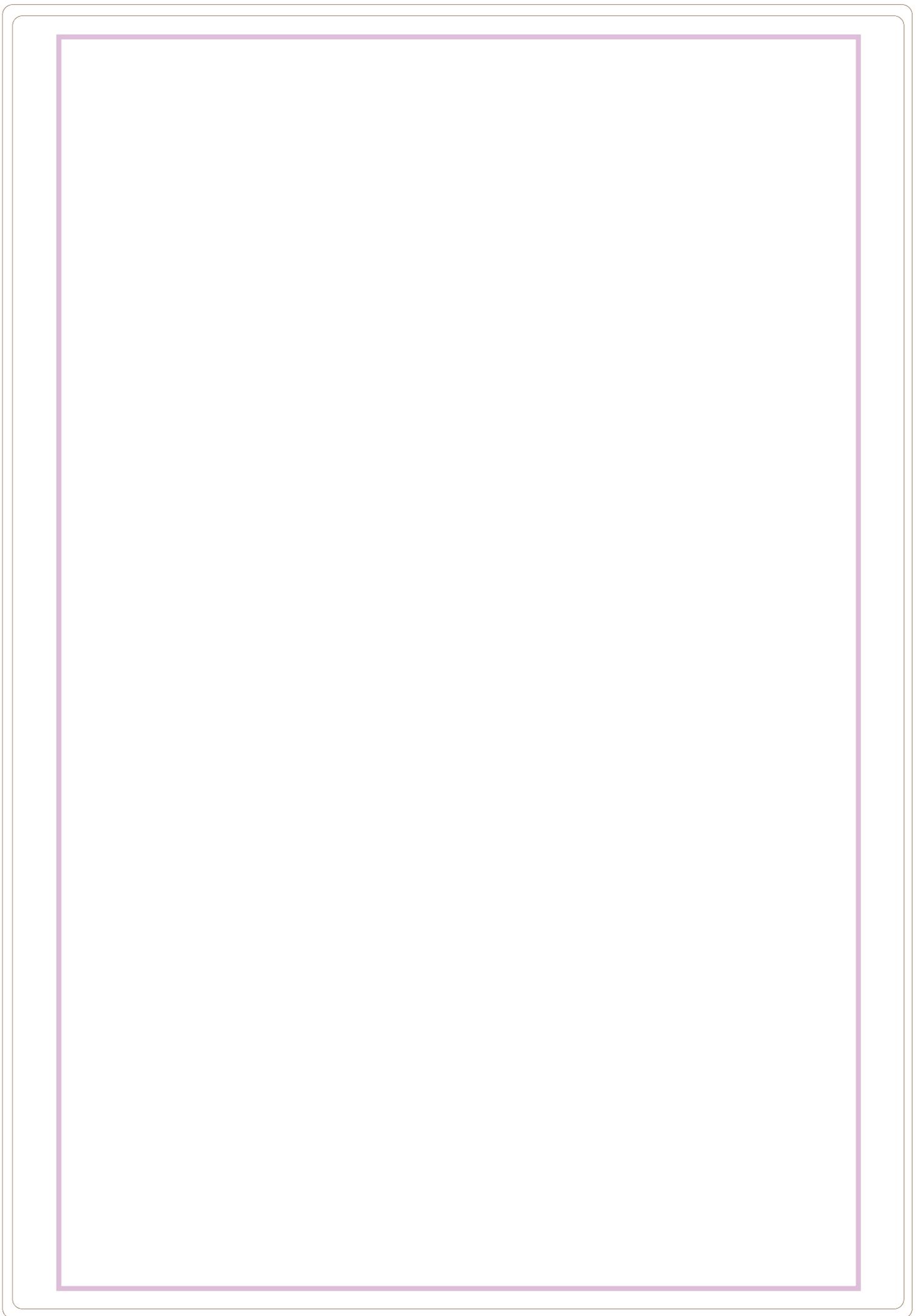


れくりえーしょんかつどう すいしん
◆レクリエーション活動の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゃ すぽーつ 障害者スポーツの けいはつ 啓発	<p>た と し とりくみ じょうほうしゅうしゅう 他都市における取組の情報収集 と、具体的な啓発方法の検討を行います。</p> <p>ふ かえ <振り返り></p> <p>た と し とりくみ じょうほうしゅうしゅう すす 他都市取組の情報収集を進めると 同時に、しょうがいしゃ すぽーつ たいけんかい し 同時に、障害者スポーツ体験会を市 ないこうりつがっこう ちゅうしん かいさい 内公立学校を中心に開催しました。</p> <p>また、よこはま まらそん きふきん かつよう また、横浜マラソンの寄付金を活用 し、りお ぱらりん びっく しゅつじょうせんしゅ し、リオパラリンピック出場選手へ のじょせいきん こうふ や、りお ぱらりん びっ の助成金の交付や、リオパラリンピッ クのさつえい おこな しゃしん か しゃしんてん クの撮影を行った写真家の写真展を かいさい おりん びっく ぱらりん びっ 開催し、オリンピック・パラリンピッ くとうきょうたいかい む けいはつかつどう と く東京大会に向けた啓発活動にも取 り組みました。</p>	けいはつほうほう 啓発方法の けんとう 検討	じっし 実施	○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
みちか ちいき 身近な地域におけ る障害者スポーツ の推進	みちか ちいき すぽーつ せんたー 身近な地域にあるスポーツセンター とう かつよう しょうがいしゃ すぽーつ 等を活用して、障害者スポーツにい つでもとりくむことができるよう、 ちいきじんざい いくせい すす しょうがいしゃ すぽ 地域人材の育成を進め、障害者スポ ーツ活動の推進を図ります。 ＜ふ かえ 振り返り＞ ちゅうとしょうがいしゃ ちいきかつどう せん たー たいいく 中途障害者地域活動センター、体育 きょうかいどう れんけい ネットワーク こうちく 協会等と連携しネットワークを構築 してきた地域の活動を、引き続き支援 しています。さらに、いそごく こうなんく 磯子区と港南区 あら ネットワークの構築に取り 組んでいます。また、しょうがいしゃ すぽーつ の周知活動、スポーツボランティア しゅう ちかつどう すぽーつ ぼらんてい あ 養成講座や初級障害者スポーツ指 導員研修会等の実施を通して、支援 しゃ しどうしゃ じんざいいくせい すす 者・指導者の人材育成を進めていま す。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	



よこはまし かくしょうがいしゃてちょうとうとうけい すいひ 横浜市の各障害者手帳等統計の推移

(1) 横浜市の障害者手帳所持者数について

よこはましはっこう かくしょうがいしゃてちょう しんたいしょうがいしゃてちょう あい てちょう りょういくてちょう せいしんしょうがいしゃ
横浜市発行の各障害者手帳（身体障害者手帳・愛の手帳（療育手帳）・精神障害者
ほけんふくし てちょう へいせい ねん がつまつじてん しょうじしやすう ごうけい やく まんにん よこはまし ぜんたいじん
保健福祉手帳）の平成29年3月末時点での所持者数の合計は、約16万人（横浜市全体人
こう ひ ばーせんと
口比で4.28 %）となっています。

ひょう 1によると、てちょうしよじしやすう ねん やく まん せんになん げんざい やく まん せんになん
表1によると、手帳所持者数は、24年の約13万9千人から、現在までに、約2万1千人
ぞうか ぞうかりつやく ばーせんど しょうじしやすう の わ
増加し（増加率約12.9 %）、所持者数が伸びていることが分かります。

また、ひょう 2からわかるように、しょうがいしゃてちょうしよじしやすう ぞうかりつ すうねん
表2からわかるように、障害者手帳所持者数の増加率については、ここ数年
ばーせんと ばーせんと あいだ すいひ よこはましじんこう ぞうかりつ くら おお
2 % から4 % の間で推移しており、横浜市人口の増加率と比べても大きいことか
ら、しょうがいしゃてちょうしよじしや わりあい ぶん こんご しょうがいしゃてちょうしよじしやすう わりあい
ら、障害者手帳所持者の割合が増えてきています。今後も障害者手帳所持者数の割合は
ぶん すすむ
増えていくことが推測されます。

ひょう 表1 横浜市人口と障害者手帳所持者数の比較

（3月末時点、ただし、横浜市人口のみ4月1日時点。以下同様）（人）

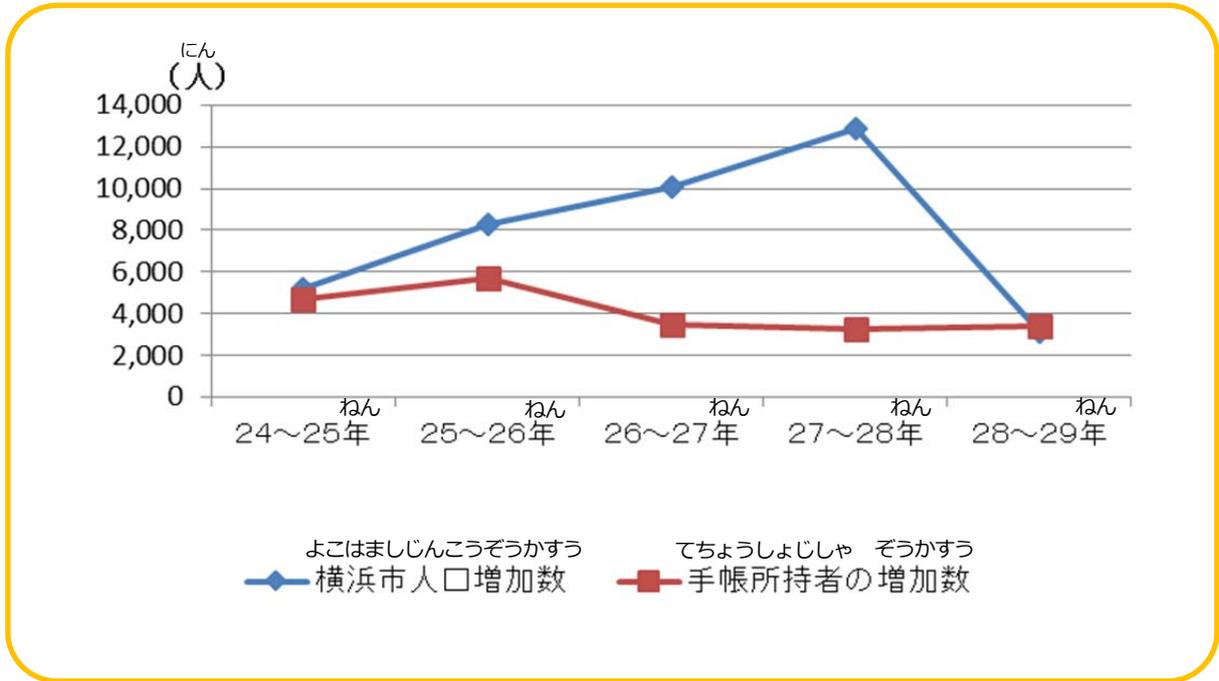
	24年	25年	26年	27年	28年	29年
横浜市人口	3,688,624	3,693,788	3,702,093	3,712,170	3,725,042	3,728,124
身体障害者	94,291	96,114	98,706	99,120	99,199	99,356
知的障害者	21,864	23,005	24,171	25,447	26,712	27,958
精神障害者	22,785	24,538	26,475	28,285	30,225	32,249
手帳所持者全体	138,940	143,657	149,352	152,852	156,136	159,563
横浜市人口における障害者 手帳所持者数割合	3.77%	3.89%	4.03%	4.12%	4.19%	4.28%

ひょう 表2 横浜市人口と障害者手帳所持者数の増加数の比較

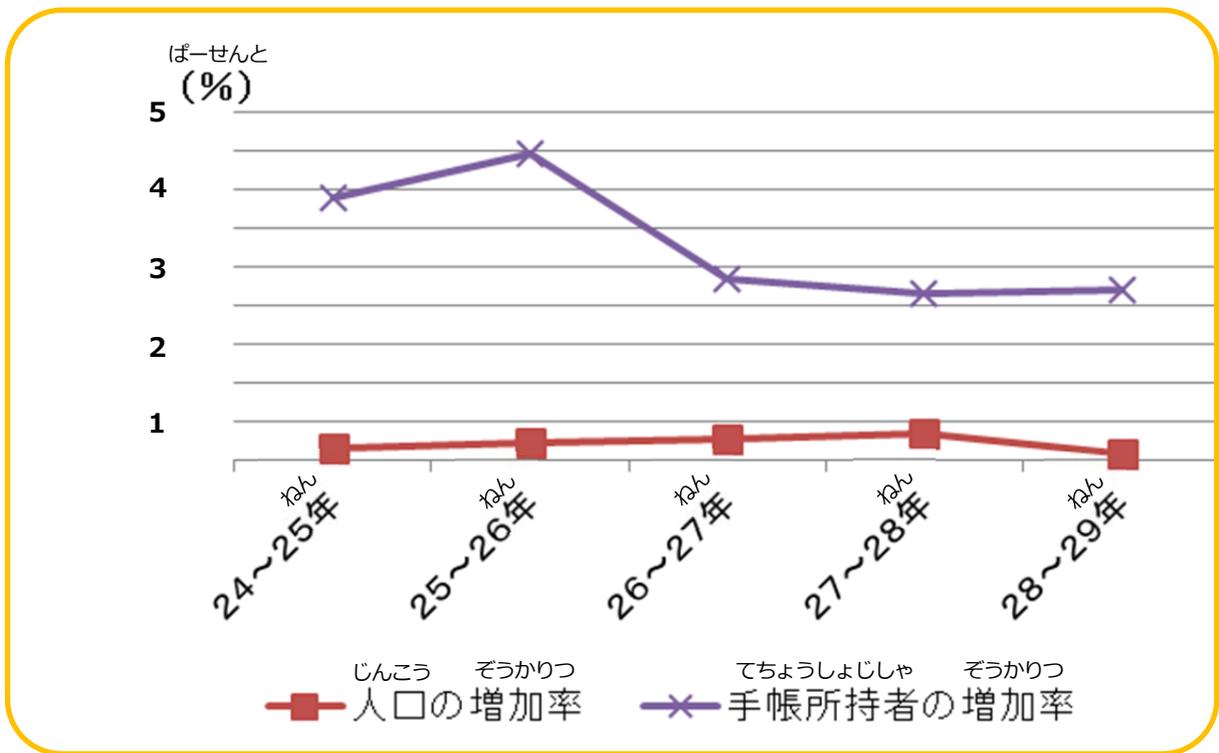
（人）

	24～25年	25～26年	26～27年	27～28年	28～29年
横浜市人口増加数	5,164	8,305	10,077	12,872	3,082
（増加率）	(0.14%)	(0.22%)	(0.27%)	(0.35%)	(0.08%)
手帳所持者の増加数	4,717	5,695	3,500	3,284	3,427
（増加率）	(3.39%)	(3.96%)	(2.34%)	(2.15%)	(2.19%)

ず
図1 しじんこう てちょうしょじしゃ ぞうかすう
市人口と手帳所持者の増加数



ず
図2 しじんこう てちょうしょじしゃ ぞうかりつ すいい
市人口と手帳所持者の増加率の推移



しょうがいべつ じょうきょう
(2) 障害別の状況

しんたいしょうがいしやてちょう
ア 身体障害者手帳

ひょう 表 3 によると、てちょうしよじしやすう 手帳所持者数は、したふじゆう 肢体不自由が最も多く、ついで、ないぶしょうがい 内部障害となっています。

また、ひょう 表 4 からわかるように、てちょうしよじしやすう 手帳所持者数は、さいみまん 18歳未満の人数が横ばい、さい 18歳から 65歳未満の人数が減少しているのに対して、さいいじょう 65歳以上の人数は、ねんねんぞうか 年々増加しています。

ひょう 表 3 身体障害者手帳 障害状況 別推移

かくとし 各年 3月 末時点 (人)

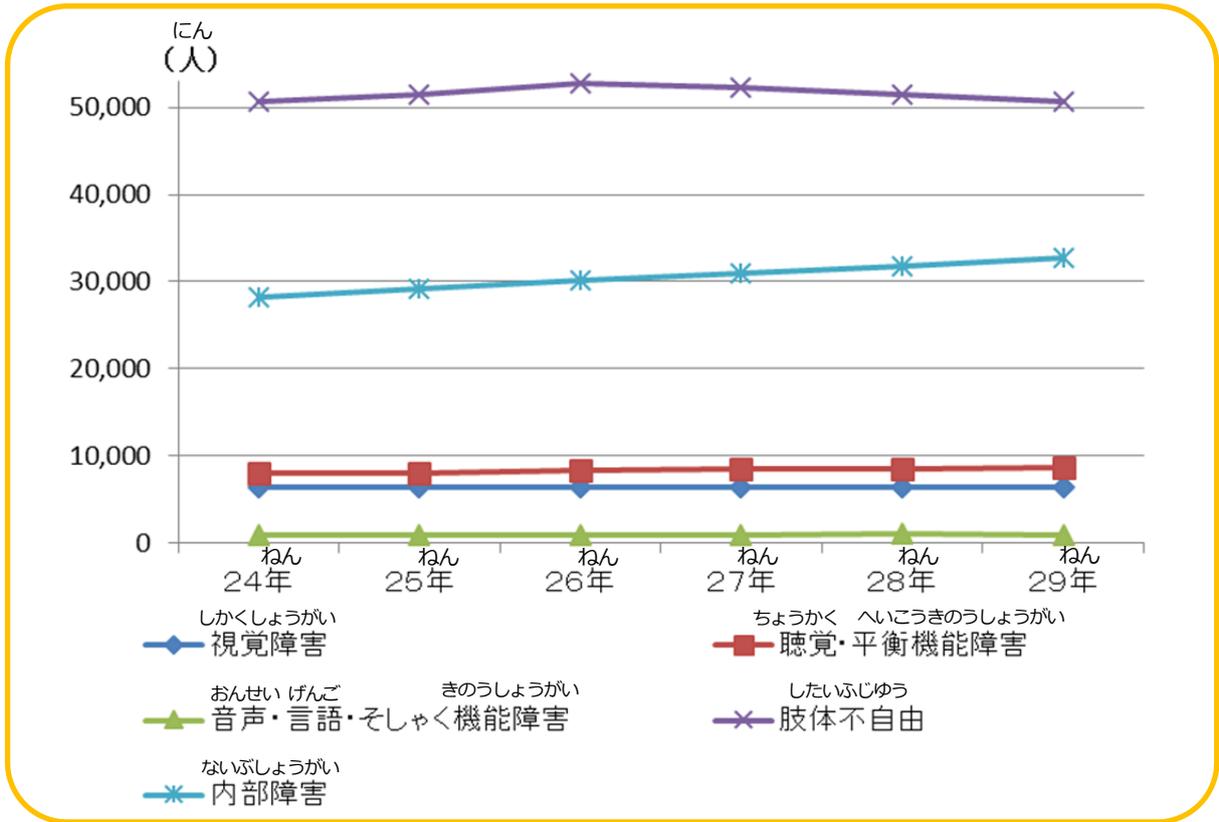
	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
しかくしょうがい 視覚障害	6,400	6,441	6,435	6,447	6,397	6,370
ちやうかく へいこう きのう しょうがい 聴覚・平衡機能障害	7,987	8,083	8,321	8,452	8,585	8,643
おんせい げんご きのう しょうがい 音声・言語・そしゃく機能障害	946	957	964	982	993	979
したふじゆう 肢体不自由	50,706	51,519	52,813	52,284	51,420	50,669
ないぶ しょうがい 内部障害	28,252	29,114	30,173	30,955	31,804	32,695
けい 計	94,291	96,114	98,706	99,120	99,199	99,356

ひょう 表 4 身体障害者手帳所持者数 年齢別推移

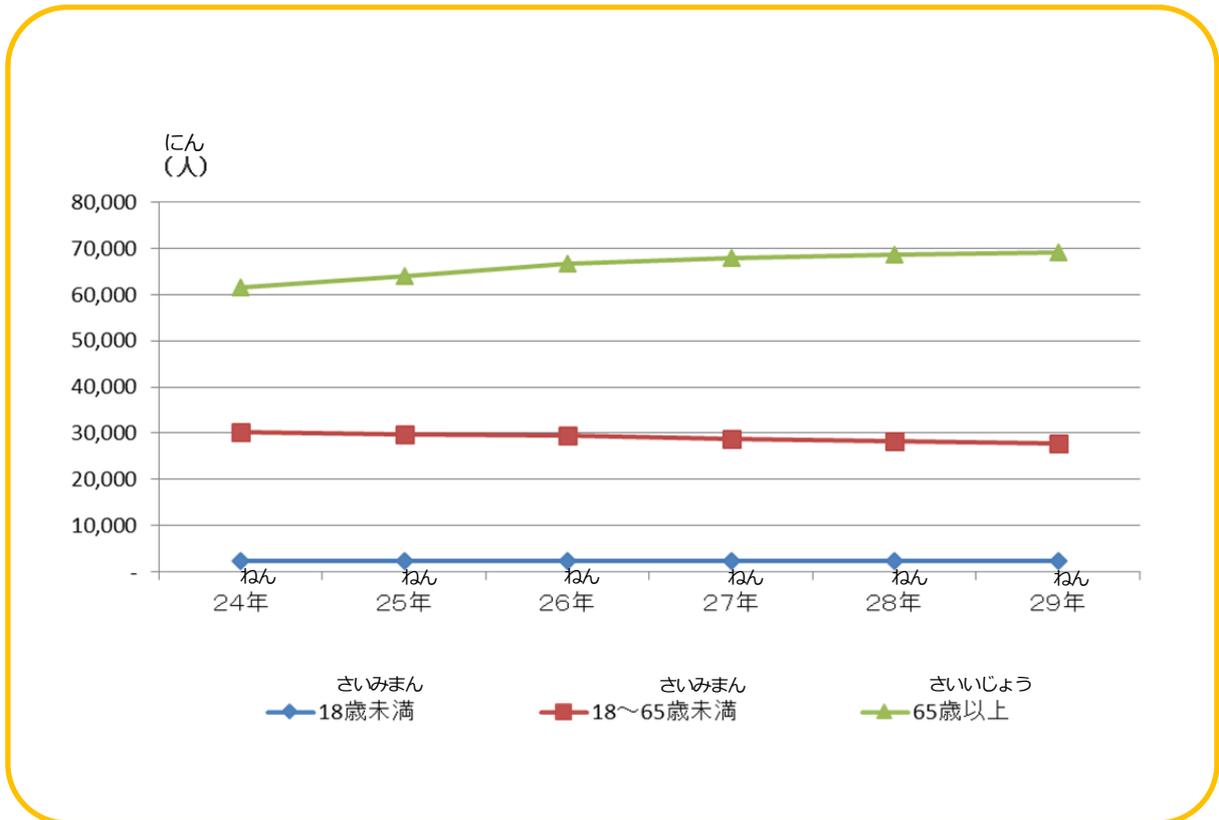
かくねんど 各年度 3月 末時点 (人)

	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
さいみまん 18歳未満	2,423	2,425	2,469	2,426	2,428	2,397
(下段：全体に占める割合)	(2.6%)	(2.5%)	(2.5%)	(2.4%)	(2.4%)	(2.4%)
さいみまん 18～65歳未満	30,332	29,702	29,509	28,823	28,193	27,903
(下段：全体に占める割合)	(32.2%)	(30.9%)	(29.9%)	(29.1%)	(28.4%)	(28.1%)
さいいじょう 65歳以上	61,536	63,987	66,728	67,871	68,578	69,056
(下段：全体に占める割合)	(65.3%)	(66.6%)	(67.6%)	(68.5%)	(69.1%)	(69.5%)
けい 計	94,291	96,114	98,706	99,120	99,199	99,356

す
図3 身体障害者 障害状況別推移



す
図4 身体障害者 年齢別推移



あい てちょう りょういくてちょう
イ 愛の手帳(療育手帳)

ひょう ねん がつまつじてん ねん くら せん にん いじょう ふ なか
 表 5によると、29年3月末時点では、24年と比べ、6千人以上増えています。中でも、
 びー てちょう しよし かに やく せん せんたい そつかすつ やく わり ぶ し
 B2の手帳を所持している方が、約4千人と、全体の増加数の約6割5分を占めています。
 ひょう ねん かい ねんれい しよししやすつ わりあい
 また、表 6からわかるように、全体の所持者数における各年齢の所持者数の割合は、こ
 の6年間を通して、ほぼ横ばいとなっています。

ひょう あい てちょう しやうがいていど べつ すい
表 5 愛の手帳 障害程度別推移

かくねん がつまつ じてん にん
 各年3月末時点 (人)

	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
えー A1	4,502	4,629	4,775	4,908	4,995	5,087
えー A2	4,487	4,617	4,706	4,799	4,923	5,040
びー B1	5,004	5,164	5,366	5,646	5,843	6,009
びー B2	7,871	8,595	9,324	10,094	10,951	11,822
けい 計	21,864	23,005	24,171	25,447	26,712	27,958

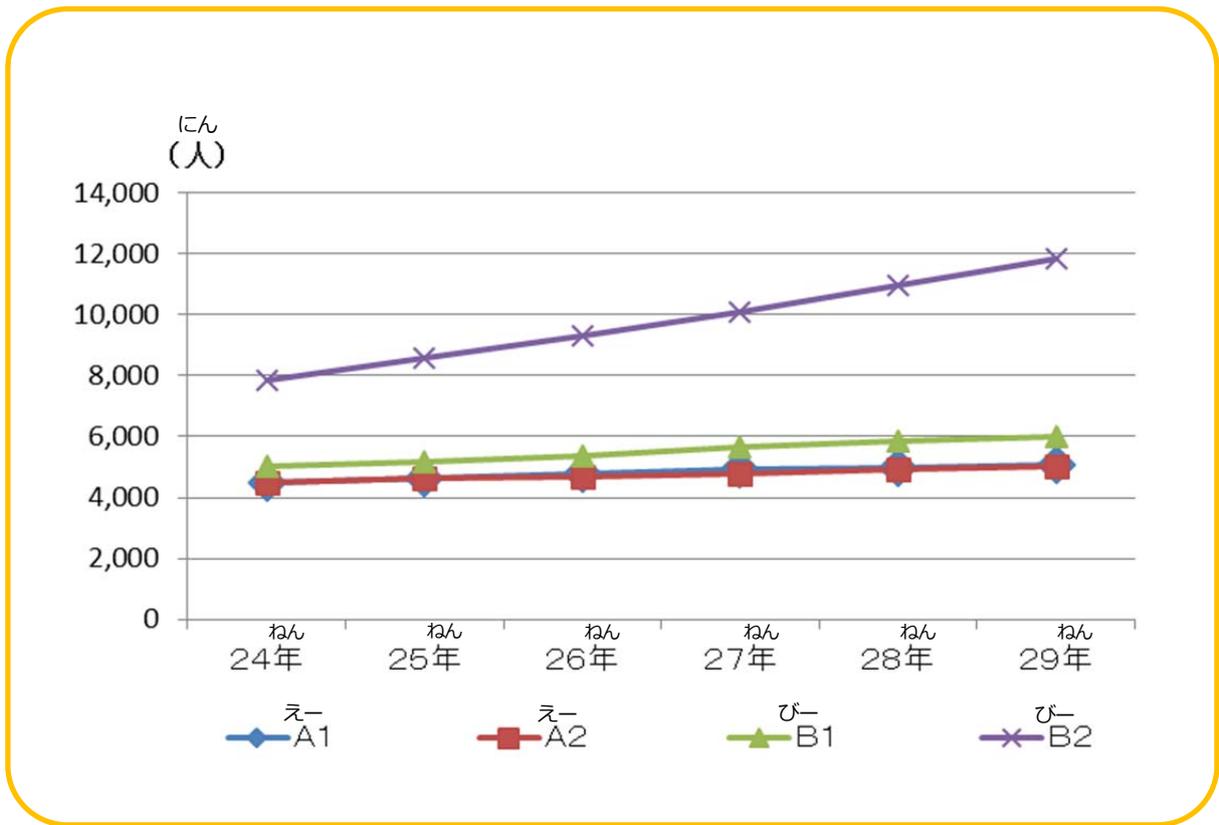
さんこう えー あいきゆー いか えー あいきゆー びー あいきゆー びー あいきゆー
 ※参考 A1…IQ 20以下、A2…IQ 21～35、B1…IQ36～50、B2…IQ51～75

ひょう あい てちょう しよししや すう ねんれいべつ すい
表 6 愛の手帳所持者数の年齢別推移

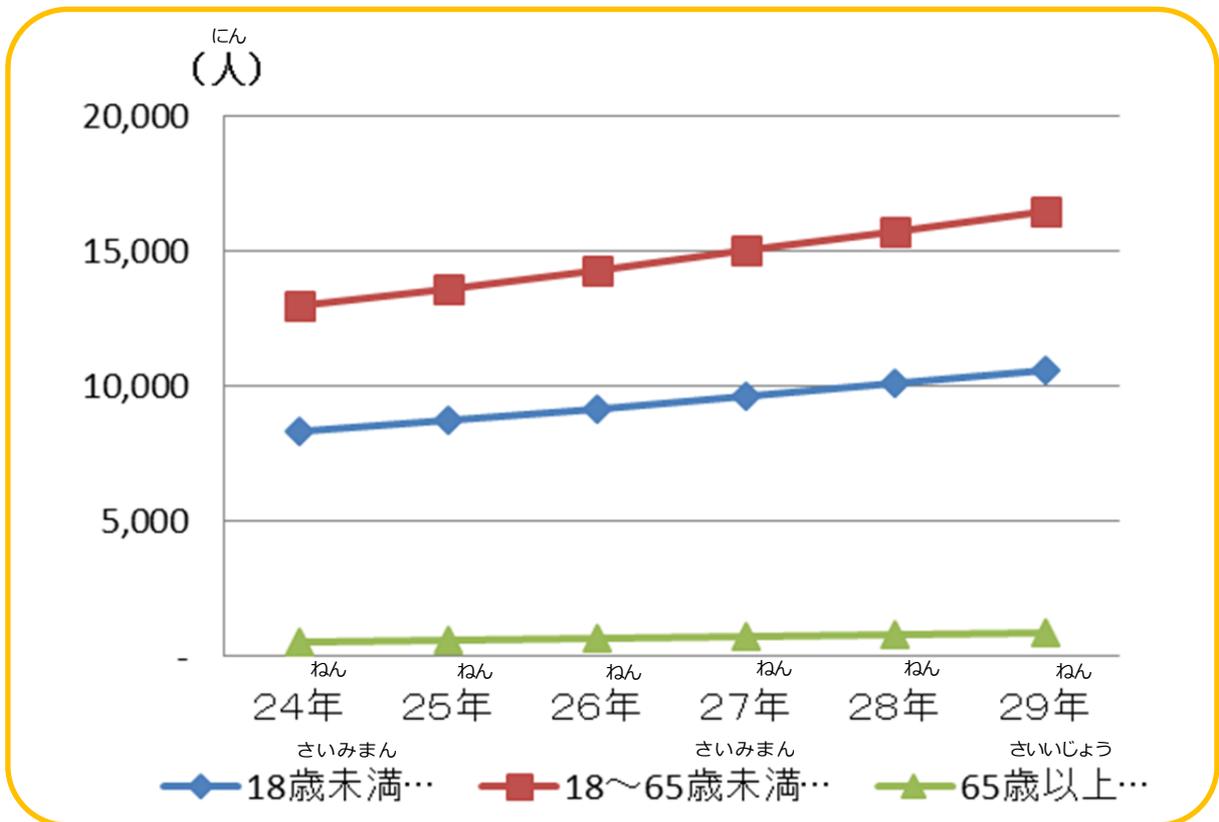
かくとし がつまつ じてん にん
 各年3月末時点 (人)

	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
さいみまん 18歳未満	8,315	8,761	9,172	9,646	10,141	10,612
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(38.0%)	(38.1%)	(37.9%)	(37.9%)	(38.0%)	(38.0%)
さいみまん 18～65歳未満	13,010	13,636	14,312	15,058	15,746	16,485
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(59.5%)	(59.3%)	(59.2%)	(59.2%)	(58.9%)	(59.0%)
さいいじょう 65歳以上	539	608	687	743	825	861
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(2.5%)	(2.6%)	(2.8%)	(2.9%)	(3.1%)	(3.1%)
けい 計	21,864	23,005	24,171	25,447	26,712	27,958

す
図5 あい てちょう りょういくてちょう
愛の手帳 (療育手帳)



す
図6 あい てちょう りょういくてちょう
愛の手帳 (療育手帳)



せいしんしょうがいしゃほけん ふくしてちょう
ウ 精神障害者保健福祉手帳

しんたいしょうがい ちてきしょうがい せいしんしょうがい しょうがい てちょうしよじしゃ ねんかん
身体障害・知的障害・精神障害の3障害の手帳所持者のうち、この5年間でもっと
も増加してきているのが、精神障害です。表7からわかるように、平成29年3月末時点
では、24年と比べ、9千人以上増えており、特に2級が約5千5百人(約1.4倍)増え
ています。

また、表8からわかるように、手帳所持者数は、20歳～65歳未満の人数が大きく増加し
てきている傾向に対し、20歳未満の人数は、ほぼ横ばい、65歳以上の所持者数は、若干の
増加という傾向となっています。

ひょう 表7 精神障害者保健福祉手帳 等級別推移 各年3月末時点(人)

	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
きゅう 1級	2,669	2,694	2,870	2,994	3,118	3,308
きゅう 2級	12,387	13,399	14,497	15,477	16,623	17,844
きゅう 3級	7,729	8,445	9,108	9,814	10,484	11,097
けい 計	22,785	24,538	26,475	28,285	30,225	32,249

ひょう 表8 精神障害者保健福祉手帳所持者の年齢別推移 各年3月末時点(人)

	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
さいみまん 20歳未満	298	408	493	596	727	869
げだん ぜんたい し わりあい (下段:全体に占める割合)	(1.3%)	(1.7%)	(1.9%)	(2.1%)	(2.4%)	(2.7%)
さいみまん 20～65歳未満	19,663	20,952	22,355	23,682	25,126	26,666
げだん ぜんたい し わりあい (下段:全体に占める割合)	(86.3%)	(85.4%)	(84.4%)	(83.7%)	(83.1%)	(82.7%)
さいいじょう 65歳以上	2,824	3,178	3,627	4,007	4,372	4,714
げだん ぜんたい し わりあい (下段:全体に占める割合)	(12.4%)	(13.0%)	(13.7%)	(14.2%)	(14.5%)	(14.6%)
けい 計	22,785	24,538	26,475	28,285	30,225	32,249

※精神障害者保健福祉手帳については、18歳未満での統計を取っていないため、20歳未満としています。

図7 せいしんしょうがいしゃ とうきゅうべつすい
精神障害者 等級別推移

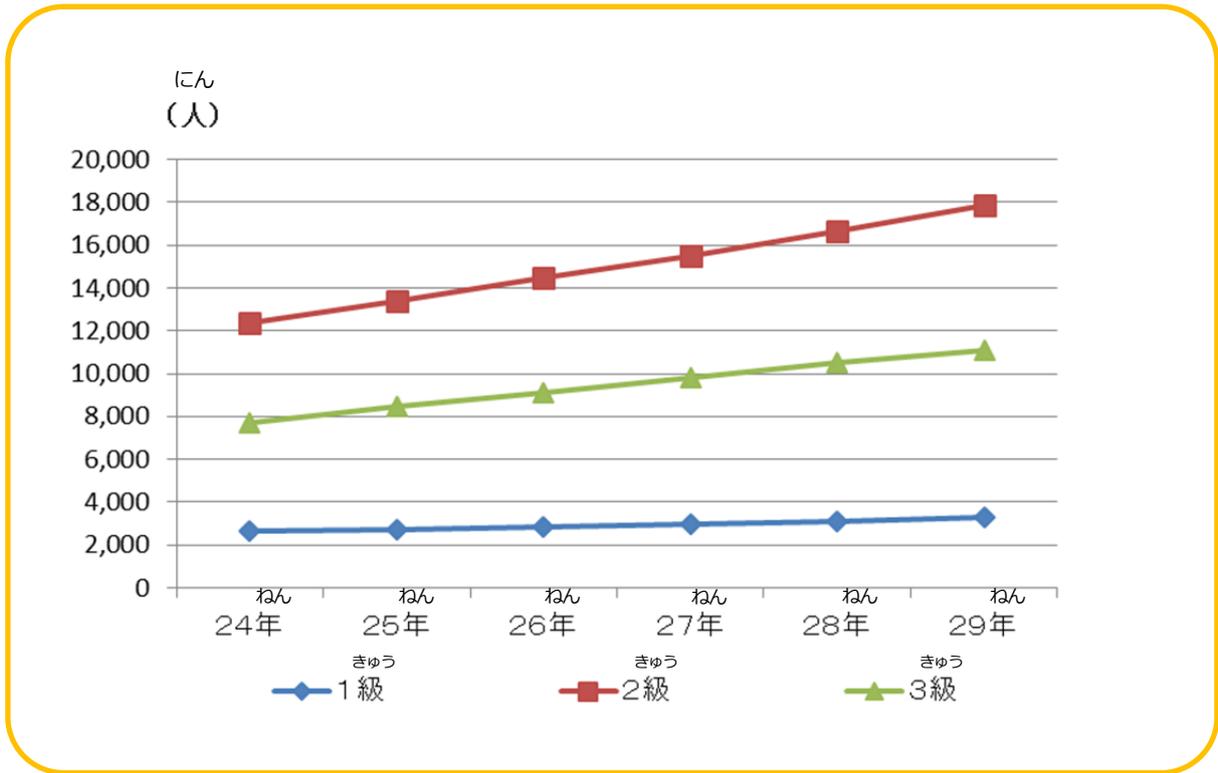


図8 せいしんしょうがいしゃ ねんれいべつすい
精神障害者 年齢別推移

